
隠されし座・京都テキスト

植木じじ師匠

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

隠されし座・京都テキスト

【Nコード】

N7159U

【作者名】

植木じじ師匠

【あらすじ】

京都、わたしにとって忘れられない街。そこには幻影のような記憶が。

京都府向日市物集女町・第二回生病院

京都府向日市物集女町・第二回生病院

黒いボートの黒い水に浮かんで、ボクは漂流した。

空振りだった。

カークランドの豪快な空振りだった。

誰が、どこで、何を考えようと構わないが、よりによってボクは一九七〇年のタイガースの、カークランドの空振りを思い出した。

ピッチャーは堀内で、ツアアウト・フルベース・ツースリーだった。

堀内が大きく振りかぶり、切れの良いカーブを投げ込む。カークランドのバットが空を切る。

堀内がベンチへと歩き出し、カークランドはヘルメットを地面に叩きつける。

そういう時代があったのだ。

誰にでも予想できる結果が、すんなりと達成されるという時代だ。

その結果に対して、誰もが納得した時代だ。

ツアアウト・フルベース・ツースリー。誰が考えてもカーブだった。

日本中がカーブを待っていた。

しかるべき時が来て、堀内はカーブを投げ、カークランドはカーブを打つためのバットを振る。

そしてボールはバットに当たらず、豪快な空振りと観衆のどよめきだけが残された。

誰が善で誰が悪か、善は常に勝ち、悪は常に滅びる。

ボクにとっての一九七〇年は、そういう時代だったのだ。

京都発雷鳥のなかで・ことばの星灯り

京都発雷鳥のなかで・ことばの星灯り

一九九一年十月一日

こころのはなしをしたよ
きょうとで

こころの
どうぶつてきなこととか
すいみんの
こととか
たのもしいところとか
はなしをしたよ

ぼくは
らいちようのなかでも
こころのことをかんがえていた

ゆめの
なかのこころ

しゃべったり

はしつたり
あばさけたり
さかしまになつたり
ちをだしたり

いつだつたか
おかあさんと
こころのにおえをかい

まるかいて
つりめかいて
ぶたばなかにて
たらこぐちかいて
ふくみかいて
とんがりげかいたら
おしまい

さんになで
わらつた

らいちように
のると
きづくこともおい

ぼくのこころのなかのこころも
せいちょうしていく

みえない
せかいで

こころは

一九九一年七月四日・ことばの星灯り

一九九一年七月四日・ことばの星灯り

あきおさんがせんきょかに
のっているあいだ

ぼくたちはたきをみていた

たきのかぜはいわはだのくさの
はのうえのほうをふいていた

ふかれていたのはよんひきの
しろいちょうで

こころはそのしろいかぜをおったが
しろいちょうがしろいはなにとまると
ぜんぶがなくなるみたいだった

たきのみずは
こころがなくほどつめたく
ぼくがはいると
いたくてきょねんとおなじだった

あのととき

こころはまだ

なかった

あったのは

わたしとみすずのふたりだった

しろいはなにとまっただしろいちょうのように

こころは

はじめからわたしたちのなかに
いたのかもしれない

みえなかったけれど

とまっていたのだとおもう

よりみち夢日記

水の中へ、水の中から

水中から何か、ここでは金の鍵なのだが、それをとらえようと主人公は動き出す。

女神が金の鍵を海に投げ込む。

ハワイ行きのかかった鍵である。

レース状況に追い込まれ、主人公は海底へと旅立つ。

童話であれば、投げ込むのは人間で、

あなたの鍵はこれですか？

水中から現れるのが女神だ。ここで正直に告げれば、金の鍵が手に入る。不正直であれば、地獄に堕ちる。

すこしだけHな雑誌を買おうとするが、それが定まらない。週刊新潮ではノンHだし、週刊プレイボーイだと若すぎる。フライデーもスパも裸が多すぎる。

中途半端じゃなけりゃ、生きられないと歌ったのは誰だったか。

今出川通り烏丸・同志社大学

今出川通り烏丸・同志社大学

ダイアナ妃は、ボクが昼寝をしている間に、京都中をぐるりと一周してイギリスに戻った。

何も起こらなかった。1986年の事だ。

ボクは何も企んではいなかった。それが証明されたのだ。

ボクの文章はボクの生活を含んでいる。生活が文章を含む前に。

文章が生活を規定しつつさえある。

ボクは知っている。

火のように生きながら、水のような文章を残した人々の事を。
水のように生きながら、火のような文章を残した人々の事を。

しかし、今のところ文章がボクの生活を方向づける。
ボクは小説の中で日常を過ごす。

洗濯する事、食事をする事、生ゴミを出す事、夜中にゴムボートを膨らませる事、膨らませたボートに水を張る事、水の中に浮かぶ事。

どれもこれもが、小説に書いた通りだ。

京都大学時計台の左手・教育学部のいもうとあるいはむすめ

京都大学時計台の左手・教育学部のいもうとあるいはむすめ

いもうとが原因不明の微熱におかされている。

こどもは何かの信号として熱を出す事がある。

もしかしたら、「家」に帰りたがっているのかも知れない。幼
い頃、ボクは旅行に連れて行ってもらったたびに熱を出した。

しかし

いもうとの熱は「家」にいるのに出ているのだ。
入院させなければならぬ。

大学病院にいもうとを連れて行く。

総合受付で部屋を教えられる。

「第一交配研」

と表札の出たドアをノックする。

ふたりの看護師がボクたちを招き入れる。

原因不明の微熱なのです。

ふたりの看護師がひそひそと相談する。

これは害にはなりませんから。

と、サロンプスをいちまいいもつとの鼻の上に貼る。

いもつとは涙をポロポロながしながら、ちいさくクシヤミをする。

左京区下鴨京都府立植物園・ことばの星灯り

左京区下鴨京都府立植物園・ことばの星灯り

さばえのしやくしよをさがして

さばええきから

でんでんこうしやにでんわした

こえはきこえず

ひるまの

よつぱらいだけが

ぼくのそばで

おおこえをだしていた

さばええきの

かいさつのまえで

ひやけしたほりぐちにあった

りやかーをひいて

らっきょうのうかで

あるばいとをしているといった

みょうなきぶんだった

ぼくは

こころとおかあさんをもつて

しょうせつはかいていない

かれはかいているのだろうか

いまでも

東大路今出川

東大路今出川

午前9時。

授業に出ようと御影橋を渡る。賀茂の流れは聞こえない。

百万遍交差点の信号待ちで、精神科医Sが東山通りを下って行くのが見えた。

そうだった、今日は約束の日だった。

走る。

Sと同じ時刻に診察室に入らなければならない。

ボクが駆けこんだのはみすばらしい居酒屋だった。
『生ビールあります』の近くにいた中年の女店員に声をかける。

S先生は？

奥ですよ。

との返事。『飲み物は何になさいますか』と聞かれ困っていると

ら。

どうやら真剣な話らしいから邪魔しないでおこつかし

と言う。

ボクは自分が酒場にはふさわしくない、青白くこわばった表情をしている事に気づくのだった。

ナカニシヤ書店前

ナカニシヤ書店前

時計台前の広場でマツダとすれ違う。

パーマをかけ、高校時代の哲学的風貌とは別人だ。声はかけずに通りすぎる。昔のヤツとはかわりたくなかった。

マツダの方が気づき後ろから声をかけて来る。

どうして呼び止めてくれなかった。

と詰め寄って来る。

しどろもどろの言い訳をしていると

今度、飲みにも行こう。

と去る。

マツダは工学部のはずだった。

ナカニシヤ書店で三人連れのヤクザにつかまる。

話がある。

マツダの居場所を吐け。

背の低い男が首を絞めあげて来る。

マツダについては、ボクは何も知らない。

よりみち夢日記

鰻を釣る

海辺の別荘にいる。

友人に誘われて能登半島の先端まで来た。

別荘の一角が海にせり出している。

部屋の中にも、膝下が水につかるぐらいに、海水が入り込んでいる。

ボクの足元には何匹ものエイが悠々と泳いでいる。

別荘の部屋の中で魚を釣る者もいる。

海に臨む別荘のベランダから魚を釣る。しが釣り竿を垂らすと、タコの頭が引っかかる。

釣り竿を借り、エサをつけて垂らす、エサだけ食われてしま
う。

何度目かのエサをつけて、釣り針を渾身の力で投げる。釣り針
が釣り糸の張力のせいで、外サイクロイド曲線を描きながら飛んで
いくのを目で追う。

巨大な魚の影が海に映るやいなや、それは跳ね、空中で釣り針
に食らいつく。

獺だ！

獺は海に棲んでいたのだ。

予期していた通り、獺は糸を食いちぎり、姿を消す。

西袋町・河和田中学校（廃校）

西袋町・河和田中学校（廃校）

入学式の朝。

河和田小学校を卒業したてのわたし。

その隣の河和田中学校（廃校）の入学式の朝でもあり、最初の学力テストの日でもあった。

ボクは遅刻しそうになり、父（故人）に頼む、クルマで送ってくれと。

初めからオレに頼ればよかったのに。

とうなづく父（故人）。

父（故人）が死んだのは2002年だった。

福井市の済生会病院で胃癌で死んだ。肝癌があちこちに転移し、最終的には胃癌で死んだ。

父（故人）のトラックに乗りこむが、クルマの方向が学校とは逆だ。

ナカミチに行く、県道はこの雪だと渋滞する。

と言う。河和田中道プロジェクトでもわかる通り、中道はクルマにとっては狭い。

対向車とすれ違ったびに、ドシンドシンと音がする。父（故人）の運転は、まるで自分から正面衝突を呼び寄せているかのようなのだ。

父（故人）は酔っているのか。

その通りだ。

と父（故人）。

青の福井鉄道路線バスを追い越すと、ようやくヤマギシ食堂の交差点に出る。

結婚式だろうか、葬式だろうか、黒い服を着た大勢の人たちが道路で一台のクルマを見送っている。

その群衆の後方から父（故人）のトラックが突っ込む。

人々が、フロントガラスに当たり、紋白蝶のように鱗粉を残し

て散っていく。

これまで何匹の蝶を殺してきたことか。
このフロントグラスで。

錦小路通り・十一月祭の少年

錦小路通り・十一月祭の少年

錦市場を西に歩いている。アーケード街を見てまわる。アイスクリームを補充したら、直ちに百万遍までもどらなければならない。

大学は十一月祭の真っ最中だった。

クラスでアイスクリームの屋台を出していたのだが、材料が切れてしまった。

祭りの露天商のような灯りがともる錦小路通り。

梶井基次郎が『檸檬』で描いていたのはここだったか、いや寺町だったか。

屋外特設ステージでは山下久美子が歌っていた。

普段なら野球部の硬式ボールが危なくて近寄れない場所だ。

観衆の中心に、ボクはあの少年を見つける。

けれども、いつもとは様子が違う。まるで背中にピストルでも

突きつけられているかのようにだ。

まさにその通りだった。

指名手配中のふたりの殺人犯が少年を人質にこの群衆にまぎれ込んでいたのだった。

ラッシュ時の地下鉄の階段を、流れに逆らって歩いていると、殺人犯のひとりとすれ違う。少年は連れていない。気づかないふりをして逃がす。

やがてふたりめの殺人犯ともすれ違う。少年はどこだ。

地下鉄のホームの一番はしに、あの少年はいた。

少年に声をかける。

もし、君が死んだとしてもボクたちがなんとかする。けれど、ボクたちが死んだら、君がなんとかしなければならいんだよ。

少年はかなり混乱しているようだった。

鯖江市大門道・実家

鯖江市大門道・実家

実家で朝飯を食べている。

家から高校まで行くのに九〇分はかかる。それも七時七分発の始発の福井鉄道バスに乗り、福井鉄道に乗りかえ、田原町まで電車で揺られる。

そこから歩いて五分、ようやく始業直前の教室に飛び込む。

あわただしい朝がまたやって来る。

しじみのみそ汁のお椀の向こうに、何かが動いた。本で叩こうと身構える。

ゴキブリが現れる。

父（故人）の目の前を歩く。父の手が素速くゴキブリを捕まえる。素手でだ。

ゴキブリは二匹いた。二匹のゴキブリはトンボのように交尾中だった。

父（故人）は、ゴキブリを繋いでいた黒い棒を、ポキンと折ってから解放する。

ボクが『ちゃんと殺さないと』と言う。

父（故人）は、

いや、既に彼等は死んでいる。

と言うのだった。

ボクはゴキブリが見えなくなるまで追いかけてから、家を出た。バスが来る。

服部薬局はまだ開いていない。

よりみち夢日記

海に棲む獏

夢は必ず終わる。

釣りの獲物は、夢を食べて生きるという『獏』。

獏は、夢に『獏』が出てきた『獏の出た夢』を食えるのだろうか。もし食ったとしたらどういう化学反応が起こるのだろうか。

ボクは、何をエサにして『獏』を釣ったのか。

夢？

しかし、それは失敗に終わる。

『金の鍵』を喜び勇んで取りに潜ったボクだったが、大物の『海に棲む獏』は、ちらりと姿を見せただけで深海にもどってしまふ。

けれども、ほんの一瞬ではあったが、獲物に接触出来たのは進

歩だと言えるだろう。

そして、ここを境にして、ボクは実際の何かをとらえたすのである。

東大路二条・熊野寮

東大路二条・熊野寮

ボクはひよっとしたら間違っているのかも知れない。

ボクの生活は不安定でみすばらしい。

役所に届けを出さずに、何時からでも何処からでも止める事が出来る。

何日かぶりに伊勢田のアパートに戻ってみると、何通かの封書がドアにはさまっていた。

ヘルメットをぬぎ、明かりを灯した。

ローンの返済通知、ここ十数年も会ったことのない友人からの結婚式の案内状、それに市役所衛生管理課からの公式文書だった。

僕は、ローンの通知を裂き捨てた。

会っていない友人からの案内状には、切手のはった葉書が同封されていた。『出席』に丸をつけ署名した。広島の消印だった。

いまさら、と思ったが、久しぶりにこの街から遠く離れるのも悪くない。

確かに僕たちは十何年前に、同じ大学の同じ大教室で、同じ講義を聴いた。しかし、つながりは何もなかった。僕の言っているのは精神的なつながりの事だ。

僕はクラナガから何の影響も受けなかったし、彼にしても同じ事だと思う。

京都大学熊野寮207号室。

同じ酒で同じように酔い、バイクや女性のことと長い間同じ場所にいたが、お互い、学んだ事は何もなかったように僕は思う。

結婚式か。

と、ボクは思う。

二十代前半に四つの式に、二十代後半にやはり四つの式に招か

れた。この数が妥当かどうかはわからない。

しかし、賢明だったことは、二回目の結婚式でアリマ先輩の忠告を入れて、礼服を一式買い求めた事だったろう。

ボクは一着の礼服で、残りの六回の結婚式に出席し、ネクタイを替えるだけで同級生の葬式に三回参列する事が出来た。

最後の使用から数年経って、また礼服が立て続けに使われる時期が来たのだろう。

福井市文京三丁目・藤島高校

福井市文京三丁目・藤島高校

講堂での全校集会のために、五階にある教室から下りなければならぬ。同級生達に混じって外の非常階段を使う。

まただ。コシノサンセン・アツマリデ。

校歌斉唱から始まり、君が代で終わる。校長の長々しい橋本左内伝説。

コケノムスマデ。

校舎を取り巻くようにして、非常階段はいびつな螺旋を描いている。段と段のすき間から下界が見える。

歩けない。

内階段にまわり込む。

内側の階段も中央を吹き抜けにしての螺旋階段。壁に体をこするようにして腰をひいて下りて行く。

壁がざらざらすると思ったら、すべて本棚だ。不揃いに置かれた本の背表紙が、自分の背中をこするのだった。

内階段の螺旋をぐるぐると下りて行く。
中央の空洞に果てしなく近づいて行く。

気づくと空洞の底に立っている。底もやはり本で埋まっている。しかも空洞の中心に向かって緩やかに傾斜しているので、アリ地獄のようにずるずると空洞の真ん中に引きずり込まれて行くのだ。

寺町通御池上る・京都市役所

寺町通御池上る・京都市役所

次にボクは市役所からの封書を手に取った。1986年の初夏だった。

暗号のような数字があり、それからボクの名前があった。

当組合の調査では

と、文書はいきなり本題に入った。

あなたは現在

と美しいプリンタの文字が並び、

市町***番地

と、手書きの住所がはさまり、再び整った明朝体にもどった。

に、常時居住されているのか、いないのか判断しにくい状況下にあります。

ひどく切羽詰まった文章だった。

しかも『常時居住』と『判断しにくい状況下』という箇所に、赤鉛筆でアンダーラインがどこされていた。

さらに文書は述べる。

このままですと、居住の有無に拘わらず、し尿料金がかかりますので

と、アンダーラインなしの文章があり、

至急

と、再び赤のアンダーラインが始まり、

居住の有無をご連絡下さいますよう、宜しくお願い致します。

と、結んでいた。

日付、『氏原』という朱印、そして京都市役所の電話番号だった。

愛着のもてる公式文書だった。

『いないボク』が、ここにはいない、と市役所に電話をする。

内容といい、活字と手書きのバランスといい、赤のアンダーラインといい、とても好感の持てるスタイルの手紙だった。

ボクは机の引き出しの奥から押しピンを取り出し、壁に文書を
はりつけた。少し離れ、しばらくの間眺めてみた。

ボクは再確認した。

自分の生活がひどく不確かな事を。

もし、そういう相手がいるとしての仮定だが、ボクの向かいに
きちんと腰掛けた男がいて、約一時間の間、ボクを観察できたなら
ば、ボクは揺れて見えたのだろう。

東京都深川区横十間・水原ヒロシ

東京都深川区横十間・水原ヒロシ

人気のない幼稚園に忍び込む。

東の空からは湿度の高い夜特有の赤い月が昇る。

ひとりの男と、ひとりの女が裸で絡み合う。

背後に人の気配がして振り向くと、水原ヒロシがいた。水原はボクにテレビカメラを担がせる。

アベックを撮影しろ。

部屋が暗くてISO感度を目一杯上げなければならぬ。

ボクは大声で叫ぶ。

もつと光をよこせ。

テレビスタジオの照明係が女性の顔を照らし出す。パシン・パシン・パシン。電子の流れる音がする。

女性は由美かおるだった。スポットライトを浴びて、年相応の肌が露出する。

カメラをボクはまわし続ける。

福井市文京・藤島高校の踊り場のピアノ

福井市文京・藤島高校の踊り場のピアノ

一台のピアノがある。正確には1976年の藤島高校一年八組の外。三階の廊下を下りた踊り場に巨大なハモニカみたいなグラウンドピアノがあった。

蛙の合唱かと思えば、天知真理、かと思えばモーツァルトが聞こえるというあんばいだった。そうだ、『ねこふんじやった』をニシオが弾いていたっけ。

1977年、英語の授業中に窓の外を見ていた。

マツダが言った。

オレ、自分が肉体を離脱して窓から飛び降りるのを見たんだ。

ホントかな。けど、アイツの兄貴はそうやって自殺したんだよな。

英語のゴリキセンセは、バートランドラッセルの『幸福論』をわたしたちにあてがった。難関大クラスだった。

が、訳せても意味が全然わからない。

こんなの日本語で読んでもわかるもんか。

ゴリキセンセの娘さんは、京都大学の後輩にあたる。

わたしは卒業するのにずいぶん手間取ったので、二二下の彼女ともわたしは同じ授業を受けた。顔を覚えていないところを見ると、別嬪さんではなかったのだろう。

カヲリさんも、ハツミさんも『幸福論』を読まされていた。わたしは『幸福論』を暗記しようとしていた。

マツダは、自分自身の『幸福論』を書いてから、東大に行った。

ラッセルなんて今は流行らない。少なくとも勝木書店には置いてない。やる気がないのでなく、売れないから置かないだけの事だ。

烏丸丸太町・京都御所

烏丸丸太町・京都御所

最高に近い学府を出て、最低に近い職業に就いているボクを見て、疑り深い人々は、ボクが何かを企んでいると考えているらしかった。

京都御所の付近に下宿していた頃と、イギリスのダイアナ妃の訪京と、ボクの失職とのみつつが偶然にも重なった時、ボクとボクの部屋は京都府警のふたりの警官によって搜索された。

ボクは彼らを快く部屋に迎え入れた。

ひとりには背が低く年配で丸みがあった。もうひとは若く、足が速そうだった。

部屋は多いに乱れていたが、彼らの発見しえた危険物は、空のゴムボートと殺虫剤ぐらいのもだった。

彼らは、机の上ののったワープロ専用機を発見し、機種と用途を訊いた。

彼らは、空のゴムボートについては何も訊ねなかった。

ボクは機種名を告げた後、ワープロの使い方について説明した。ホームポジションや、その他もろもろの機能についてだ。

ボクは用途についても説明しようとしたが、果たして、彼らに理解してもらえるかどうか自信がなかった。

十部にも満たない発行部数しかもたない同人雑誌に、少しでもましな体裁を与えるためだ、というような事だ。

ボクは仕方なくこう答えた。

見やすい文章を書くためです。

そう説明してから、ボクは、ボクの言っている事が分かりますか、と尋ねてみた。ごく親しい間柄であっても、お互いに十分に分かり合う事は、ごくまれだ。

こちらがなじんでいる思想に、相手がなじみのない場合、ボクたちが理解し合う事はほとんど不可能に近い。

The White House , Washington , DC

The White House , Washington , DC

ふと気づくとわたしのカルテがこぼれている。

Sの筆跡、Hの筆跡、Mの筆跡、名前も知らぬ精神科医の筆跡。

今度の先生はとても良い先生だから。

もう何年になるだろう。カルテが物語る。

雇りはじめのの年齢より、雇ってしまった年月のほうが長くな
ってしまった。『センセ、気づくともう中三だったんですけど』な
らば救いがありそうだが、

センセ、もう61なんですけど。

カワシマの実家に辿り着くと、ある事件の容疑がかけられてい
た。ボクにはトキヤスを殺した嫌疑がかけられていたのだった。

だがボクには完璧なアリバイが存在した。

カルテだ。

精神科に保存されているはずの分厚いカルテ。あの中の夏の午後に記録がなされている限り、トキヤスと同時に福井にはいられない。

夢を見た。

レーガン大統領のわたしが、左胸にどぎつい色のついた錠剤を入れる。防弾チョッキも着けずにホワイトハウスから外出する。

沿道には群衆。

わたしは道路の中央を歩き始める。

三条寺町・卍道書店

三条寺町・卍道書店

まもなく、午後三時、交代の時間だ。

卍道書店のレジに行くと、女子大学生アルバイトたちが、お喋りをしている。

つい先ほど、週刊誌を購入した中年の客が誰なのかを、確認し合っているのだった。

京都信金のタケモトさん、シリアルナンバー1421やわねえ。

わたしは記憶が苦手で、いつも店長の目を気にしている。顧客の名前とシリアルナンバーを確実に覚えなければならない。

アルバイトと交代して、卍道書店のレジに立つ。

銭湯の番台のように、まわりより一段高い所に座り、わたしは『少年ジャンプ』を売っている。

山と積んだ『少年ジャンプ』が売れていく。

『少年ジャンプ』ありますか。

少年に言われて気づくと、もう一冊もない。

倉庫から補充をする。

井げたに組んで積み上げて行くが、どうもバランスが悪くて上に行けば行くほど左に曲がる。

うえき君のは独特な曲がり方をするねえ。

店長が笑う。

河和田地区、親戚の家

河和田地区、親戚の家

叔父の家に泊まる事になる。

幼くして後家さんとなったTが下半身をかさこそと動かす。手を持っていくとパンティーを身につけていない。

オナニーを手伝う。

Tは流産したばかりで、性器がはれて過敏になっているのだった。

優しくなでながら、時折、指の挿入を試みると、Tは悲鳴をあげる。痛いのだろうか。

Tの妹のRがそばにいる。

眠っていたはずが、ボクたちに気づいたらしい。

まだ小学生だった頃、家の工場に鯖高の女子学生がアルバイトに来た事があった。

彼女は、昼ご飯の後に良く昼寝をした。

わたしは座布団をかぶって彼女の下着やら乳首やらを遠くから観察したものだっただ。

Tの妹Rがボクの性器を見たいと言う。

ボクはうつ伏せになっていたのだが、勃起していた事は間違いない。

ゆっくりと体を起こす。

腕立て伏せの要領で体を上に持ち上げると、勃起したペニスが驚くくらいに黒く垂れ下がっていた。

烏丸今出川・京都御所

烏丸今出川・京都御所

ボクの言っている事がわかりますか。

『大変参考になりました』、とふたりの警官はメモ帳をポケットにしまいボクに令をした。

最後に彼らはボクの顔を強く見た。
少し足りない人種が、何かを必死に暗記しようと努力している顔つきに似ていた。

彼らは実践に移そうとしているらしかった。

クルマのナンバープレートや、犯人の特徴を一瞬にして記憶してしまう特殊な方法についてボクは思った。

警官は、人の顔を記憶するのに次の方略をとる。

対象の顔を横方向に五コマに切る。

モニタージュ写真の要領だ。頭髪・目・鼻・口・アゴ、コマのそれぞれについて、数種類の型を彼らは既に持っている。

ボクの顔は、頭髪の4・目の2・鼻の7・口の2・アゴの8と
類別された。

ボクの部屋のドアが閉じられた時、彼らの手帳に、4 2 7 2 8
とボクが登録された。

ボクの友人に警官はいない。

どういうタイプの人間が警官になるのか、ボクは知らない。

しかし、外見だけから判断しても良いとすれば、今回ボクを登
録した警官は、ボクの苦手なタイプの男たちだった。

不動産屋がボクで、何年も引き取り手のない部屋を、警官たち
に勧めているような気分だった。

香川県小豆島・用務員室

香川県小豆島・用務員室

フェリーを使って四国に渡った。

小豆島の南岸にバイクを停め、陽が傾き、海の色が黒くなっていくのを見ている。

バイクで港町のごちゃごちゃした道路を走る。

小学校の校舎。

一階の隅の奥まった所にその用務員室があった。

ボクは何かしらの用事があつて、その和室に入っていく。用務員は頼りなげな人相の小柄な人だった。話をしているうちに、押入の中から声のようなものが聞こえる。

ボクは気づく。

コイツはニセ者だ。

本者の用務員はさるぐつわをされて、押入に放り込まれているのだ。ニセ者に気づかれないように、とりつくろいながら話を続ける。

その部屋を出た瞬間に、ボクは大声で皆に知らせる。

本物の用務員が閉じ込められている！

大勢の人間が奥の部屋へと向かう。

ボクは林の中に逃げ込む。背後では、『カッツ！カッツ！』と手裏剣が木に刺さる音がする。

ニセ者の小柄な用務員が手裏剣を投げながら追いかけて来るのだった。

宇治市伊勢田町・崇文館

宇治市伊勢田町・崇文館

ボクはゴムボートの海に浸かり、漂う。

やがてボクは、日常の中で小説を過ごす。まるで、自分自身の予言者でもあるかのように、ボクは自分の流されていく方向や速さや障害物について並べ記し、気づいてみると、実生活できれいにそれをなぞっている。

未来に起こるであろう事象を、あらかじめ言い当てる事を予言と呼ぶならば、ボクにもその能力がないとは言えない。

ボクの言っているのは、ある限定された予言についてだ。

週末の予定であるとか、友人の結婚式への出欠であるとか、そういうたぐいの未来に対する予測だ。

ボクの意味に関する事だ。

時々ボクは自分自身について考えているのに気づく。

バスの中で、食堂の隅で、そして人と話ながら。

それに気づくと、ボクはひどく滅入ってしまっ

た。二十代にボクは、三十代の自分をイメージする事が出来なかった。十代に二十代の自分をイメージ出来なかったように。

たぶん。

とは、思っていた。

ひよっとすると、結婚し、子供を抱えているかも知れないと。

しかし、ボクはそれ以上、自分自身について予言する事はしなかったし、小説にも書かなかった。

おかげでボクは未だにひとりだし、子供もない。

仕事もあるようでないし、棲み家にしても、常時居住しているとは判断しにくい状況下にある。

ボクは机の前にきちんと座り直した。

ボク自身の未来をしっかりと予測するためだ。

北白川今出川・銀閣寺口交差点

北白川今出川・銀閣寺口交差点

押入からボクはゴムボートを引きずりだし、空気を吹き込み始めた。

タタミ一畳分のボートが少しずつ形を整え始める。

ダイアナ妃を襲うために用意した、あのゴムボートだ。

ボクはこの小さなゴムボートに、ダイアナ妃を乗せ海峡を渡るはずだった。

バケツに水を汲み、三分の一まで水を張った。
手慣れた作業だった。

これ以上でもこれ以下でもいけない。

灯りを消し裸になり水に浸かった。

はみ出した手足の力を抜きボクは目を閉じた。

黒いボートの、黒い水の中で、ボクはまぶたの裏に映る物を見凝めた。

近鉄京田辺駅・同志社大学合格発表会場

近鉄京田辺駅・同志社大学合格発表会場

電話の呼び出し音が鳴っている。

Mは黙っていた。

卒業するのか。

と聞く。

わからない。

ボクは約束を守れなかった事を謝った。体の調子是最悪だった。電話はひどく近いように思えた。

Mが近くまで来ている事は雨音で確かだった。

ボクは、ボクたちの殺した一匹の濡れた子羊の事を思い出して

いたに違いない。

人を殺したんだ。

と、ボクは言った。

Mが何か言った。ボクはそれを聞き取れなかった。

雨が降っていた。

ボクのアパートの近くの電話ボックスにも雨が降っていた。彼
女のまわりにも雨が降っていた。

京都府（旧）綴喜郡田辺町・京田辺キャンパス

京都府（旧）綴喜郡田辺町・京田辺キャンパス

一九七〇年の目覚まし時計が鳴り、ボクは電子音を止めた。

午前十時だった。

それも雨の朝だった。

Mはちょうど今、彼女の合否を知ったはずだった。

一五六センチメートルの彼女が一七六番を背伸びしてさがす。

十時過ぎに発表会場で待ち合わせる約束だった。

目覚まし時計は九時になるはずだった。

ボクはカップパを着込む。汗の匂いがしみ込んでいた。

外資系の企業に就職の内定していたMにとって、教員採用試験などたいした事ではないはずだった。

少なくともボクにはそう思えた。

約束は約束だった。

ボクはカツパのまま冷蔵庫を開け、牛乳と密封された食パンを取り出しオーブンに入れた。

焼き上がるまでの三分間に、ボクは歯を磨いた。

鏡の中の自分の顔を眺めながら、ボクは目覚めの前の夢を思い出していた。

鯖江市河和田町・弟が轢かれる

鯖江市河和田町・弟が轢かれる

久しぶりに弟の話をしよう。

彼は三度クルマに轢かれた。一度目は二歳の頃で、二度目と三度目は知らない。アメリカに出張していた頃なのだろう。

一度目の夏、弟は道の向こうにいて、実家の左側からトラックが来る。弟はこちらにいるわたしと、母に向かって笑って走ってくる。

コッチ来たらあかん！来るな来るな！

言葉は届かずに

ドシン。

弟は坂を転げ落ちるように、坂を登り続け、大門橋のちょうどてっぺんで止まった。

死ぬとは思わなかったが、招き寄せたようになった、声かけの罪悪感だけが残った。

トラックのオンちゃんは無事を知ると走り去る。

すっかりしていた。

カバンを開けたままにしていた。弟がのぞいている。彼が白い袋を引ひっぱり出す。病院のクスリ袋だ。

弟がわたしの秘密を知った。
彼がわたしの秘密を知った。

二条通東洞院東入・イノダモータース

二条通東洞院東入・イノダモータース

ボクは歯ブラシを置き、オープンを開け、焼けたパンを取り出した。

牛乳でパンを飲み込みヘルメットをかぶった。

部屋のカギをかけ、オートバイを動かした。

バイクは雨にもかかわらず、調子が良かった。走行中に一度もエンジンは止まらなかったし、信号待ちでも二・三度エンストしただけだった。

前日、プラグコンセントに、黒のビニールテープを巻き付けたのが良かったのかも知れなかった。

雨になるとエンストするオートバイに対して、ボクはこう判断した。

何らかの理由で、水がエンジンにしみ込んでいるのだと。

そこでボクはエンジンに直結するプラグコンセントにビニールテープを巻いた。

そして信じがたい事にオートバイは直った。

映りの悪いテレビがあれば、とにかく叩いてみることだ。

トラックの横に並び、信号が青に変わる間に、ボクはふたつの事を考えた。

ひとつはMに対する祝福の言葉で、もうひとつは慰めの言葉だった。

夢の余韻が尾をひいていた。やわらかなフクイ・メグミの感触と放出してしまった自分のペニスの感覚だ。

久世郡城陽市・国道24号線

久世郡城陽市・国道24号線

『一七六』は掲示板にないのではないかという気がした。
合格者発表の会場。Mの受験番号。

『一七六』がない場合、ボクはMに対して何をしてやれるのか。
慰めの言葉をさがしたが、見つからなかった。

どうせ、

と、ボクは思う。

彼女はきちんとした企業に入り、ぴったりの制服を着け、働き
に見合っただけのボーナスを受け取る。

しかし、何もかもが、すべて同じという訳にはいかない。

ボクは、孤独について考えてみた。

オートバイのエンジンは快調だった。

世の中には何人かの孤独な人がいる。この横に止まっているダンプカーの運転手だって例外ではない。ある人は孤独に耐え、ある人は耐えきれない。

ボクは、白髭食堂のような、トラック運転手御用達の食堂が好きた。

作りおきの総菜と、ご飯を頼むと、注文した豚汁が運ばれて来る。琵琶湖畔にも、淀川の沿道にもあった。

運転手達は、ここで一杯飲んで仮眠でも取るのだろう、ビールや日本酒を頼んでいた。

もちろん国道24号線にもあった。
ただっ広い駐車場に数台のトラック。長い間、手入れのされていない看板。

雨が強くなり、ボクはかついでしたリュックから黒のゴミ袋を取り出しかぶる。頭と両手の部分に穴を開けカップを作る。

一九九一年四月・ことばの星灯り

一九九一年四月・ことばの星灯り

いだいのせんせいが
いうの

わたしのびょうきが
すこしわるくなってるって

こころくん

わたしはすこしでも
きみといたいよ
だからしごと
これいじょうしない
きめたんだ

みどりのかぜのしばふに
こころをねかせて
とおくからみていたら
ほかにだれもいなくて
せのひくいしよくぶつのようなだった

きみは
かぜにうごくきだった
ぼくは
みなみはんきゅうの
ぽぷらをおもった

たいいんのひ
きみは
にじゅうねんぶりに
あのきのしたに
ねころんで
かぜにさわぐはをみていた

ありにあしをかまれた
あのひ

オーストリア帝国・毛織物商人ヤーコプ・フロイトの息子

オーストリア帝国・毛織物商人ヤーコプ・フロイトの息子

藤本義一が、自立訓練法を実施する。
銀色のバイオフィードバックの機材。

義一は自分の右手の小指に電極をはりつける。次に左手甲にドリルで穴をあける。肉を通り越し、骨までドリルが達する。

そばにいた看護師が

絹糸がありません。

と言う。

義一は『綿糸で良い。』と言う。骨を刺激したせいで、左腕がちょうど四五度曲がってしまう。そのまま、包帯で固定する。

精神科医エスが、夢分析から得られた結果を義一に告げる。

それは『少年の夢』と、彼の『創作活動』との正の相関関係であつた。

最近、義一が少年の夢を見ない事と、小説が書けない事には、深いつながりがあると言う。

京都市南区吉祥院・雪印工場裏

京都市南区吉祥院・雪印工場裏

幸福な気分の分け合い方なら知っていた。
問題は『一七六』のない場合だった。

ボクは、Mとふたりで羊を殺した時の事を思い出していた。

ボクたちはあの状況をどうやって乗り越えたのか。果たして本当に乗り越えていたのか。

ボクには彼女をもっと知る必要があったのだ。
この数年間、ボクたちは何を知り合ったのか。

ボクたちは、ある晩、ボクのアパートで初めて知り合った。
ボクの体の一部と彼女の体の一部とがしばらくの間触れあっていた。
先端と先端が接しただけで、ボクはすべてを共有出来たと考えた。

Mが教壇に立つ。

ボクは高校生の平均身長のことを思った。

一五六センチメートルのMが教えられるほどに、
彼等の背は低くない。

京都市左京区吉田・教養部正門

京都市左京区吉田・教養部正門

教養部の正門に似ている。

しかし、それはただの二本の柱のようでもあった。というのも、それが門である事を示すいかなる建物も、その周りに見あたらぬ。

入口・出口であるべき門がその役割を果たしていない。

わたしはルンペンのように、その門のつけ根で夜を明かした。
目覚めるとひどく寒い。

出勤のようで、その門のあいだを何人もの人が足早に通り過ぎる。

原田知世が通り過ぎた。

プンと嫌な臭いがしたので調べてみると、彼女のスカートに精液がついているのだった。

Christchurch New Zealand at Lincoln

Christchurch New Zealand at
Lincoln University

I stayed at Lincoln University for half a year in 1980's.

I worked for a pilot farm. There were 2 blocks on the farm. One was for organic agriculture, the other for the farm with chemical pesticide.

My new boss, Brian, loved the word "diversity".

We took tea breaks at 10 in the morning, at 3 in the afternoon.

Brian told me to take some herb, and gave me a paper cup. He showed me how to make herb tea.

He poured some hot water in

t o t h e c u p w i t h t h e h e r b .

e e T h e s h a d e s o f t h e W i l l o w t r
e w e r e m o v i n g o v e r u s .

I R O H I T O d i e d , a n d a n e w e r a b i
g a n . N e x t y e a r J a p a n e s e E m p e r o r H

J R学研都市線・同志社前駅

J R学研都市線・同志社前駅

ボクは道を聞くために、一度だけ薬局に入り、自分のたどってきた道に誤りのなかった事を確かめた。

一本の、大きく揺れる長い橋を渡り、目的の、見慣れぬ大学の一角に辿り着いた。

私大は、ひどくこざっぱりとしていた。
デイスニーランドの園内のように清潔だった。

学生たちへのしつけが行き届いているか、学生がいないかのどちらかだった。

雨が本降りになりつつあった。

掲示板の手前の駐車禁止のゾーンには、数台の黒くて大きなクルマが停まっていた。二〇分ばかりの遅刻だった。

ボクはオートバイのエンジンを切り、ビニールでおおわれた白

い掲示板の前に立つ。

Mはいなかった。

『一七六』もなかった。

『一七二』の次が『一八〇』だった。

越前市片親地区・疲れたなら

越前市片親地区・疲れたなら

ラーメンが好きな訳ではありません。

子どもたちと、手頃な値段で、しかも食あたりがない。調べて行けばハズレもない。それがラーメン。

野球の一郎選手は、午前中からカレーなのとか。

二日酔いの一郎選手の食いつぶりが見てみたい。

カレーライス、ではなくラーメンです。

左京区の銀閣寺交差点で喫茶店に入ってカレーを頼んだら、ボンカレーを煮はじめた、あれはいかんともしがたい。

食べましたけど。

わたしはテレビを見ないスタイルなのですが、つけっぱなしのTVは仕方ありません。

マラソンの人が前日にカレーを食うのを見ました。
生だとあたる可能性がある。隠岐の島でのマラソンだったと思います。

で、当日本人は脱水状態で戦線離脱。

つかれたなら
眠りなさい

だれかに
いつて欲しい

夏のカレーライス、食いました。

ドイツヴェルテンベルク王国ウルム・確率論

ドイツヴェルテンベルク王国ウルム・確率論

掲示板の数字を見ていた。

Mの『一七六』のすき間の事だ。

日本では小学校から確率を教えるが、アフリカではどうだろう、新生児が死ぬ確率とか、生き延びる確率とか。

ギャンブルも行われているに違いないから、それなりに確率論は世に知られているのかも知れないが。

質量はエネルギーだ、と言い出したのはアインシュタインだったと思う。

イー・イコール・エム・シーニジョウ。

後にノーベル平和賞をもらっ、ボクの将来の息子が新たなる発見をするのだった。

確率はエネルギーだ。

つまりエネルギーは確率だ、という事だ。

Mの『一七六』のない掲示板、しかも雨の掲示板を、最初から最後まで目を通したが駄目だった。『一七〇』の前に『一七六』のある確率は〇。『一八〇』の後も〇。

確率は〇。

ボクは、横の列と縦の列をかけあわせ、合格者の人数の合計を概算してみた。その次に、おおよその競争倍率を出してみた。

ボクは再び、『一七六』と『一八〇』との間の狭いすき間を見つめた。

こんなもんな。

というのが、正直な感想だった。

番号を初めから追ってみる。

続き番号があったかと思うと、しばらくは離れるが、しかし二〇も離れる事は決してなかった。

質量はエネルギーなのかも知れないが、確率0は何のエネルギーも生まない。

左京区鞍馬貴船町・必然か偶然か

左京区鞍馬貴船町・必然か偶然か

サイコロか、クジでも決めたかのように、非常にバランスの取れた選ばれ方だった。

考えようによれば、均整が取れすぎているようにも見えた。

しょせん人間の行為はこのようなものか。

人間が答案を書き、人間が採点すると、あたかもアトランダムに選んだかのように見えるのだ。

どうしてMの受験番号がないのだろう。

どうして、彼女の美しい番号が削除されているのだろう。

約束の時間は四〇分ほど過ぎていた。

帰りの道の上で、ボクは彼女についてひとつ、僕自身についてひとつ、あわせてふたつの事を知った。

福井県敦賀市明神町・日本最古の軽水炉

福井県敦賀市明神町・日本最古の軽水炉

半島の先端に、あの少年は閉じ込められていた。

ボクは半島の施設に忍び込み、鍵を開け、門を開放した。

門の外に出ようとしていた小型のトラックに、ボクと少年が飛び乗る。

脱走に気づいた原子力発電所の職員が、大砲を撃ってくるはずだった。あの山陰まで早く行きたい。

海に沿った道路が、原発からの視界の効なくなる場所だ。

大砲の弾はあと一発しか残っていないはずだった。しかし、その一発が当たらないとは限らない。

トラックが停止する。

荷台の中で息を殺す。

ピンポン

チャイムが鳴り、『はい』と返事をする、中国人が荷台に上がってきた。英語を使う。事情を説明する。彼はわかった、と言った。

ボクは

N i c e t o s e e y o u a g a i n .

と言ってしまふ。

しばらくはマークされる事になるだろう。

河原町通り・無人の三条四条間

河原町通り・無人の三条四条間

ボクが知ったふたつのことのうちのひとつは、Mが決して弱くはないと言う事だった。

ボクが支えていなければ、倒れてしまうほどに弱くはない。

そして、もうひとつは、ボクのMに対する気持ちだった。

ボクたちは、これまで、わりとうまくやって来たように思う。

どこかで何かをとりこぼしても、最終的には、どこかで別の何かで埋め合わせをした。

ボクは彼女に変わって欲しくなかった。

ボクも変わりはなかった。いや、ボクが変わってしまったのか。

オートバイはアパートに向かっていた。

アパートにもどり、どうするのか。

Mに連絡を取った方が良さそうだった。

Mの番号を押すと、いつもの受付が出る。受付は、彼女の苗字のついた病院名をボクに告げる。

ボクは、自分の名と用件を電話線のこちらから送る。

受付は、不機嫌なトーンでボクを待たせ、まだ戻ってない事を教えた。

一九九一年五月二十三日・ことばの星灯り

一九九一年五月二十三日・ことばの星灯り

きよじんぐんが
またまけた

おしゃかさまのいうとおり
このよのことは
みなまぼろしなんだろうか

わたしもみすずもころさえも
みんなまぼろしなんだろうか

だににくわれてできた
このうでの
いつつのあかくつながった
あかいほしもまぼろしなんだろうか

きょうはこころと
いけをみた

かげろうつじかんで

わたしはあとじゅうななじかん
みすずはあとじゅうはちじかん
こころはあとよんじゅうはちじかん

あつてないような
なくてあるような

いきられるじかん

いちにち
いっしゅうかん
いっかげつが
いきつぎのひまのないほど
ながれていく

こころが
じかんをしいしはじめてから

九条大宮・東寺五重の塔

九条大宮・東寺五重の塔

ボクが初めてMの家を訪れたのは春で、入り口は彼女の父の個人病院の通用門だった。

門をくぐると、五階建てのビルの奥に二階建ての和風の家屋があり、そこが彼女の家らしかった。

彼女の部屋でボクが見たのは、大きめのベッド、平凡社の百科事典、巨大なふたつのぬいぐるみ、それに南向きの窓だった。

ボクたちは、彼女の部屋では決して寝なかった。

Mの柔らかい体に触れても、ボクは勃起をしなかった。

一度も会わなかったMの父親や、母親が、ボクに影響していたのだと思う。

ボクたちは、ボクのアパートで寝た。

Mはほとんど声をもらさず、ボクも黙っていた。

終わると、Mはボクに物語をせがんだ。今思えば奇妙な慣習だった。

彼女が物語の出だしを設定し、ボクがそれに続けて物語を作らだした。

Mの作った枠の中で、ボクは遊んでいたのだと思う。

ひとりの人魚が恋をする季節になった。

と、物語の出だしが設定された。

ボクは、口のきけない人魚と、魔法で人魚にされてしまった男の物語を作った。

ありふれたおとぎ話だ。

男は人魚の口を開こうと、ありとあらゆる困難に立ち向かい、

人魚は男の魔法をとこうと魔女と戦う。

ふたりは愛し合った。

夜の海の深くで、人魚が卵をまき、男が精子をふきかける。それが人魚のやり方だった。

快感のない排卵、快感のない排精子だった。

アラブ首長国連邦・GDPは一テラ億ドル（約二京ベクレル円）

アラブ首長国連邦・GDPは一テラ億ドル（約二京ベクレル円）

敦賀原発に立てこもる犯人の持っているのは、何しろ、原子爆弾、死の灰のつまった爆弾。

列車からなるだけ遠くまで逃げる必要がある。ボクとその少年が列車の窓から飛び降りる。

ひまわり畑を駆け抜けるボクたち。

ひまわりの種が右耳に刺さる。少年の左耳にも。

ひまわりの道があみだくじになっている。

真っ直ぐに進みたいのだが、前進につき一度だけ左右に振られる。

あれ、ミズカミはどうしたのだろう。

ミズカミ？

少年と空港のエレベータに乗りこむ。

先客がいてマサアキだった。テレビでよく見る平尾マサアキ。

失礼ですが、平尾さんですか。

サインをしてもらおうかとも思う。
断られてから、非常時だと再認識する。

どちらへ？

と聞くと

沈殿へ。

アラブには金持ち専用の核シェルターが存在し、大阪からアラブまで船で行き、紅海の底深くに潜り32年間避難生活をおくると言う。

本当は、飛行機で避難すべきなのだが、苦手な船での移動を

決めたのだとか。

少年は自分も大金持ちだと言っのだが。

大沢野町風の城で・ことばの星灯り

大沢野町風の城で・ことばの星灯り

わたしが

かぜのしろでえたもの

いかり

おかあさんと

おかあさんのおかあさんが

こころの

めんどろをみないよなかに

わたしは

かぜのしろのへやの

はしらをけた

だまっ

どすん、どすん、どすん

よなきのこころは

なきやまない

おばあちゃんは
わたしのこうげきせいにたじろぎ
おかあさんは
ころをだきよせ
あのじょう
かぜをひいた

わたしはひとりだまって
にじかん
こうそくをはしった

ほんだの
こんちえとだった

いかり

いえについて
わたしはいつもどおり
しよつきをあら
おちやをわかし
せんたくをした

たにんに

ここに

あたることがないように

わたしはひとりでいたほうがいいのかもしれない

すうがくてききのうほうのもんだいをかんがえたよる

ひとりで

じつと

うごかないようにして

第3新東京市市営住宅第22番建設職員用団地6号棟・トミオ

第3新東京市市営住宅第22番建設職員用団地6号棟・トミオ

蔵のドアを開けてもらうと、中はからっぽだった。わたしの今使っている部屋よりも広くて清潔に見える。

ここに移っても良いだろうか。

と大家に聞く。

今までと違い、夜更かししても正門を通る必要がない。

日当たりはほとんどなさそうだった。

蔵の中には一台の卓球台があり、中国人が練習をしていた。カブトムシが相手をしていた。

トミオはどうだ？

と質問すると、

あいつも強い、と中国人が応える。

三条麩屋町・河原町丸善

三条麩屋町・河原町丸善

ボクたちは、羊を殺した後、街を歩いた。

Mは、ボクのどちらかの腕に手をまわし、街を歩いた。

三ヶ月の胎児というのは、にぎりこぶしくらいの大きさかしら、とMが言った。

彼は、ずぶ濡れの羊に似ているんじゃないか、とボクは言った。

ボクたちは羊を殺したのだ。

三条から河原町を下る。

Mが丸善でモンブランを買い、ボクに渡す。高価なペンだった。ボクはそれを受け取った。

道の途中で、ボクたちはパンフレットを手に入れた。
南の島の透き通るような海を眺めながら、ボクたちは歩いた。

Mはどこかに逃げたがっていた。

ボクの部屋には、ゴムボートがひとつあった。しかし、どんなに狭い海峡でさえ、ふたりでは渡れそうになかった。

阪急のシースルーエレベータで八階まで上った。

ボクたちはワインを注文し、薄暗い照明の中で何時間か、黙って向かい合っていた。

伊勢市宇治山田・シャーマニズム

伊勢市宇治山田・シャーマニズム

母が布団を敷いている。

母は腰が痛いのだと言う。そうは見えないが、腰痛とは他の人には分からない性質のものなのだろう。

今夜、父の車で治療を受けに行く。

こんな真夜中にどこへ行くのか尋ねる。

ミコだ。

『巫女』という漢字が頭に浮かぶ。果たしてそんな治療が効くのだろうか。加持祈祷にすぎなければならぬほど、悪いという事か。

ふたりは地図をひろげて目的地を確かめる。

伊勢志摩国定公園だろう。

と、ボクが口をはさむ。

『立』ほどメジャーではないが、『定』ぐらいには知られているという意味だ。

途中、敦賀にある関所をどう突破するか。

そのことをふたりは思案しているのだった。

インド・デカン高原マイソール

インド・デカン高原マイソール

目の前の残りのカレーライスを見ている。
肉が白くなっている。

ようやく下に降りたかと思ったら、高原の原っぱに二匹のペットを置き去りにしてきた事を思いだす。

書店で飼っていたペットだった。

一見、ぬいぐるみのように見える、『きらら』と『つらつ』という名前の小動物だった。

ボクたちは、瀬戸物の湯飲みを、段ボール箱に詰め込む。『きらら』と『つらら』の供養に、茶碗を贈ろうというのだ。

不毛のデカン高原では生きる事もままならない。
せめてこの茶碗で、ティーブレイクでもして欲しいとの願い。

しかし、誰がこの段ボールを『きらら』と『つらら』に届けるのか。

福井市春山・文化会館の文化祭

福井市春山・文化会館の文化祭

ステージ上の巨大なスクリーンに、脈絡のない動画がつぎつぎと映し出されていく。

『映像詩』とボクたちが名づけたデタラメの代物だった。

どうせ

とボクたちは思った。

どうせ、時間をかけたってロクなモンは出来ない

ならば

デタラメに並べたっていっしょだ

その通りで、観客からは好評だった。宇野重吉でさえ褒めちぎった。これこそが新しい芸術だ、と。

ボクたちは、文化祭の終わった夜に、そのフィルムを裂いてナイロン袋に詰め込んだ。

銀幕がジャージャーと音を立てている。

一階から二階にたどり着くと、公衆電話が鳴る。
そばにいたマエダがそれを取る。

ボクの母が入院したと言う。

ボクが受話器を奪うと、相手はボクの母だった。

母は腰痛こそあるが、元気だと分かる。『ヤナイ君のお母さん』
が病気で病院に運び込まれたのだった。

下級生のヤナイ君をつかまえて事情を説明する。

ヤナイ君が突然に変わった。
逆にボクは突然に弱くなる。

下に降りる階段が分裂する。縦というか、横というか。

空中ブランコのようにそれぞれ独立に運動するバラバラの階段。
ふたつめのブランコで身動きが取れなくなる。

京都市伏見区深草・プラネタリウム館

京都市伏見区深草・プラネタリウム館

Mはいろいろな意味で変わってしまったのだと思う。

今回の教員採用試験についても。

合格・不合格は関係なかった。ともかく、Mは動き始めたのだ。

実家不能症のボクには不利な条件が揃いすぎていた。

Mと二度ほど、プラネタリウムに行った。大学生の時間帯で、小学生もいない。

昼に東寺のそばでうなぎを食った後、ふたりで夜空を眺めた。

メガネを忘れたボクが、銀河全体をとらえ、Mは説明係の音声を聞いた。

結局分かったのは、昼に星を眺めるのが精神的健康には悪そうだったという事だった。プラネタリウムを出るとすでに夏だった。

ボクはMへの電話を切った後、しばらくは動かなかった。

すべき事は、すべて終えた。

約束の時間には、四〇分ほど遅れたものの、発表会場まで駆けつけMの不合格を見とどけた。

それも雨の中だ。

慰めの言葉を探しながら電話を入れた。

手順としては申し分がなかった。

それ以上あるとすれば、Mからの電話を待つ事だけだった。

もし、とボクは考える。

Mが未だにボクを必要としているならば、何らかの連絡があるはずだし、そうでなければ、ボクたちはここまでだったと言う事だ。

左京区岡崎・京都市動物園

左京区岡崎・京都市動物園

吐き気がして、台所に走った。

朝の牛乳とトーストが出た。吐くだけ吐き、正露丸を飲んだ。

十分ほどして再び吐いた。

少量の水分と正露丸が出た。

何も口に入れてはいけないようだった。

それから十分ほどして、ボクは再び台所に立った。
空気が出た。

ボクは物事を理性的に考えてみようとした。

Mの不合格に、ボクの責任はないと思いこもうとした。

何年か前にカウンセラーに教わった方法だった。

Mは受験した。

ボクは、試験制度や内容について何も知らない。

ボクには時間的にも能力的にもMを援助する事は不可能だったし、実際、援助はしなかった。

つまり、Mの不合格にボクはまったく関与していない。

今、まさに溺れている人に対して、同じ気持ちになる必要なんてない。自分も溺れてしまえば、助ける事が出来なくなるからだ。

しかし、頭は頭、胃は胃だった。

カウンセリングは何の効果もなかった。

ボクは何度も吐き気の発作に襲われ台所に立ったが、結局何も出ないままだった。

いもうとを・鯖江市日田中山交差点でのひき逃げ

いもうとを・鯖江市日田中山交差点でのひき逃げ

川島町へ、ひとまわり離れたいもうとと歩いている。

わたしが中等学校一年の年に生まれたいもうとである。写真には、乳母車をひくおとうととわたしがいる。

交差点を渡ろうとすると、一台のクルマが右側から来てわたしたちに激突した。

爆発を恐れて妹を抱きかかえて身を伏せている

いもうとが息をしていない。

生きているのは分かる、が、息をしていない。

いもうとは

シタジキ

なのだった。

ボクは文房具のシタジキを抱えてオロオロする。消防隊員に

早く病院に。

と言われる。

ある人は

明日で十分

と言う。

彼によると、ほんの少しの延滞料金が発生するが、救急搬送とに比べると格段に安いのだった。

東京秋葉原駅前・不要品無料回収

東京秋葉原駅前・不要品無料回収

五時間待ったが、何の連絡もなかった。携帯電話のなかった時代だ。

雨は降り続いていた。

ボクは部屋を見直した。

ひどかった。

吐き気がするのも無理はなかった。もし、と仮定する。

ボクが絶世の美女と知り合い、彼女を此処に連れてきたとしよう。あくまでも仮定の話だ。

ボクが絶世の美男子で、精力絶倫だとしよう。しかも、だ。世界で一番の金持ちだとしよう。

しかも、だ。世界で一番の知性の持ちぬしだしよう。
しかも、
だ。世界で一番の清潔好きだしよう。
世界で一番の。の。の。の。の。の。の。

彼女は必ず此处を去る。

確信があつた。

ボクは身を閉じてみる。

さらに目を閉じてみる。

蝉が鳴いている、ストーブが音をたてている。
目を閉じる事が一番重要だ。

テレビはウソをつくけれど、声はウソをつかない。

わたしはわたしの声に耳を傾ける。

福井県越前市塚町・セブンイレブン駐車場

福井県越前市塚町・セブンイレブン駐車場

塚町のセブンイレブンに停めて、理ゐ弐君がじゃがりこ、わたしがマンゴー味のハーゲンダッツ。

クルマの中で食いながら外をぼんやりと眺めている。

セブンイレブンの配達のおじさんがトラックから荷物を出したり入れたりするのを眺めている。

隣に停まったクルマから降りてきた小太りのおねえさんが、ゴミ箱にペットボトルを突っ込むのを眺めている。

小学生の女の子が、スカートの、ひっかけるヒモを肩から外して、とうちゃんと一緒に中に入るのを眺めている。

音は聞こえない。

まるで陽炎に映るまぼろしのよう。音は聞こえない。

ふと、

人は、だ。

と後部座席で 아이폰 にさわる理ゐ弐君に話しかける。

人は、根元的な問いについては考えないようにしてるんだよな
あ。

理ゐ忒君に届いたかな。ま、良いか。

福井市文京三丁目・藤島高校三年三組の廊下

福井市文京三丁目・藤島高校三年三組の廊下

また此処にもどってきた。

出かけなければならない時間だが、気が進まない。先ほどまで見ていた夢の記録をとるのさえ億劫だ。

頭だけ起こして、メモを書き始める。

細い絵筆に塗料をつけて壁にメモを取り始める。

壁だと思っていたが、窓に下りたブラインドだった。灰色のブラインドに、黄色のペンキでメモを記していく。

次第に慣れて、筆もなめらかに動く。

そもそも、ここに書いても良いのか？

巻き上げている時は目立たないが、日光を遮るためにブラインドを下ろすと、夢のメモが丸見えだ。

ブラインドのメモを少し遠くから眺めてみる。
抽象画のようにも見える。

黄色いしみの中に、明らかに蝶とわかる黄色いリボンが描かれている。

大阪府池田市空港2丁目・伊丹空港へのリムジンバスの中で

大阪府池田市空港2丁目・伊丹空港へのリムジンバスの中で

ボクは自分の部屋を、空港へ向かうバスの中で思った。

自分自身の生活をシンプルにすることだ。
分かり易くすることだ。

散乱している新聞紙や、雑誌、ダイレクトメールを整理し、ト
イレットペーパーに換えることだ。

押入の中の、着る予定のない衣類を捨て去ることだ。
再読するはずもない書類を焼き去ることだ。

Mの手紙も。

ボクに必要なものは、水のもれないボートだけだ。

かつて、ボクはもつと身軽だった。

初めてこの街にやって来た時、ボクの所持していたのは、ひと組の布団と、机と椅子、ひきだしの中の何通かの手紙、それだけだったはずだ。

ボクは、長い夜を黒く塗りつぶすために、ラジオを買い、テレビを買い、数え切れないほどの本を買った。

穴の空いたカラダに、アルコールを流し込む。ホワイトが買えない日はレッド。レッドの買えない日は眠らなかった。

ボクは、色々なものを手に入れたが、失ってもいた。
ボクは、Mを手に入れたが、失ってもいたのだ。

福井市木田銀座商店街・打ち寄せる波

福井市木田銀座商店街・打ち寄せる波

減びていったのは猫も同じだった。

猫が失踪してから、ボクは眠らないよう努力した。心配だという事を猫に示したかったのかも知れない。

一週間経ってボクは、届けを出しに交番に行った。

交番は保健所を紹介した。

太った女性を相手に、猫の名前や目の色、毛の具合、年格好を話した。

彼女がボールペンで書類の空白をつめ、「これでだいじょうぶ」と言う。

確かにわたしは途方に暮れていた。

打ち寄せる波が、中央分離帯の中まで入ってきていた。この海峡を渡り切るには、自分らしいフォームが必要だよ、自動車教習所の教官に言われた。

聞き違いだった。

教官が言いたかったのは、追い越し車線ばかり走るのを止めるという事だった。

でも、路上駐車のカルマが邪魔なんです。
君はアメリカ人か。キープレフト。

教官の言う事を聞かないボクは、補習を十三回受けた。
ボクは何も悪くない。
悪いのはサイトウ教官だ。

東京都目黒区駒場三丁目・東大駒場プール

東京都目黒区駒場三丁目・東大駒場プール

東京大学にもプールはある。

冬のプールはカルガモの生息地となる。東大生が泳ごうとしな
いからだ。ボクはプールのまわりを夜中によく走った。

無人の、しかも鉄柵に囲まれた一番安全な場所。

隣のグラウンドからのカクテル光線で水面が七色に光る。ボク
は音楽を聴きながら何周でも走る事が出来た。

プールのちょうど反対側を、ボクのリズムに合わせて走る何か
を感じる。一匹の虫のようでもある。

正体は分からない。

ボクはプールの水に火をつけようとする。
ライターを水面に近づける、なかなかつかない。

ポン

音を立ててプールの水が燃え始める。

燃えるカルガモがばたと飛び去る。

火はゆっくりと燃え広がり、プールの向こうの物体を焼き殺した。
これで少なくとも一匹は片づいた。

朝鮮半島からのポートピープル・医学部前

朝鮮半島からのポートピープル・医学部前

わたしの人生のように、この文章には、何のストーリーもない。

ぼんやりと砂時計を眺めているのと変わらない。

上を下にする。

砂が上に落ち始める。

砂が落ちきり、わたしが下を上にする。

作るのとも違う、壊すのとも違う。

あるいは、水泳の息つきに似ている。

苦しくなれば顔をあげ、息をしたら顔を沈め前進する。

ボクたちは黙っていた。

Mが、ごく近くまで来ている事は確かだった。

ボクの思っている電話ボックスには、頼りないMがいて、まわりには雨が降っていた。

左京区岩倉岩倉病院・失われた猫

左京区岩倉岩倉病院・失われた猫

大丈夫のはずの猫は現れず、ボクはオートバイで顔に取り返しのつかないいくつもの傷を作り、髪を大量に抜いた。

ウイスキーも大量に消費した。

つまみは決まって真夜中のケンタッキーフライドチキンのトリプルだった。

骨まで食うのか。

とホリグチに言われた。

目覚めるとたいてい右手が痺れていた。痺れているうちに、震えさえする。

ボクの右半身全体が痺れる朝が来るのは間違いなかった。

何もかもが砂のように脆い。

テニスコートの砂も、砂漠を舞う砂も、手のひらですくう限りにおいて必ずこぼれ落ちる。

Kが持ち帰るはずの、乾いた国の土産話も必ずこぼれ落ちる。

松岡町グリーンセンター・ことばの星灯り

松岡町グリーンセンター・ことばの星灯り

あめの

あくるひの

しばふひろばの

まんなかは

たんぐつ

みずのはいつてしまった

たんぐつで

あるいているような

おとがした

ぼくたちは

ねころがれず

ただ

きをみていた

かぜのひ

きもいきて

うごいているのだと

こころにおしえられる

ふたりでしばふにいった

かぜがつめたくて

ないろんのしきものを

からだじゅうにまいて

おかあさんのくるのをまった

きみのわるい

あかんぼうとすれちがった

あめのひ

ふんすいをみにいった

ごごにじと

ごぜんじゅういちじと

ごごよじと

ごごいちじに

ふんすいが

でる

あの

きみのわるい

あかんぼうも
みにきていた

あめのひに
ふんすいをみるのは

あのいつかいきりだったけれど

京都市左京区浄土寺・京都銀行で

京都市左京区浄土寺・京都銀行で

京都銀行の自動扉が開く。

ボクたち四人は、支店長の女性関係を知り、ここまで足を運んだ。

受付嬢に、メモを渡す。紙切れには謎めいた言葉が書いてある。

受付嬢が奥に消える。

やがて大金を持って彼女が戻ってくる。

ボクたち四人は、その場で大金を山分けにする。

取りあえずボクは、新しく銀行口座を開設し預金する事にした。
他の三人も同様だった。

待合室。

黒い革張りの長椅子がいくつも置かれている。

ホテルのロビーのような広さがあり、そこに背広を着た中年の紳士が沈痛な表情で押し黙っている。

ボクの隣には十歳ぐらいの少年が座っていた。子供と気が合う。万両寿司の息子のようだった。

純真な子どもたち、あるいは小動物と仲良くなれる人に悪人はいない。

ボクは悪人ではないのか。

少年と遊んでいる間、ボクは殺人について考えていた。いずれ、ボクを除いた三人が銀行強盗について口をすべらすに決まっている。回避するには、仲間を殺してしまえば良いのだ。

などと考えながらボクは万両寿司の息子を笑わせる。

一九九一年五月五日銭形編・ことばの星灯り

一九九一年五月五日銭形編・ことばの星灯り

ていへんだていへんだ
って

はつつあんがとんでくる
おやぶんていへんだ

なにあわててんだ
はち

まあおちついてちゃでものんだからにしろ

それどころじゃ
ねえんで

こころがこころのやろつが
こほこほ
こほ

こころのかみを
はさみできって
しゅっじのふでをつくるんだって
みすずがおもいついたんだ

いのちにべつじょうはないけど
おやのどういしょがひつよいらしいよ

ごほうごほう

こころが

こころのやるうが

ごほうごほう

こころがぼつずになっ たってんだろ
はち

おやぶん
なんでそれを

みてみな
はち

しんぶんでもてれびでも
ほれこのとおり

なんでい

あわくつてたのはおれだけか
はち

まあしょげるな

このここのところをよんでみな
えっ！

おやぶん

よのなかにこんなことがあってもいいですかい

それがそうなんだよ

ころろがこんなことをかんがえていたなんて
あっしにはしんじられねえ

おやぶん

においますねえ

なんかにおうなうらになんかある

じゃあ

あっしはききこみにいつてきやす

ああ

そうしてくれ

いよいよ

おもしろくなつてきやがった

中国浙江省温州市・鉄道爆破

中国浙江省温州市・鉄道爆破

最後尾の運転室から、消防士の服を着た男たちが現れた。車両中央の網だなに置かれた爆発物を下におろす。とうとう爆弾処理班が動き出したのだ。

床におろされた爆発物は、巨大なコーヒースイフオンの形をしていた。水で九割ほど満たされている。

天辺に閉じ込められた空気の切り口は、完璧な円を描いていた。ベルヌーイの定理通り、水は下からの大気圧に押されて動けない。

処理班が、サイフオンに窒素を注入し始める。水素爆発をおさえるためだ。

しかし、科学的常識に反する窒素爆発が起きてしまう。炭素、酸素、窒素、水素が化学反応を起こしタンパク質が合成されてしまったのだ。

ちょうど原初の海から、生命体が合成されたのと同じ過程だった。何億年もガチャガチャやってるうちに、ルービックキューブの色がそろってしまったのだ。

激烈な破裂音とともに爆風が列車もろとも処理班の体を透過して行く。

やや遅れて、ガラスの破片と海水があたり一面に降り注いだ。

一九九一年六月四日・ことばの星灯り

一九九一年六月四日・ことばの星灯り

きよじんぐんのたたかいかたについて
まいあさ

ふたりでぎろんしあつてはいるが
こころくんのいけんが
いまひとつなつとくいかない

え？ろめいしをどうしろって？

わたしはせんざいをもらったよみうりしんぶんをやめて
やくるとがのめるやくるとを

おうえんしはじめたらどうかとていあんした

こころは

ふじたをだれかとすげかえるべきだ
という

うまく

ききとれないとうちゃんがくやしい

ながしまつてきこえたけど
やくるとのほうかな
とうちゃんのほうかな

きみとのかいわは
たのしいよ
ほんとに

近畿日本鉄道久津川駅・消える夢

近畿日本鉄道久津川駅・消える夢

私鉄の駅まで五分かった。

しかし、ボクの思っていた電話ボックスにMはもういなかった。とても、立っていられそうになかった。

支えられていたのはボクの方だったのかも知れない。

Mは、その年の夏からボクのアパートに決して寄りつかなくなつた。

終わつたのだ。

ボクは冷蔵庫の上から、市役所の公式文書と一緒に投げ込まれていた、友人からの結婚式の案内状をつまみあげた。

何日か先の、遠い街での結婚式だった。

夢で、ズキアイちゃんをバイクに乗せて家までおくる。

武生の菊人形のところ。彼女がラケットと着替えをすますのを待つ。これから再び彼女を乗せてテニスの試合会場までおくるのだ。

理ゐ弍君の足音がして目覚める。

さて、お出かけた。

八号線を南下して渋滞がはじまったので、ハーモニーホールのところまでフェニックス通りに迂回。
が、こちらでも渋滞。

神明で買い物。

理ゐ弍君がうなぎの生態について、たぶんウィキピディアなのだと思うが音読してくれる。生態がおぼろげながら確認されたのは2009年の東大チームのお陰らしい。
グアム島沖で稚魚を捕獲したのだとか。

何やってんだ、東大。

って理ゐ弍君。

うなぎに関する記述は、なかなか気持ちの悪いもの。うなぎのばりの語源とか。確かによく見ると獰猛な生物のように見える。

ピンクレシートもろて薬のアオキ。焼酎とお茶とジュース、アオキのカードやおもたら、ゲンキーのカードを差し出していた。まったく。

あれ、そのままでも通ったりして。

なるほど。アオキとゲンキーの黒幕がひとりで、お互いに競争させて売り上げを伸ばす作戦。理ゐ弐君の読みは深い。

早起きしたせいで昼寝を少々。目覚ましかけて90分。

ぼく、まるちよーさんのぼうやけ？
いいえ、うえきです。

という表での会話とちょうど同時に目覚め。

風呂に入ろうと母屋に。

ああ、そうだ、わたしの夢日記に『大切な忘れモノ』という記

述があつて、これが理ゐ弐君の小説の題名とまったく同じだったという話を思い出して、それを持って母屋へ。

理ゐ弐君が風呂。無理やりドアを開けさせて夢日記をみせる。

ぽたぽたぽた。

万年筆で書いた夢日記がにじんで消えていく。

アメリカ合衆国・メリーランド州への手紙

アメリカ合衆国・メリーランド州への手紙

手紙をどうもありがとう。

アメリカのどこか分からなかったのですが、MDを辞書で調べてようやく位置が分かった次第です。

大西洋に面しているし、南の方で気候も良さそうですね。自然もいっぱい、子供を育てるのにとっても良さそう。写真も同封してあったら良かったのに。

一九九一年一月五日に男の子を産みました。

あなたも腰が痛かったと言ってたけれど、お腹より腰が砕けそうでした。

朝の五時半から五分間隔の陣痛が来て、出血の後、昼の一時十五分に立ち合い分娩でした。

初産にしては早かったみたいです。
いきみ方を何回も失敗したのでとても疲れました。

出産よりも母乳に泣かされました。

乳腺炎になりそうなくらい熱を持ち、ぱんぱんに腫れ、ずっとアイスノンで冷やしていました。

むちゃくちゃ痛い看護師さんのマッサージに毎日泣いていたの。

愛育病院を退院と同時に実家に帰りました。

けれど、一週間後におばあちゃんが亡くなって葬式があったりで、母乳は三週間で出なくなり、ずっとミルクで育てています。

もう、四ヶ月になったので、離乳食をはじめています。

おかゆ、パンがゆ、ヨーグルト、フルーツ、結構食べてくれます。

お昼休みに食べさせているので、ゆっくり出来ずかわいそうだけれど、旦那の協力で、午後五時まではおとうさん、夕方からはおかあさんというリズムが出来ました。

夜はほとんど寝ているから、おとうさんとの時間の方が長いのよね、こころ君は。

そうそう、申し遅れましたが、うちの子の名前はこころと言います。

生まれた時は二九六〇グラム、三ヶ月検診では六九八〇グラムだったから、もう八キログラムにはなっているんじゃないかなあ、重いもの。

出来たての頃は凜々しかったのに、今では丸々と太って大仏君と呼ばれています。

（胎毛筆を作るために、最近床屋で丸坊主にしたのと、越前大仏を見に行ったので、つけられたあだ名です。）

留学はどれくらいですか。

広大な国にいと、きつところも穏やかに、世俗的な事にもとらわれず、ゆったり暮らせるんでしょうね。

こちらは、普通なら育児で自分の時間などなくて当たり前なのでしょうが、時間を作って華道と日舞を続けています。

テニスもやりたいのですが、それは我慢して、三人でお弁当を持ってピクニックと称して足羽山など登っています。

こころが大きくなって、歩いたりお話したりするようにならなかなあ、と言う思いと、いつまでもちっちゃくて可愛い赤ちゃんでいて欲しいと言う気持ちがあります。

ぼーっとしている間に、子供はどんどん成長するので、今しかしてあげられない事をしそこねないように、こころについて行くのに二人の親は必死です。

共働き、三人で頑張ってる。

普通のサラリーマンのおとうさんじゃないけれど、いつも子供の事を思ってくれているおとうさんで良かったなあと思っています。こっちより子供の事を知っていたりするんだけどね。

その分育児ノイローゼにもならず、わがまま好き放題のおかあさんをやらせてもらっています。

色々な育児書や、雑誌を買ってくるのは全部おとうさんです。おもちゃも。

そこでもお願いですが、アメリカにはユニークなおもちゃがあるそうですね。カタログなどあったら是非送って下さい。

おすすめのおもちゃなどあったら教えて下さい。

それではまた、アメリカでの楽しい生活ぶりを書いて下さい。
写真付きでね。

うちの写真も送ります。見てやって下さい。

かしこ

東京都千代田区・お茶の水女子大学前

東京都千代田区・お茶の水女子大学前

Mは卒業して二年で結婚した。
相手は聞いた事もないピアニストの息子だった。

披露宴のMの友人席でビールを何十本も飲んでいるうちに、ピアニストの息子の父親は長いクラシックをひとつ弾いた。

モーツアルトか、ラフマニノフだったように思う。

しかし、Mの母親の事は初耳だった。
Mの小学生時代に他界していた。
赤の他人のスピーチで知った。

つまり。

つまり、Mにとってのボク的位置はその程度のもだったのだ。

Mの父親は、ボクの想像していた人物より、はるかに小柄で貧相だった。酔った頭が

なんだ、やるんだった。

とつぶやく。

もちろんMの部屋での事だ。

しかし何もかもが遅かった。
ボクはMに負けたのだ。

石川県輪島市鳳至上町・元舟木千舟堂

石川県輪島市鳳至上町・元舟木千舟堂

ボクは父の実家に滞在している。
白山のふもとの漁港だ。

大学が休みになって以来、ずっと此処にいる。海に入ってみた
がまだ冷たい。

父が様子を見に来る。ボクがまだ小説を書いているのかどうか
を確かめる。

父に最近の仕事を聞く。

国民休暇村の修理をしていた。
スサミ温泉でしょう。

父が驚く。日本国内の地理ならばすべてボクの頭に入っていた、
JRの時刻表も、乗り継ぎ駅も。

すべて小説を書くためだ。

かかりつけのタカノ先生が、ボクの読んでいる本をめくる。

解剖書のようなだった。

医者か、それも良い選択だ。

と呟く。

先生はボクの就職の事で輪島まで来たらしかった。

何かやりたい事はないのか？

タカノ先生が聞く。

小説家になりたい。

父も、先生も黙って輪島を去って行く。

まだ昼の三時だというのに暗い。

四条河原町祇園祭辻回し・ことばの星灯り

四条河原町祇園祭辻回し・ことばの星灯り

一九九一・七月十五日

ちょうど

きょねんのいまごろ

ころのかおもしろ

わたしはたいいんして

こんちきちんの

きょうとへいそいだ

たしか

つゆはあけていた

まっていた

でしたちにおうて

なまびーるをのんだ

よいよいやまのよる

ちようちんが

ゆれていた

だれもおどってはいない

おまつりでは

ないのかな

まだこころの

このしもうまれてなかった

わたしはこころが

きみだとは

よそうだにしていなかった

ことしのつゆは

ながくなるらしい

ほくりくに

ていおんちゅういほうが

でています

青森県津軽・太宰の星の灯り

青森県津軽・太宰の星の灯り

じつさいのところ

ははもたいへんだったとおもいますよ

あのひとは

しょうせつかとなのっていましたが
ただのしじんです

うれない

おまけに

うわきしょうで

なんにんものれじょうに

こいごころをいだいてました

もちろん

しょうひんほじゅうがかりにも

とうにようももっていたでしょ

ははがやしなっていたようなもんです
ほんところ

でも、ははは

ちつともきづいてないのです

ぼけたいまでも

きたいはずれだとか

だまされたとか

わかりませんね

ぼくには

えいえんに

あのひととははとのかんけいが

まあ、ぼくのなづけおやでもありますし
ぼくはぼくで

このなまえがあるいみきにいつています

あのひとのことも

きらいなわけじゃないんです

いちねんに
いちどは

なつのでつてゐるひに

びいるでも

おはかにかけてあげようとおもっています

びんびーるをにほんかな

いやさんほんぐらい

なまちゅうをいつつぐらい

これからははを

だいじに

せいぜいすねをかじりますよ

いもうとといっしょに

あのひとに

まけないように

新世紀エヴァンゲリオン・使徒かおる君

新世紀エヴァンゲリオン・使徒かおる君

希望？

あれが希望？

やせほそって買い物をする希望。

あれが希望？

なんとかしなきゃ。

なんとかしなきゃ。

希望の形はひとの数だけ存在する。

希望はこころの中でしか存在しないからだ。

神に等しきちからを手に入れようとしている男がいる。
ふたたびパンドラの箱を開けようとしている男がいる。

だが男は偽りの継承者。
黒き月より来たる人類。

パンドラの箱。

そこにある希望が現れる前にパンドラの箱をふたたび閉じよう
としている男。

正統な継承者たる失われた白き月よりの使徒、アダム。
魂はアダムの中にしかない。

だからこそ
お前に託す、われらの願いを、アダム。

一九九一六月五日・ことばの星灯り

一九九一六月五日・ことばの星灯り

てんのけいじをうけた

わたしはここでよげんしよう

こころは

ふつかのごごよじに

てんとちをひっくりかえすであろつ

つくりだした

ほんにんでさえしらないだいちを

あまつさえ

ごごななじに

ふたたびてんとちをひっくりかえすであろつ

にじゅうねんごの

ろくがつのさんじゅうにちに

とじこめられたところが

ふたたび

てんとちをひっくりかえすであろう

よのものどもよ

ころを

しんにおそれよ

ころは

わたしたちのころのだいちを

ふるびたころのだいちを

あたらしく

こうしんなされるのだ

鯖江市川島町・母の実家

鯖江市川島町・母の実家

女が近づいてくる。

頼んでもいなかった写真が入っていると、ボクが焼き増した写真の束を突き返してくる。

メモ帳を開き、女のページを探す。

一〇〇一一一〇〇〇一一一〇〇一一一〇〇

女がそれは何だと聞いてくる。

女はどうしてもあの男の写真が欲しいのと言う。
キタガワの写真だ。

女をじつと見る。

太陽の光の具合が刻々と変化するせいで、鼻すじが通りひどく美しく見える。

あの男は詐欺師ですよ。

忠告するが、それでもキタガワの写真が欲しいのだと、女は言う。
う。

東京都文京区目白台・Mからの招待状

東京都文京区目白台・Mからの招待状

Mから結婚式の招待状を受け取った時、しまった、と思った。
Mに先を越されたと感じた。

ボクたちは、別れる前も、終わってからも、何らかの形でずっと先を争い続けていたのだ。

成績や知性や、友人の数や、セックスの事で争っていたのだ。
終わってからも、互いの友人を通じて互いの情報を知り合おうとしていた。

Mが教員採用試験に落ちた時、ボクが吐こうとしていたのは喜びだったのだ。

そして、Mはボクを結婚式に招待し、彼女の手に入れたピアノ

ストの息子を披露した。

ピアノストの息子は、おそらく彼女の部屋でも勃起したのだろ
う。

ボクは、Mに、負けたのだ。

岩手県遠野市遠野・化け物の風

岩手県遠野市遠野・化け物の風

小学校。

ちやうど放課になったところ。

僕が、三輪車をこいで家路を急ぐ。体の割合に対してひどく小さい。ギーコ・ギーコとこぐうちに、体育館の裏で十数人の大人の男たちを見つける。

彼らは体育館の白い外壁にへばりついている。
空を見ている。

身体中がびしょ濡れになっている、夕立にあったようだった。

僕はその目の前を、三輪車で通り過ぎる。

あたりが暗くなる。

坂道がきつくなり、僕は三輪車を押して歩く。

そうだった、この辺りは、あの化け物が出るのだった。

僕はいてもたってもいられず、坂道の側溝に身を隠し、息をひ

そめる。

すると先ほど雨宿りをしていた十数人が、僕のそばの側溝に身をひそめる。彼らも、化け物が怖くてここに隠れに来たのだった。

やがて、恐れていた事が起こる。

あの化け物が現れたのだ。うつ伏せに寝ている僕には確かめようがなかったが、間違いない、あの化け物だ。

風が側溝に吹き込んできた。

僕はヨガの死体のポーズをとり身動きしないようにする。しかし方法はないのだ。

まわりに隠れていた男たちは、化け物の風で、骨まで風化され灰になってさらさらと飛び散ってしまう。

僕はあらかじめ、すべてを知っていた。

助かり方も、濡れた男たちが消える事も。何もかもを。

僕は死体のポーズをとり続ける。

日本四大自治寮・吉田寮北棟217号室

日本四大自治寮・吉田寮北棟217号室

京都大学吉田コートの破れたフェンスをくぐり抜け、吉田寮の食堂に向かう。イシグロと一緒にだ。

大盛りのご飯、大皿のおかず、一杯のスープで210円。

大学生協の価格の約半分だ。入学当初はイシグロは嫌だったが、慣れてしまえば何ともない。いや、女学生の少ない分落ち着く。

知り合いの寮生に誘われて、彼の部屋で昼飯を食う事になる。銀のトレイにのっているのはどんぶり飯のソボロご飯と卵とワカメのスープ。

階段をのぼり、北棟の217号室に入る。

二段ベッドが部屋の東西のすみにふたつ。窓際に机がよつつ、そして中央に大きなテーブル。

住人のひとりカタハシで、セックスをしながら飯を食う。女はこの部屋の他の住人のガールフレンドのスズ。

まるで、ドライヤーでも貸し借りするように同室の男の女を使

う。

スズはこの部屋の共有物のようだった。

借りれるものなら借りてみたい。後腐れもなさそうだし。

カタハシが女から離れる。

まだ射精をしていなかったが、この性交渉はただの運動だ、射精する必要がないのだ。
疲れたら止める。

女がカタハシの着用していたスキンを指の先につまんでぶらぶらさせる。こちらに目配せをしてくる。

躊躇していると、女がスキンを投げてよこす。

スキンは先が開放されて筒状だった。果たしてこれで避妊の役に立つのだろうか。

福井市松本通り愛育病院・ことばの星灯り

福井市松本通り愛育病院・ことばの星灯り

いつだったか

こころがうまれる

いちじかんほどまえに

わたしは

きらくしよくどうで

やきにくていしよくをたべた

ちようきせんになるから

ひるごはんを

たべてきてください

じよさんぷさんに

いわれた

みしらぬばしよをくるまでぐるぐるまわってたら

ゆうびんきよくのかどに

きらくしよくどうがあった

ひがわりていしよくと

やきにくていしよくでまよって

やきにくていしよくをたべた

ひるのゆきのひだった

ぽけべるを

もたされたわたしに

おかあさんかられんらくがあつた

はやく

はやく

わたしがぶんべんしつに

はいるやいなや

こころがうまれた

かぼそいこえで

さんそみたいなのを

すつていたきみ

しばらくして

おかあさんとけんかしたとき

こころのうまれるまえに

もういちどもどろろと
きらくしょくどうに
いったが
もうなかった

ちちとしての
せきにんをとれ

そういうことかな

もう

あともどりはできない
そういうことかな

宇治市伊勢田町中山・掃除されないトイレ

宇治市伊勢田町中山・掃除されないトイレ

あれ以来、Mを僕は見ていない。

十年以上が過ぎていた。

このアパートに引っ越してから十三年になる。

当時、一ヶ月の家賃は七千円だった。破格の安値に僕は疑問も持たずに飛びついた。

引っ越してみると、二階の僕の部屋からは下の夫婦の会話がつつぬけだった。畳をめくり、重ねてベッドを作ったせいで、下の部屋からの光さえ漏れてくる。もちろん、見ようとすれば下の部屋ものぞけた。

お隣のオカモトは高校の先生らしく、時々生徒たちが泊まりに来た。クミヤマ高校の二年八組で何が起きているか、僕は大概の事を知っていた。

僕はヘッドフォンで借りてきたアダルトビデオを観た。ラジオも、テレビも。

僕の部屋にはM以外に誰も来なかった。

Mのいる時は、僕が喋り、隣のオカモトセンセがヘッドフォンを使う。

Mのいない時は、僕はヘッドフォンを使う。隣のオカモトセンセも僕と同じような生活をしていたのだと思う。

家賃は一切値上がりしなかった。

僕の部屋は、相変わらずモノでこった返し、机の隣には空のゴミポートがある。

変わった事と言えば、友人の結婚式に、七回招かれた事と、雨の日でもエンストしない新しいオートバイを手に入れた事だ。

友人にMも加えると八回の結婚式になる。

そして、九回目あるいは八回目の遠い街の結婚式に、現在招かれている。

ユリイカの誕生・ことばの星灯り

ユリイカの誕生・ことばの星灯り

一九九一・七月五日

わたしたちに
いま

かけているのは
かぞくとしての
ほうこうせいだと
かんがえながら
ぱちんこをする

一九九一・七月九日

みすずが

ユリイカをころすなら
わたしはひやくねんの
もにふくすだろう
すべての

ちてきかつどうをていしして
ユリイカのもにふくするだろう
もがあげてみると
こころはしんでいるだろう

わたしは
おとなしいへびになり
みすずにしたがうだろう

一九九一・七月十日

みすずがないている

一九九一・七月十三日

かぞくかいぎできめたこと
かんがえながら
ふるにはいる
こころはなんにもしらないけれど
やうつりをするのだ
しごとをするのだ
こころのために
ユリイカのために

サバエシカワダチヨウ・食言虫の生態

サバエシカワダチヨウ・食言虫の生態

福井の実家。

西日がきついで、ブラインドを下ろそうとしてふと窓の外を見る。

あるはずのマルチョー漆器店の大きな屋敷がなくなっている。

そこには異様に切り立った崖があるのみだ。

越前海岸で小舟にのり、切り立った崖を見上げているかのようだった。

海岸を小舟で漂っているうちに、羽音で目が覚める。

理み式君の作り出した「食言虫」が現れる。ソフトボール大の球形で、空中にとどまっている。

ちよつと天辺から一本の針が突き出ているのだった。

ドシン、ドシン

この羽音だ。この強烈な羽音で「食言虫」だと分かったのだ。

ボクは虫のすきを見て針の根元をつかむ。

固いはずの針が、急にぐにやりと曲がり、ボクの腕にへビのよう
うに巻きつく。遅かった。針がボクの指の一本に刺さる。

猛毒のはずだった。

指をみるとどんどんと腫れあがってくる。

このまま放置すればボクは風船のように膨れあがり、やがて毒
が全身に浸潤し、新たなる球体「食言虫」になるのだ。

シェイクスピア劇団のドレッサー・一九八三年夏

シェイクスピア劇団のドレッサー・一九八三年夏

僕はMからボートを隠していた。

Mが僕から母親の死を隠していたように。

僕は何度か死んでみようとした。

音楽をかけ、暗い海に潜り息を止めて数をかぞえてみたが、溺死するには僕の意味は弱く、僕の海は浅すぎた。

僕はボートを部屋の中央にすえ水を張った。
一階の名も知らぬ夫婦の灯りが漏れてくる。

ホリグチに勧められて観た「ドレッサー」のワンシーンを思い出す。

舞台の幕が降りた後の楽屋の一室で、付き人が巨大な金だらいの中で俳優を洗う。

僕は旅役者ではなかった、Mは僕の付き人ではなかった、そういうことだ。

裸になり、ボートに浸かった。

水温は快適だった。

水が溢れそうになる。

僕はボートから両手両足を放り出す。ゆっくりと目を閉じる。

丸岡町新九頭竜団地・新婚さんいらっしやい

丸岡町新九頭竜団地・新婚さんいらっしやい

一九九一・七月二四日

いつものへや

いつものいす

さるひのことをおもうと

このいえにもなみだがでるね

わたしは

ここの

つきあたりのさかやのじはんきで

ほわいとをかつては

のんだくれていたんだ

にゆういんのまえに

にゆういんのまえに

まだおかあさんでなかったおかあさんに

ほわいとを

しんぴんのほわいとを

だいどころに

ながされて

おこった

まだ

いつてきも

のんでないのに

ながされてしまった

おみまいの
えふくんに

もういっしょうぶんのんだからなあ

といわれた

そんなもんかなと
おもった

よげんどおりの
かぜがふいて
わたしは

またここにうちあげられたのだった

瞬間瞬間無数の宇宙に・多次元解釈

瞬間瞬間無数の宇宙に・多次元解釈

一九九一・八月十三日

みんなが

まだぼくをしんじていたころ
ぼくはよくひとをだました

しまねのにしがめそうで

かたおかと

くんで

どつぺるげんがーをしくんだ

おおむたくんやら

あらいさんは

かいきとくしゅうのみすぎで

ふるえていた

おかださんもふるえていた

みんながまだぼくを

しんじていたころの

なつのがけのちかくの

みんしゆくではなしだ

そのご

あらいさんはいしぐろと

おかださんはかたおかと

けっこんした

ふたりいたわたしのかたほうは

みすずとけっこんした

紀北町北牟婁郡・割亀島の死体

紀北町北牟婁郡・割亀島の死体

こんな時間に島に着いてしまった。
夜が明ける。

あらかじめ連絡はしておいたのだが、まさかこんな時間とは。

うつすらと明けかけた青い空の下をうつむいて歩く。時間をつぶそうにも一体どこで休めば良いのか分からない。
海を背にしたり、左手に見たり。

辿り着いて表札を見る。

僕とは違う苗字の下に五つの名前が並ぶ。

控え目にインタホンのボタンを押す。

意外にもすぐに返答があつて、中に招かれる。

女の人が、僕に聞く。

おもてに人が死んでいませんかでしたか。

少なくともふたりは首を吊って死んでいるはずだと言う。

「気がつきませんでした」と答えると、女は

留守番をお願いします。

と言い残し、おもてに出て行く。

尾道市御調郡御調町・廃刊

尾道市御調郡御調町・廃刊

ボクの浮かんでいるのは海ではない。

何日か、何週間か後の遠い街での結婚式にむかって出発するの
に、今からでも早すぎはしない、という気がした。

ボクはゴムボートを静かにたたみ、すべての空気をぬいた。

Kが小説を書かなくなった理由をボクは知らない。

ボクたちは既に何年も前に同人誌を廃刊にした。Kが松本を舞
台にした自伝的小説を書き上げ、ボクがわた菓子売りの登場する童
話を書いた後だった。

もちろんKの小説には直子が登場する。

終わったはずのMが、Kに何度か話を聞いてもらったらしかっ

た。Kがその内容をボクに伝え、あるいは伝えず、Mはボクに寄りつかなくなった。

すべては大学卒業と同時に起こった。
何もかもが滅びて行くようだった。

そのうちのひとつが、就職だった。

Kは研究職に、Mは航空会社に、ボクは肉体労働者だった。

Kが海水を真水に換えるプラントを実践するために中東に飛ぶ事になり、その半年前に急遽結婚した。

北緯35度25分、東経136度08分神の棲む島・ことばの星の灯り

北緯35度25分、東経136度08分神の棲む島・ことばの星の
灯り

ごぜんさんじ

くらのみのなか

ゆうれいが

ふろにはいつていた

ふろおけが

こーん

となつたあとに

おゆの

あふれるおとがした

こころも

ねむれないわけだ

わたしたち

ふたりは

まよなかのろびーの

すいそつのまえで

たちどまる

こころがおよいでいる
いっとうは
いぬかきのたろーで
にとうが
くろうるのこころ
きんぎよがあっちいたり
かにがちよっきんしたり

このじかん
なくなつたえいがかんの
こわれたいすのうえみたい

じゃみじゃみの
えいせいほうそうに
たいふうのにゅーすがうつる
みずのない
あおいうみ
ひとのいないにほんれっとう

こんなちずのなかに
ひとはほんとうに
すんでいるのだろうか

丸岡町羽崎の昼寝・ことばの星灯り

丸岡町羽崎の昼寝・ことばの星灯り

そいねしていたはずの
ひるねからめざめると
こころはいなくて
げんかんで
なきごえがする

こころが
さかさまにくつのうえに
おちていた

かおやくちびるにきずがあり
くろいちがながれていたゆめをみて
おどろいてめざめると
こころがいなくて
だいどころでなきごえがする

こころがいすによじのぼって
のみのこしの
くろいみるくを
すするゆめをみて
おどろいてめざめると
こころがあたまのうえにいて

くちから

あかいとうめいなちをたらしながら
ないていた

アラブ首長国連邦ドバイ・同人

アラブ首長国連邦ドバイ・同人

巨大な広間で式が正式に行われた。

正装したボクは色々な人の話を聞いた。

何人かの友人代表が喋ったり、Kの上役が喋ったり、Kの担当教授が喋ったりしたが、一番印象に残ったのはKの話だった。

Kは抱負の中で語る。

彼の開発したプラントが、彼の企業にもたらす年間の利益は、彼の終身給与の三倍になるだろう事。

同人誌の同人の将来を期待している事。そして帰国後、K自身、新しい小説を書くつもりである事。

最後に新しい配偶者に対する思いやりが述べられた。

同人というのはボクの事だった。

右京区西京極陸上競技場・デッドヒート

右京区西京極陸上競技場・デッドヒート

四二、一九五キロの四十キロは走っただろうか。ボクは一冊の本を持っている。

雑巾がけをするように、その本を地面に押しつけラッセル車のように前進する。削られた雪が、両脇に押しやられる。

積雪は二メートルと七センチメートル。

ライバルの男が、ボクの後ろからついて来る。
間もなくゴールだ。

グラウンドに入ってから二周しなければならない。

玄関の番人が

やあ、マラソンの「ソ」は「ティーエイチ」の発音だ。
と教えてくれる。

サインシートの「シ」と同じだ。

とも。

どっちもどっちでも良い。

居間に入り、コタツの周りをグルグルと回り出す。

いち・にい・さん・しい・ごお・ろく

と声を出してまわる。

男がボクのすぐ後ろをついて来る。

いったい誰が、ゴールの白い帯を設置してくれるのか。

その白帯はボクの前になるのか、後ろになるのか。

鯖江市河和田町十九・旧一乗医院のベッド

鯖江市河和田町十九・旧一乗医院のベッド

昔、河和田町には三軒の医者があった。

小さな坂の頂上付近に、道が右に一八〇度曲がる所があつて、カーブの手前に三条医院があつた。

受付には誰もいない。

奥の方で人の気配がする。女医さんじゃないかという予感がする。

待合室で待つてみる。見回すと外観以上に中は古く、上海の郊外の中華料理店に入つたみたいだった。

諦めて三条医院の玄関を出る。

カーブの奥の二条医院には入る気がしない。医者が小学校の校医をしていた。保健室の前の廊下で日本脳炎の注射をされた。

ボクの前のサワダ君の順番の時に、注射針が折れたのだった。サワダ君は平気な顔をしていたが、ボクはあの医者を信じない。

さらに坂をのぼり、一乗医院に入る。

蛇腹ガラスの向こうには看護婦さんが待っていた。

学校からの依頼で、体の弱い子供は修学旅行の前にブドウ糖の静脈注射をしなければならないのだった。

ボクは、医院の階段の下のベッドに寝かされる。

ドバイ・暗殺された元大統領の邸宅

ドバイ・暗殺された元大統領の邸宅

ドバイからまだ帰国していないKは、まだ小説を書いていない。少なくともボクはKの小説を読んでいない。

読まらない小説は、書かれていないのと同じだ。

ただっ広い庭を持つ大邸宅でKは芝に水をまく。

ボクは国道一号線の中央分離帯の中にはいつくばり、草を刈る。分離帯に捨てられたものがボクを驚かす。

長靴、手袋、下着、動物の死骸、人形

ボクは時々、自分の立っている所が波打ち際だと感じる。

ふたつの性質の異なるものがせめぎ合う線上にボクは立っていた。足元に打ち寄せるものを拾い上げ、ポリ袋に放り込む。

正直に告白すれば、ボクの小説ももう長い間書かれていない。

自伝的な資料を整理するために、これまで生きてきた時間を、いくつかに区切り年表を作ってみた。区間毎の登場人物も事件もいかにも退屈で、最終のブロックは空白だった。

東京浅草神谷バー・電気ブラン

東京浅草神谷バー・電気ブラン

かつて、ボクの周りでは色々な事が起きた。何かが墜落したり、銀行が襲撃されたり、知り合いが盲目になったり、夜中に見知らぬ宗教家が訪ねて来た。

小さな悩み事にまわりつかれるうちに、ボクから書きとめるための内容が失われ奇異な型だけが残った。

目覚めてしまった午前4時にオートバイのセルモータをまわし四〇〇キロを休みなしに走ったり、予告なしに仕事をかえたりした。

ボクは自分自身で巻き起こした風の中で、滅びていった。

滅びていったのは猫も同じだった。

福井県勝山市越前大仏・ことばの星灯り

福井県勝山市越前大仏・ことばの星灯り

こころ

だいぶつとさいかい

いなくんとみちこさんはしょたいめん

だいぶつらーめんが

ぶつさんかんの

しょーけーすにあるのを

たしかめた

あんなもの

よくもまあくつたよなあ

おかあさんと

はじめてあつたひに

おみあいだよ

おみあい

すりばちのなかに

ごもくらーめんが

やまもりはいつているだけの

だいぶつらーめん

おみあいだよ

おみあい

これがなかったら
わたしのじんせい
どうなっていたのやら

あかくさくのは
けしのはな

どうすりゃいいのさ

このわたし

ゆめは

いつか

さめる

下京区京都駅○番線・ことばの星灯り

下京区京都駅○番線・ことばの星灯り

いなくんを

おくつたあとも

わたしとところは

えきのほーむにいた

えきいんがよつてきて

のりおくれたのかときいた

ぼくたちはのりおくれた

おたがい

わかれがつらくて

だきあつたまま

なつのきおすくのまえには

えきべんを

いちじかんいなくえとかいてあつた

ぼくのむねには

こころのあせが

こころのむねには

こころのよだれがしみていた

あさしじちななふんはつの

らいちように

のれなかったわたしのわかいころをおもいだした

こころはぐったりして

ぼくにだかれている

わたしたちはけつきよく

おかあさんのまどからなかにはいり

すっぱいぶどうをたべたのだった

あの

こころのいない

ふゆのふくいえきでのように

左京区浄土寺銀閣寺湯・紅い五連星

左京区浄土寺銀閣寺湯・紅い五連星

ダニに食われたと思っていたが、右腕の肘の内側、つまり静脈に沿っていつつの星が消えずにいる。

日が進むにつれて段々と紅くなる。

いつつの点は等間隔ではなく、ちょうど等加速度運動をタイムで打点したように、指先の方からどんどんと速さが大きくなった事を物語る。

銀閣地道の交差点から銀閣寺に向かい、手前の疎水を右に折れた所に銭湯があった。

ボクは午後4時になると、プラスチックの風呂桶にタオルとシヤンプーと石けんを入れて風呂に入りに行ったものだ。

それがその日の初めての外出だった事も多い。

湯が汚れている。

ひとりの青年が湯に口をつけたまま、じっとしている。彼の口からは血がゆっくりと流れ続けている。

「大丈夫か」と聞くと、

胃ではなくのどから出血しているのだ

と言う。

多分、鼻血みたいなものだろう。

もうひとり、老人が溶けていくを見る。

皮膚病がひどくなり、体から古くなった皮膚が次々と湯に溶けだしているのだ。

ボクは右腕のいつつの星を見る。

望遠鏡で見たかのように、いつつの星が紅くまたたく。

大阪南港・鑑真丸

大阪南港・鑑真丸

二晩の航海だった。

出航の夜に、紀伊國屋書店で本を選んだ。
書棚の間を彷徨う途中で、便所に二回、食堂に一度立ち寄った。
ボクは立ち止まって周りを見回した。

何人もの人が動いていた。

動いていなければ生きている事にならないみたいに。
途方に暮れるやつはバカで、向かうべき場所のあるやつが偉い
みたいに。

読まれていない本が、書かれていない事になるとすれば、紀伊
国屋にあるこの何千トンもあるだろう本はまだ書かれていない。

ボクは木片を探した。

上海行き鑑真丸。

鑑真は何度も何度も遭難したそうじゃないか。
盲目になるほどに。

遭難しても良いようにすがりつくべき木片をボクは探した。リルケだった。

リルケの『マルテの手記』を選んだ。

パリではなく上海。

そこがボクの漂流先となることを願いながら。

永平寺町グリーンセンター・ことばの星灯り

永平寺町グリーンセンター・ことばの星灯り

こころくんの

ひびのどりよくにたいして

わたしは

しょうじき

ことばがない

ぐりんせんたあの

しばふのうえで

きみがさんめーとる

よつんばいでいどうしたとき

かーるるいすが

きゆうめーとる

とんだときいじょうに

わたしはこうふんして

なんどもなんども

きみをいどうさせた

こころはなんどもなんどもいどうした

わるかった

きみがこうふんして

ねむれないのも

とうぜんだ

つきあうよ

よなかのなきごえに
つきあわせてくれ

川口市新井宿のホタル・ことばの星灯り

川口市新井宿のホタル・ことばの星灯り

ごうじの

とおりあめのあと

ぼくたちはとおかぶりの

しばふひろばにいた

ぼうそうぞくって

わるいひとなんやでえ

でもさばえにはわるいひとは

えんのやでえ

なつやすみで

にぎやかなこともたちが

じてんしゃにのって

こころのわきを

なんだいも

すりぬけていった

そのたびにはたちのこころが

びっくりとわたしにしがみついた

にんげんがすぎさると

よじのひろばにとどまっているのは

ぼくたちだけだったようにおもう

きつと

ぼくたちだけだったように

おもう

東支那海海上・鑑真丸

東支那海海上・鑑真丸

ボクは船底のようなベッドに沈み、『マルテの手記』を読んだ。
自分が船に乗っている事を時々思い出した。

三日目の朝に、既に海は黄色かった。

入国チェックがあり、税関を抜けた左手に三人の男がこちらを見ていた。毛のない男と、ある男と、もうひとりだった。

ボクは近づき、流暢な日本語で毛のない男に話しかける。

円は何処で元に換えるのか。

毛のない男は、現地語で何か言った。

誰か英語が出来ないか。

とボクは英語で聞いた。

もうひとりが、自分が出ると英語で応える。ボクは再び、英語でもうひとりに話しかける。

円を何処で元に換えるのか。

もうひとりが、『わたしたちの国では、あなたは銀行で円を元に換えます』と言う。

銀行はどこにあるのか。

と聞く。

中国には、たくさんの銀行があります。

ともうひとりが応える。

教科書通りの正しい受け答えだった。

境町・鳥取県に存在した町

境町・鳥取県に存在した町

イシグロの家に遊びに来ていた。彼の母親であるイズミさんのお見舞いに来たのだった。

家に入るとイシグロの双子の兄弟がいた。

ボクが挨拶しても知らんぷりだ、これが鳥取のルールなのかと思う。

電話の呼び出し音。

電話機は三階にあった。

階段を駆け上り受話器を取る。

相手はオオムタだった。鳥取のイシグロの家でボクが出た。しかしオオムタはまるでボクと話しているかのように話す。

オレ、うえきだよ。

知ってるさ。

ボクとイシグロが、彼の母親の見舞に行く。

病院の廊下には砂が敷き詰められている。それも熱い。ちょうど海水浴で熱い砂の上を歩くように、つま先立って進む。

白い病室。

ボクたちが入って行くと、イシグロの双子の兄弟がいた。

イズミさんはベッドにいた。

身体中、白い包帯でグルグル巻きになっている。

ベッドの横には松葉杖がある。

つい二・三日前に入院したと聞いたが、髪の毛がボサボサになっている。

上海観光港の両替所・白山羊さんと黒山羊さん

上海観光港の両替所・白山羊さんと黒山羊さん

中国人との英語の会話がつつく。

ボクは中国のお金を持っていない。中国に来たのは初めて、出来れば日本語を話せる人を連れてきて欲しい。

というような内容を伝えた。

ボクの英語は完璧だった。発音も文法も学校で習った通りだ。

「もうひとり」が、毛のある男に中国語でささやく。

毛は、日本語で『わたしは、にほんごをはなせます』と言った。

ボクは腹をたて、そして平静にもどった。オレが、最初に日本語で喋ったのは何だったんだ。

ここには、現地語、英語、日本語のみつつの人の形をしたボタンがいて、ボクは順番を間違えたのか。

日本語のボタンを押して、日本語で会話すれば良かったただけだ。

ボクは毛に聞く。

円をどこで元に換えるのか。

毛は、『わたしがあなたの円を元に換えてもいいよ』と言う。

銀行の出張所があると船の中で聞いたのだが、それはどこにあるのか。

と、ボクが聞く。

毛が『ここ、ここよ』と応える。

ボクは
両替を
した

ここで。

今立郡舟津村上鯖江区鎮座・ことばの星灯り

今立郡舟津村上鯖江区鎮座・ことばの星灯り

一九九一年六月二四日

にちよう

あさはちじはん

せつけいしさんとあう

はやしさんに

さんがいだての

はなれのたてもの

にせんごひやくまんだつて

だれが

そなたいきんを

うけとるんだろう

こころの

みのしろきんじやあるまいし

え、すくなすぎる？

こりやまた

しつれいいました

一九九一年八月二十四日

よつたあきおさんに
ようがないといわれ
まねかれざるきやくといわれ
わたしはひとり
どらいぶをした

よるのはちごうせんにそつて
ずうつときたにはしると
いつしか

あわしまにいた

しまでは
かきをやいたり
ひとびとのなかにまじつて
おどりをおどったりした

かねがなり
ちつていく
あわしまの

かげのようにくろいしまびとたちが
やみにかえっていくのを
みていた

あきおさんに
でんわした

もう

やめる

もう

やめる

ぼくは

とうちゃんはいえにはかえらない

わたしは

まるおかはいえにかえって

ねむっているところと

ねむっているおかあさんをみた

ゆぶねにおゆをはり

つかった

まよなかのぼいらーが

うごきだす

なんきよくのちかくの

わいえむしーえいの

こわれかけのばすたぶをおもいだした

わたしのころはかわれないほど
とおいてはいない

わたしのころはきずつかないほど
たしかではない

わたしのころはこれからも
かわりつづける

わたしのころは
これからもいたみつづける

さあ、たおれかけのつみきをくずして
ふりだしから
やりなおすのだ

船津神社地鎮祭の風・ことばの星灯り

船津神社地鎮祭の風・ことばの星灯り

一九九一年九月五日

ふなづじんじゃの

おなごのかんぬしさんに
きてもらった

じちんさいのさなか

こころがみるくをのみ

おかあさんがするめをたべ

わたしがおみきをいただと
いちじんのかぜがふき

しんせいなる

おはらいぼうが
ばたんとたおれ

おはらいの

しろい

かんいほこらが

おとをたててくずれおちた

むらかみのしゃちょうのくるまが

むらかみのとらつくに
ぶつかった

さて

このこうじのゆくへやいかに

一九九一年九月一日

ふろっぴーでいすが

かわったよ

こころのうたも

にかんめに

とつにゆうしたわけだ

わたしのなかのこころよ

これからわたしに

ちからをかせてください

ところで

いえがたつよ

まねかれざるきやくじけんで

しらふのあきおさんがあやまつたり

かぜがふいたり

したけど

とにかくいえがたつよ

おとなりさん

しだいなんだけどね

鯖江市本町やんしき踊り・いもうとあるいはむすめ

鯖江市本町やんしき踊り・いもうとあるいはむすめ

夕食をとっていると、いもうとが野球のユニホーム姿であられる。

給仕をしていた母親に

今夜七時から試合がある

と告げる。

『おまえ、野球なんてするのか』とボクがすつとんきような声をあげると、いもうとは否定する。

肯定すれば応援に来ると思っているのだった。

野球のユニホームを着たいもうとが、玄関を出て行く。胸の『KAWADA』が『KANADA』に見える、背番号は10。

ちょうど秋祭りの夜で、家の前を男の子たちのかついだ子供み

こしの通るところだった。

いもつとの前をみこしが通り過ぎていく。

いもつとはひどく恥ずかしげだった。男の子たちが、ユニホルム
のいもつとに目をやる。

男の子たちのひとりがいもつとに声をあげる。

いのうえさんの二分の五。

ボクはいもつとの胸を見る。

京都市山科区すみれ幼稚園・いもうとあるいはむすめの誘拐

京都市山科区すみれ幼稚園・いもうとあるいはむすめの誘拐

いもうとの運動会。

ボクたちだけ弁当を用意していない。

ふと道路の方を見ると、弁当をつんだマイクロバスの前で男がタバコを吸っている。

弁当を買いに男のところまで行くと、いもうとがマイクロバスに乗りたいたいと言い出す。男が承知する。

しばらくすみれ幼稚園のまわりをぐるぐるまわっているうちに、その弁当屋がいもうとを誘拐するために、今回の運動会を催した事に気づく。

弁当屋は誘拐に慣れていなくて、運転中に時々顔が痙攣する。

いもうとが男を見てなにか言う。

男が弁解する。口がうまくまわらない。言葉がつかまらない。

いもうとがボクに聞く。

この人、えっと、なんていうのかな、ええっと。

男の話し方を表現したいらしい。

ど・も・り。

ボクが教える。

いもうとが男を指さし、大声で

そう、どもり！どもり！どもり！

でも、このお兄ちゃん、どうしてどもってるの？

いもうとが聞く。

上海市黄浦区南京东路・平和飯店の洋式トイレ

上海市黄浦区南京东路・平和飯店の洋式トイレ

異国だった。

読んでいたより異国だった。

『地球の歩き方』を暗記するまで記憶したが異国だった。

書いてみたり、音読してみたり、地図を覚えたり、一問一答的ノートを作ったり、鑑真を調べたりしてみた。

そのどれもがはずれだった。

入学試験とは違う。

違う言語を使う自分と同じような顔が歩いていた。

肌の乾いた数人の男女がペアになってボクを取り巻き話しかけた。

マナーマナー。

野良犬の群れに似ていた。

ボクは目を合わさないように黙って歩く。

アイ・ハブ・ノウ・マニイ

なんだ、こいつら。

ボクは果物屋に逃げ込む。

丸岡町羽崎四つ足歩行のころ・ことばの星灯り

丸岡町羽崎四つ足歩行のころ・ことばの星灯り

くがつに

いちがつうまれの

きみが

よつあしほこうをまなんだことは

わたしのきおくに

あたらしい

ちと

かつこうのわるい

ほうほうだったけれど

つまり

うしろむきにしか

すすめないあれ

まえでも

うしろでも

よかろう

それで

せかいじゅうの

あらゆるところにいけるのは
たしかにただし

けれども

なんといつても

きみは

まだちのみごなのだから

たびだちにかんしては

まだ

つつしまねければならないことも

おおいにあるとおもう

いびきをかいてねるとか

わたし

おかあさんに

さからうとか

福井市和田中町済生会・いもうとあるいはむすめ

福井市和田中町済生会・いもうとあるいはむすめ

いもうとの右手の小指を切ってしまった。
カマで四・五個の小片に。

いもうとに、笑いながら

ゆびきりしよう。

とせがまれて。

切った後で大変な事だと気づき、小片をサランラップでくるみ、
冷蔵庫に入れる。

細胞が死ぬ前に手術をしなければならぬ。

病院の廊下でふたりの看護婦とすれ違う。以前、いもうとが
入院した時に世話になったふたりだ。

どこをいためたの？

と聞かれる。

指です。

ボクが答える。

今度は指ですか。それで、

と看護婦が聞く。

誰がやったの？

SHANGHAI ZOO・革ジャンの男

SHANGHAI ZOO・革ジャンの男

何というやかましさだろう、中国語は。
いや中国は。もとい、上海は。

ボクは逃げ込んだ果物屋でかん高い声の中国人から、言われるままに檸檬を買わされ、クラクションを鳴らしっぱなしのバスに乗った。

パンタグラフの先から電力を得るタイプの電気バスだった。
京都の既に滅びた路面電車に似ていた。

最後の花電車を見たのはスギトとの祇園の夏だった。

ルールを無視する歩行者と、ルール無用の自転車と、ルールを知らない金持ちたちの自家用車とのすき間を、スラロームしながらバスは進む。

クラクションのボタンには、運転手が突き刺したままのカードが挟まっている。人がいないのに打ち続けるパチンコ台みたいなものだ。

パンダのいる公園の停留所で降りて、地図をひろげ、泊まるべきホテルを探した。

まだ、ひとりの男がついて来ていた。
バスに乗らないぶん、野良犬の方がいくらかましだ。

行き止まり線区の終点・終着駅

行き止まり線区の終点・終着駅

駅は地図で見ると行き止まりになっている。

この駅はかつて鉾山町として栄えたので、『鋼駅』と呼ばれていた。

下宿に練炭火鉢の欲しかった事を思い出す。

旅行者のボクが、商店街をのぞく。古い町並みで、シャッターの降りた店も多い。

呉服店が乱立している。

そういえば、ミネウチさんの女友だちが

学校の制服で一年分儲けるのよ。

と言っていた。制服は定価でしか売らないから、まるまる儲かるのだそうだ。

私立高校なんか、全部で50万もかかるのよ。

とも。

如雨露の置いてある店をのぞいてみる。

店番のおばさんが、ボクを不審な目で追いかける。

練炭火鉢はありますか。

ないと言われる。

いったい何処に売っているのだろう。

米屋だろうか。

近鉄東寺駅初弘法の夜・ひとり

近鉄東寺駅初弘法の夜・ひとり

祭りの夜というのは、どこか神秘的だ。

物みなすべてに金属的な輪郭をもたらすアセチレンの光は、ボクのこころの動きまでもくつきりと照らし出すようだった。

一緒に歩いていた友だちとはぐれてしまった時の、あの心細さ。

迷子、というわけではない。

帰り道もよく知っている。

いつも遊び場に使っていた場所だった。

けれど、

遠くの街にひとり取り残されたような錯覚にとらわれる。

街頭のスピーカーから、時折流れる迷子放送の中に、自分の名前がまぎれ込んでいても、少しの不思議もないくらい、ボクはひとりだった。

日本海に沈んだ骨・いもうとあるいはむすめ

日本海に沈んだ骨・いもうとあるいはむすめ

祖父のいもうとが死んだ。

ひと儲けしようとした祖父は、輪島から船を出したが、嵐のため沈没し破産し夜逃げをした。

祖父のいもうとは、輪島にのこり港町で生涯を閉じた。

その夜にボクは一艘の船を出した。渦が沖で船を囲む。

あずかってきた『祖父のいもうとの骨』を海にまく。

家に戻ってみると、祖父が台所で泣き叫んでいた。そのそばでいもうとがきょとんとしている。

ボクはいもうとをさとす。

おじいちゃんはね、いもうとをなくしたんだよ。

いもうとが

すてたんじゃないの。

ふしむ。

SHANGHAI ZOO・新しい友人

SHANGHAI ZOO・新しい友人

ボクは革ジャンの男に檸檬を渡し、

わたしは今忙しいんです。

と英語で言った。

『そうは見えない』と男が日本語で言う。その通りだった。

革ジャンの男は船乗りだと言った。日本にも何度か行った、トキオ、ヨコハマ、オオサカ、と革ジャンは発音した。

私たちは新しい友人だ。

と男が言う。

新しい友人には何をすべきか。

そう聞くと、『食事だ』と男が答える。

公園の前に停まっていた何台かのクルマのうちの一台に近づき、窓をたたくと運転手がドアを開ける。

旧京都駅ビル待合室・いもうとあるいはむすめ

旧京都駅ビル待合室・いもうとあるいはむすめ

いもうとと地下道を歩いている。人通りもなくひんやりと寒い。

ふっ！と人影がボクたちの前に立ちはだかる。

『カラス男』だった。尖ったクチバシを半開きにしたまま、

ケケケッ

と笑う。

ボクは逃げ出す。夢中で駆ける。

いもうとが後ろで何か叫んだ。

急に明るい所に辿り着くと、そこは国鉄京都駅の二階の待合室だった。

夜汽車を待つ人はすべて『カラス男』だった。

鳥独特のやり方で『カラス男』たちは、器用に首だけまわしてボクを見る。

逃げてきた通路から、いもうとを連れた『カラス男』が待合室にやって来た。

ボクの行き先を知っていたのだ。

ボクには姿が見えなかったが、『カラス男』の首長がぴよんぴよんと近寄って来る。

『カラス男』たちの視線でそれが分かる。

ボクに手を差しのべているようだった。
握手を求めているのだ。

ボクは『手』のあるだろう空間に手を差し出す。

ぐにやりと『カラス男』の首長の『手』の感触がする。

三太郎、一太郎、ブルースト・ことばの星灯り

三太郎、一太郎、ブルースト・ことばの星灯り

さんたろうのにつき
だいがくにはいったころ
よもうとしてかった

なんページめかの
しらないしよくぶつが
やまほど

でてくるところで
ねむくなつてよした

ひっこしのたびにあたらしく
またかつて
おなじばしよで
またよした

まるせる
ぶるーすとの
うしなわれたときをもとめても
おなじうんめいの
ほん

ぼくは
まよなかのいちたろうをつかいながら
よまなかった

ほんのことを
かんがえた

きょう

わたしは

さんじゅうねんぶりに

はいしゃさんに

いった

いやはや

きんちようしたよ

おやしらずを

ぬくんだ

近鉄東寺駅初弘法の夜・お面の目

近鉄東寺駅初弘法の夜・お面の目

祭りの夜にすれ違う人々は、みなセルロイドのお面をかぶっていた。

原色のテカテカと光る主人公のお面。

その無表情の笑い顔がボクを通り過ぎて行く。

時折、お面の目だけがギロリとボクに向く。
その目は、空き缶でも見たかのような不機嫌さでもとに戻るのだ。

生きていると思いこんでいたヘビが、実はゴム製かと思えば、チロチロと舌を出して這って行くような。

ボクのポケットの中では、小銭がぎゅっと握った手の中で汗まみれになっている。

立ち並ぶ露天商。

おばが言っていた。

あの人たちは、街から街へと流れていくひとさらい。

『この花火、まけてあげるよ』、ガラガラ声のへび女。
すべてはボクを悪の道に引きずり込むための罠だった。

雄琴、滋賀県特殊浴場協会・おとり捜査

雄琴、滋賀県特殊浴場協会・おとり捜査

死んだ祖母が女性と遊べないボクの手をひき、裏通りへと導く。

雪がうつすらと積もっている。

一台のクルマが道をふさぐように停まっている。のぞくとひと組の男女が腰を動かしている。

ワタセ・ミクだった。

本名は知らない。

卍道のマツオさんに報告すると

サインしてもらえ。

と言う。

ボクはワタセ・ミクに乗っている男をひっぺがす。

微笑みながら近づいてくる男がいて、『どうぞどうぞ』とワタセの股間を指さす。

女の顔を見ると、小柳ルミ子なのだった。

ボクはルミ子に乗る。

道の遠くでヘッドライトが灯る。

白バイがサイレンを鳴らし近づいて来る。

四条河原町阪急百貨店前・いもうとあるいはむすめ

四条河原町阪急百貨店前・いもうとあるいはむすめ

百貨店前の夕暮れは待ち合わせの若い男女でごったがえしていた。壁にもたれてボクは誰かを待っている。

となりにひとりの少女。

大きな外国の絵本を胸の前でひろげ、文字を追いかけているようだった。誰を待っているのか。

もしかしたら、お兄さん？

少女の肩が少し揺れる。

笑った？

違った。

少女は泣いていた。

声をこらえていた。

うつむいた鼻の先から、外国の絵本の上にぼたりぼたりと涙がこぼれ落ちる。

両手でぎゅっと外国の絵本をかかえる。
ページのめくられない絵本。

待ち合わせの相手が現れるまでは、誰しもが迷子なのだ。

ボクは、いもうとが何処かで誰かをひとり待っているような気がした。

京都大学熊野寮で和歌を詠む・ことばの星灯り

京都大学熊野寮で和歌を詠む・ことばの星灯り

ぼくがむかし

かじんだったところ

いちにち

ひやくにじゅっしゅの

わかをよんだことがある

せいうちと

せとうちのうみと

くらなかと

たわらちゃん

てーまだった

なかには

いいものもあつたし

ひどいしろものもあつた

けれどもだれもがみんな

まちがいなく

あきれていた

いなのおじさんもふくめて

さて

このことばのほしあかりの
いちにち

ひやくにじゅっしの

えつくすでーは

いつでもしょう

ちなみに

わたしはいましじんなのです

近鉄東寺駅初弘法の夜・じぶんの場所

近鉄東寺駅初弘法の夜・じぶんの場所

生き物には必ず「じぶんの場所」というものがあるとわたしは信じている。

人、ひとりひとりにそれぞれ「じぶんの場所」がある。

それが何処なのか、誰も知らない。

けれど、人がその人の「じぶんの場所」に辿り着くととても幸になる。いそがしいけど幸い、暇だけど幸い、つらいけど幸い、楽しいけど幸い。

人が旅をするのは「じぶんの場所」をさがすためかも知れない。

一生かけても見つからない人も、初めからそこにいる人も。

ボクも「じぶんの場所」を見つけたのだろうか。

立ち並ぶ露店のひとつにひきこまれるようにして近づいたボクは、しゃがみこんで初めて、そこが金魚すくいの店である事に気づいたのです。

TDLシンデレラに会える場所・靴屋の証言

TDLシンデレラに会える場所・靴屋の証言

ルック。

街のはずれの煉瓦造りの建物。

あれがわたしの靴屋。

よこはばが狭いせいでノッポに見える。あれがわたしの店。

傾いているのはわたしの腰と同じ。

石積みの家というのは傾いてなんぼなんです。

わたしが今までにこしらえた靴ですか？

覚えていない、いや、忘れたのです。

あまりに沢山の靴を作ったので。

いちばん印象に残っているお客様ですか？

ずいぶん昔、わたしがまだこの店を始めた頃に

シンデレラの靴を作りました。

「ほら、あそこにあるのが王様の舞踏会に、シンデレラがはいって行った靴なんです。」

C200 エレガンス・上海のメルセデスベンツ

C200 エレガンス・上海のメルセデスベンツ

メルセデスだった。

ボクと革ジャンがメルセデスに乗る。

運転手が中国語で何か言う。革ジャンが日本語にする。

ガソリンを入れてくれ。

と言っていると言う。

ガソリンがないとベンツが走らない。

と革ジャン経由でこちらに伝わる。

上海動物園から一時間ほど走った所にガソリンスタンドはあった。

給油後もメルセデスは走らない。

運転手と革ジャンが交渉している。

これだけ払う気があるか。

革ジャンがボクに聞く。

ない。

ボクは、この共産国でのクルマの乗り方について質問した。

ドアを開ける。

と革ジャン。

着席したら、目的地、それに値段の交渉をする。

「モースト・ライクリー」と革ジャンが続ける。

自分が運の悪くなかった事を悟る。

よし、ガソリン代は払おう。

ボクが言う。

近鉄東寺駅初弘法の夜・たとえ風が吹いていなくとも

近鉄東寺駅初弘法の夜・たとえ風が吹いていなくとも

ボクの他に客はおらず、奥にはぼつんとひとりの老婆が座っている。

お面をつけた人々が、ボクの背後を足早に通り過ぎる。

時折、しゃがみこんだボクの上から水槽をのぞく人もいるが、その人が金魚すくいをしない事を、ボクは知っていた。

老婆が断るのでもなく、ボクが邪魔をするのでもない。
けれど、ボク以外誰もここでは金魚をすくえない事を知っていたのだった。

50円玉とひきかえに、老婆がボクにアルミニウムの皿と紙の
あみを渡す。

ボクは水槽を見る。

ゆれている。

水面が揺れているのですた。

ボクは初めて気づいた。

水槽の水でさえ波立つのだ。

鯖江市河和田町・清喜屋さんの角

鯖江市河和田町・清喜屋さんの角

マエダのばあちゃんがボクに

原君は百回もお見舞いに行ったのに。

と言われる。巨人軍の原だ。

わりきれない思いで家に戻ると、父と母とおとうとがいた。これですべてだ。何も変わっていない。

先ほどの老婆の言葉を考えるうちに、何かが欠けているような気がしてくる。誰かが足りない。

もしかしたらおとうとが足りないのか。いや、おとうとはいる。

もうひとりのおとうとが、この家から、少なくともボクの心から消えてしまっている事を思い出す。もうひとりいたんだ。

そのおとうとが入院しているのか。

何気ない調子で、両親に消えたおとうとの事を聞いてみる。

両親は多少驚いた様子だったが、いつかはボクにも話すつもりでいたらしく平静に戻る。

おとうとは不治の病だと言う。

しかし、どうしてボクに隠していたのだろう。不治の病のおとうとより、そちらの方が気になる。

消えたおとうとの顔が思い出せない。

一九八〇年十月・日記から

一九八〇年十月・日記から

月曜

火曜 試合 明石の夕食 ミーティング

水曜 朝食 となり

木曜 風邪

金曜

土曜 藤井寺・ビール

日曜 西院 試合 ミーティング 三回生ふたり

数学の教師が現れ、授業が始まる。

黒板に問題が書かれる。問一、問二、問三、問四とある。

問一から問三までは出来なければいけないが、問四はむずかしいぞ。

教師が言う。

下ばかり向いてないで、キミキミ。

と、問四を指名される。

距離と時間と速度の問題。

ボクのノートには解答が最初から最後まで印刷されているが、条件が足りないと思う。

わかりません。

ボクはそのまま下を向いている。

近鉄東寺駅初弘法の夜・切り取られた海

近鉄東寺駅初弘法の夜・切り取られた海

老婆の声はひどく遠くから響いて来るのだった。

これは海。

『この水槽は海を切り取ったもの』だと言っただ。

老婆はボクに話しかける。

『海』を知っているかね。

ボクが『はい』と答えると、『それは違う』と言う。

『海』ではない。

老婆が地面に『海』の地図を描く。

『海の地図』は、ただの傾いた水槽にしか見えない。

もし、海図を持たぬ若い水夫がひとり船をだしたなら、

と老婆は続ける。

きっと、ワタシの切り取った海の底に墜落するだろう。

と。

一九八五年一月・日記から

一九八五年一月・日記から

今日から日記をつける事にする。
ただしメモ風。それほどに疲れている。たった一年の間、働いただけなのに。

書店でバイク雑誌（アメリカンタイプを漁る）

ソロバン屋さん

紀京で三品定食

カセットデッキを買いに寺町四条まで

ほとんど休み

中川無線の１Ｆの兄ちゃん

売れるものと売れない物がある

買わずに下宿へ

酒が飲みたくなる

クニダへ

休み

いつかの酒屋へ

開いていた

栄養

非日常

物書き

8時間の拘束

アルバイトの方が良いのでは

ゆっくりしていて

良いのか

外灘漢口路交差点・上海外灘海員俱樂部

外灘漢口路交差点・上海外灘海員俱樂部

交差点から路地に入り、小さな橋を渡った所にこぢんまりとしたレストランがあった。

『海員俱樂部』と書かれた店の中は暗く、甘酸っぱい匂いがした。

男がウエイトレスに注文する。ビールが運ばれて来る。乾杯をし、カニを食った。

店は満席に近かった。

ボクは男に、外貨兌換券と人民元との交換レートを聞いた。

一〇〇対一五〇

ボクは男に一〇〇〇元渡し、一五〇〇元を受け取る。

ボクたちは何本かのビールを飲み干し、いくつかの情報を交換した。

日本の浪人制度の事をまことしやかに説明し、エアロビクス教室のはす向かいの果物屋に週三回の割合でクルマが突っ込む事を教

え
た。

下京区新町通七条下る・一九八四年の上野病院

下京区新町通七条下る・一九八四年の上野病院

三月一九日

起床

父と京大病院へ 検査

上野病院

おとうと

京都大学合格

入院 心電図

父、おとうと帰福井

若い医師、肝炎の説明

夕食 おかずのみ

採血

点滴

閉目

三月二十日

起床

点滴 回診

昼 1 飯 x

夕食
頭痛あり
睡眠

三月二二日

起床
点滴 漏れる 左腕
昼食
夕食
イシグロ、カタオカ、他
閉目

三月二三日

起床
点滴 漏れる 右腕
カタオカ レマガ
サトウ 財布事件
閉目

三月二三日

起床
点滴
サトウ 財布発見したーと
サワさん 指輪物語

院長回診
ミキくん
ホリグチ
閉目

『A型じゃない』と shocked

近鉄東寺駅初弘法の夜・鏡の海

近鉄東寺駅初弘法の夜・鏡の海

老婆が何かつぶやいたかと思うと、水槽の海の表面が真っ青に変化する。

その青の中をひときれの雲が風に流されて行く。

かと思えば、雨音とともに海の表面に無数の穴が開く。
やがて雨も上がり水槽の海は穏やかになる。

つかまえてみるかね。

老婆の誘いになづくボク。

海をのぞき込むと、待っていたかのように深い底の方を銀色の皮膚を持った生物がゆっくりと横切って行く。

子供の頃にのぞき込んだ鏡の記憶。

床に置いた鏡に写る天井の奇妙な奥深さ。

二度三度とその巨大な銀色の魚は、小さすぎる水槽の海の底を
悠々と通り過ぎる。

バクだよ。

老婆が教える。

TDLシンデレラに会える場所・舞踏会の夜

TDLシンデレラに会える場所・舞踏会の夜

その日もいつもの通り、売れ残った靴を片づけ店の戸を閉め鍵をかけました。

もうすっかり暗くなっていました。

ランプを灯し急な階段を登り寝室に入りました。

今日も忙しかった。

ベッドに横たわると表通りの足音さえ聞こえて来る夜です。

表通りを数台の馬車が走る音。
教会の鐘が八つ。

また一台、大急ぎの馬車が表通りを走り抜けていきます。

そうか、今夜は宮殿で舞踏会だった。

美しく着飾った娘たち、身分の高い若者たち、どちらもわたし

とは無縁な世界なものでした。

一九八五年一月十九日・日記から

一九八五年一月十九日・日記から

一日中寝ていた。

昨晩は熊野寮でウイスキーを飲む。イナ、ノマ、アマダ、それと熊本出身の人。事務室当番だったイナ君はあとから合流。

午前二時半ごろ下宿にもどる。
相変わらずヒグチは週末同棲で留守。

下宿の玄関の鍵を紛失。

大家さんに開けてもらう。真夜中にすみません。

翌日も夕飯を食いに寮。

鍵はイナ君のベッドにころがっていたという。

迷っている。

職のくちが堺にあるのだが、行こうか行くまいか。

もし堺に行けば、K先生やS先生に会いにくくなるだろう。

夕食の時、何かにせかされているような気分になる。消化に良
いわけではない。

一九八六年四月七日・日記から

一九八六年四月七日・日記から

母といもうとが来た。

新阪急ホテルの高い店で飯。生ビール。おごってもらつ。
翌朝、新阪急ホテルのロビーで待ち合わせ。

特十七番の市バスで銀閣地道まで。
銀仙堂のおとうとの下宿を掃除

哲学の道

うどん屋で昼飯。

市バスで三条京阪まで。

伏見稲荷 王将で晩飯。

ポパイ定食と餃子。母、焼きめし、いもうとチャーシュー麺。

下宿。

掃除の仕方。

いつか夢で見た母の荒々しさ

京都駅までは送らず、京阪の駅まで。

外灘漢口路交差点・乾いた噴水、レイアイ

外灘漢口路交差点・乾いた噴水、レイアイ

男は街での暮らし方を知っていた。数軒の酒場と安ホテルの場所を地図にマークする。彼の紹介だと言えば良くしてくれると言う。

ボクの持っていた情報は紙に書かれたもので役に立たず、男の情報は伝承的だが実用的なものだった。

ボクは男に礼を言い、再び会う約束をした。

男は次の出航までの居所を地図に書いた。

今度会う時は旧友だ。

男が言う。

夢の機序をボクは知らない。

けれど、夢はしかたなくやって来る。

女が追いかけてくる。

ボクが乾いた噴水の公園に逃げ込む。

女がナイフで斬りかかる、ボクはそれを払い落とし奪う。

噴水の階段を駆け上ると水が湧いている。

水が満ちている。

女は乾いた噴水の中央に座っている。

ボクはナイフを湧き水に捨てる。

透き通った水中を回転しながらナイフが沈んで行く。

女が沈めたナイフを持っている。

手首を切る。

黒い血が乾いた噴水を埋めていく。

それがレイアイだった。

一九八七年四月一日・日記から

一九八七年四月一日・日記から

仕事は辞めた。

二月二十日付

今日、何もしない一日

十一時起床。熊野寮で寮食、二百十円。

サメジマがボクの食券を見て

職権濫用

と言う。流行ってるのか。

ボクがS先生に

時代を超えて読まれるものを書きたいのです。

と言う。

『プルーストは読みましたか』と聞かれる。
いいえ。

しかし、あれは精神科医の問いではなかったとあとで思う。

B棟の屋上で日光浴。

カタハシに借りたタイプライターでサイモンとガーファンクルの『アメリカ』をタイプしてみる。ミス多し。

夜飯も寮で。

寝るまでカタハシと暮を打つ。強い。
攻めてるようで攻められる。

午後九時四五分帰宅。

最近ずっとこんな生活。

良いのでしょうか、こんなわたしで。

福井市田原1丁目・フェニックスプラザの保健室

福井市田原1丁目・フェニックスプラザの保健室

廊下を歩いていると、向こうから犬がやって来る。

青い毛をした犬がボクについてくる。

ボクの足に噛みつく。痛い。

大声を出すと肉を食いちぎられそうだ。

狂犬病が怖くて保健室に青い犬なまま恐る恐るドアを開ける。

ワカスギという白衣の美人が、青い犬のお腹をくすぐる。

笑った犬がボクから離れる。

白衣のワカスギがピンク色の液体の入った大きな注射器を持ってくる。化膿止めだと言う。

飲んではいけませんか。

ボクが聞く。

ワカスギは注射器をボクの右手の甲にズブリと刺す。一気にピストンを押したので、中のピンクの液体がゴボゴボと音をたてる。

左手にまず液体はぶつかり、身体中を駆けめぐる。脳にも。

やたらと暑い。

注射器は右手に刺さったままだ。

近鉄東寺駅初弘法の夜・紙のあみ

近鉄東寺駅初弘法の夜・紙のあみ

ボクも、その生物の名前がバクだと言う事を知っていた。
そしてその銀色の巨大な生物を、ボクのこの紙のあみですくい
取る事が出来る自信すらある事に気づく。

ボクは紙のあみを海の上にかざし、呼吸を整えた。

次にバクが通りかかったらすくい上げてやる。

影がゆつくりと近づいて来る。

バクだ。

ボクは身構える。

今だ！

あみを海に入れる。

海の中に入ったあみは、巨大なバクにも負けないくらいの大き
さだった。

あみのちょうど中央に向かってバクが泳いでくる。

そうだ、そのまま進め。

ボクは祈る。

左京区北白川バプテスト病院・三月二十八日から四月七日まで

左京区北白川バプテスト病院・三月二十八日から四月七日まで

三月二十八日

起床

点滴

院長回診　二ヶ月はじつとして

サトウ

おとうと

ホリグチ　小型テレビをもらう

ミキ君　腎臓病の本を持つてくる　肝臓病の本を頼む

三月二十九日

起床

おとうと

ミキ君　いちご

クボタ　学会へ

三月三十日

おとうと　帰省すると

オオニシ　コミック　文庫本

院長回診　風呂許可

山本氏退院

三月三十一日

ミキ君 風呂用具をたのむ

四月一日

オオムタ・クボタ

ミキ君 風呂の道具

四月二日

ホリグチ トマトジュース

風呂

四月三日

いつもとおなじ

四月四日

胃 バリウム

ミキ君

四月五日

母、いもうと、おとうと

ホリグチ・コンドウ

四月六日

院長回診 あと一歩半だと

四月七日
オオニシ

黃浦路15号・浦江飯店ドミトリ

黃浦路15号・浦江飯店ドミトリ

浦江飯店のドミトリにボクはいた。三ダースほどの人間が、人種を問わず集まっていた。

ボクは何回か部屋を替えベッドを替えて、二週間ほどでようやく乾いた空気にも慣れた。

一階で売られていた安物のブランドで常に酔っていた。

当時、つまり一九八七年の上海に思いをはせながら、二〇一年のネットに繋ぎ、浦江飯店のウェブサイトに飛ぶと、以下のようなページが表示される。

无法找到該頁

？正在搜索的頁面可能已？刪除、更名或暫時不可用。

請？試以下操作：

* 確保？？器的地址欄中？示的网站地址的？写和格式正確无誤。

* 如果通過？擊鏈接而到？了該網頁，請与网站管理員？系，通知他們該鏈接的格式不正確。

* ？擊后退按鈕？試？一个鏈接。

HTTP 錯誤 404 - 文件或目錄未找到。
Internet 信息服務 (IIS)

技? 信息(? 技? 支持人員提供)

* ? 到 Microsoft 產品支持服務并搜索包括
“HTTP”和“404”的標題。

* 打開“IIS 幫助”(可在 IIS 管理器 (inetmgr) 中訪問) , 然后搜索標題?“網站設置”、“常?
管理任務”和“? 于自定義錯誤消息”的主題。

黄浦路15号・浦江飯店の日本人たち

黄浦路15号・浦江飯店の日本人たち

ドミトリーの大げさな扉が開き、ベッドに腰掛けたまま振り返る。それがレイアイとの初めての出会いだった。

男の教えた中で、一番安いドミトリーにボクは決めた。
定期船の出る前日と、入った日には満室になった。

さながら野戦病院のようだった。

無数のベッドがくつついたり離れたり。斜めだったり逆だったり。

金髪もいれば白髪もいる。

タバコを吸うヤツもいれば、酒を飲むヤツもいる。

男もいれば女もいる、じいさまもいればあさまもいる。

スキンヘッドもいれば長髪もいる。いないのは乳飲み子くらいのもだった。

ボクは朝から酔っぱらっては、無数の人と話をした。

イスラエルの紳士とは一番気があった。お互いに無口だったか

らだ。

宮崎から来たという、きのこ商のおじさんはとてもケチだった。一銭二銭の違いで何億もの違いが出るという。

ウソだろ。

日本マクドナルドに入っているマツシユルームの九十パーセン
トは彼の仕入れだと言った。

トキオの大学生は、やたらと喋るヤツでボクは時々ブランデー
を補充しに一階のロビーまで走らなければならなかった。

カメラマンもいた。電気工事屋もいた。

ボクはおもに外国人とつきあったが、それは日本人がキライだ
ったからではない。日本語に音楽を感じられなかったからに過ぎな
い。

意味ばかり分かりすぎるのだ。

TDLシンデレラに会える場所・右足と左足

TDLシンデレラに会える場所・右足と左足

ガン・ガン・ガン

物音がします。

どうやら風の音ではなさそうです。

わたしはランプを点けなおし下に降りました。

カーテンを少しめくり、ランプをかざすと外で人影が寒そうに震えていたのです。

立っていたのはみすばらしいなりの娘でした。

よく見ると娘は片方しか靴をはいていません。

どうしてこんな夜更けに片方の靴だけで？

娘は答えません。

かしてごらん、その靴。

手にとってみるとずいぶんと粗末な靴です。聞くと、姉さんのお下がりなのとか。娘の足には大きすぎたのです。

あわてるとすぐにぬげるんです。
ぴったりの靴を作ってあげよう。

お金のない事を言い出す娘に、

わたしが何屋さんか知ってるよね。

靴屋さん。

靴屋さんは何を作ってると思いますか。

靴。

なぜわたしは靴を作ってると思いますか。

人にはいてもらうため。

椅子に腰掛けた娘の前にひざまづき、右足の寸法をはかりました。
次に左足の寸法をとります。

右足と左足の寸法が同じ人はいないので、わたしは微笑みながら靴を作り始めたのでした。

近鉄東寺駅初弘法の夜・溶け落ちる

近鉄東寺駅初弘法の夜・溶け落ちる

祈りは祈りに過ぎなかった。

銀色の巨大なバクはまるで障害物など何もなかったかのように、紙のあみの中央を悠々と通り過ぎてしまう。

あまりに手ごたえのない感触。感触すらない。

事もなげにバクはゆっくりと視界から消え去って行く。

虚しい思いでボクは紙のあみを水槽の海から引き揚げる。

紙のあみは溶けて破れ、銀色の針金だけが残る。

もしかしたら

と思う。

もしかしたら、紙はバクの来る前にすでに溶け落ちてしまっていたのかも知れない。

ボクは、ぼんやりといつまでもしやがみこみ水槽の海で泳ぐ金

魚たちを眺めていたのだった。

鯖江市本町高野病院・四月八日から退院まで

鯖江市本町高野病院・四月八日から退院まで

四月八日

サワさん みたよしこと薬師丸ひろこの話
ミキ君

蒲田氏退院

四月九日

ホリグチ おとうと

河合氏退院

四月十日

加藤さん

四月十一日

おとうと コンドウ

四月十二日

おとうと ホカ弁

四月十三日

ホリグチ おとうと
サワさん

四月十四日
おとうと ツルカワ
クボタ プラモデル

四月十五日
おとうと 映画

四月十六日
ホリグチ 屋上
おとうと
ホリグチ

四月十七日
院長回診 退院の話
おとうと

四月十八日
おとうと
村上氏入院

四月十九日

新井氏入院

四月二〇日

おとうと

退院勧告

ホリグチ

四月二一日

おとうと クボタ・タケウチ

四月二二日

おとうと

四月二三日

ヤマムラさん

おとうと

四月二四日

退院

ホリグチ・クボタ・おとうと

鯖江市上河端町みつわ・カタカナの彼女

鯖江市上河端町みつわ・カタカナの彼女

みつわへ通じる道路がＪＲ鉄道下の工事で通行止めだ。
工事をはじめてもう三〇年ほど経つ。

ボクはみつわのレジで同級生を見たのだった。
名前が思い出せない。当時に比べて輝くような美しさをたたえていたからだ。

ミワ？

マリ？

タムムラ？

エイコ？

スズ？ミスズ？

ユミ？マユミ？

ユリイカ？

カタカナの二文字だけだった。

望ちゃんではない。

そのユミさんが高台で演説を始める。

初めはうえき君が好きだったのです。

黄浦路15号・浦江飯店のテレビ

黄浦路15号・浦江飯店のテレビ

男は決まって夜に現れた。

メルセデスの男だ。

ジャズや酒場で酒を飲んだ。

散歩の途中でボクに女をあてがおうとしたこともあった。

毎日が別れの連続だった。

目覚めると、最後の会話から数時間でベッドが空になっていた。きのこ商はきのこを買い付けに、大学生は女を買いに、イスラエルの紳士は東洋を知るためにトキオへと飛んだ。

誰もいなくなった大部屋でボクはテレビを観ている。

画面の中では、無地の背景の前で背広の中年がこちらを見ながら何かを解説している。目の前の水を背広が飲む。ふたたび解説が始まる。

ボクは奇妙な発音を聞いていた。

ラジオの方がまだ。

その時、部屋にやって来たのがレイアイだった。

左京区浄土寺・居酒屋ちくわ

左京区浄土寺・居酒屋ちくわ

一九八五年十一月一日 小雨

昨日、カタオカの結婚式のスライドを作るのに、カタオカ、アライさん、ホリがクボタの下宿に集まった。

打ち合わせの後『ちくわ』で飲む。

ホリとボクだけが残り飲み続けた。

帰りにムツゴロウで好み焼きを食う。たこ焼きも。すでに働き始めていたホリにおごってもらう。

虚しい。

本日同人雑誌『欠席届第十五号』を発行する予定だったが、ホリグチから電話があり明日になる。

ぬけがらだ。

肝臓が悪くなっているのか、ほとんど食欲がない。

左京区宝池自動車教習所・ナンバー321

左京区宝池自動車教習所・ナンバー321

教習所の教室に入ると、オートバイの授業が始まっていた。

『オートバイ』という雑誌を見ながら、教官が注文を取っているのだった。

教官は

ナンバー321を見て欲しい。

と言う。

ばらばらとページをめくる音が教室に響く。

ボクも必死でめくるがナンバー321が見つからない。

カルテだった。

ボクがめくっていたのはボクのカルテだった。

ナンバー322はあるのだが、321が見当たらない。

隣の若者がちらりとボクのカルテを盗み見る。

教官が近づいて来る。皆はオートバイの申込用紙を手渡している。それを受け取りながら教官が近づいて来る。

見つかりましたかな。

ナンバー321は何処にあるのですか。

思い切って質問してみる。

あきれ顔の教官はボクのカルテを調べるが、ないことに気づき不思議だと言う。

京都市東山区・安井のこんぴらさん

京都市東山区・安井のこんぴらさん

人を信じようとはしているが、神社については思った事がない。

神社でアルバイトをした。

二日酔いの朝早くに指定された場所に行くと、そこにはドーナツ状の巨大な石があった。

境内の砂利の上に半径約一メートル、円周およそ二メートルの石が横になっていた。若いジャージの神主が現れて、その日の仕事をボクに告げる。

石を立てる事だった。

丸太、ロープ、スコップ、それが道具のすべてだった。

人間が中央の穴を通り抜ける事が出来るように、ドーナツを立てるという注文だった。

ボクは石材屋じゃない。

百万遍の学生センターで、この神社のアルバイトの紙を見つけて応募しただけだ。軽作業、仕事内容に書いていたではないか。

神主が言う。

京大君でも出来ひんか。
やってみます。

上京区堀川通一条上ル清明神社・欠席届15号

上京区堀川通一条上ル清明神社・欠席届15号

一九八六年十一月一六日

一四日、つまり三日遅れて『欠席届十五号』発行。
ホリグチが『ぜろ吉』という題名を見て、

こんなんばかり書いてると、こんなんしか書けんようにならず。

と言う。

一九八六年一〇月一八日

『やんちゃ』合評会に出席したあとホリグチと飲む。
酔ったホリグチに

書けば書くほど、何もない事のわかるヤツや。

と酷評される。

一九八六年一月一六日 午前一時半

テレビでロッドスチュワートのMTVを観る。

Oh, I wish I was home tonight
t
や
Sailingが懐かしい。

彼のしゃがれた声が、生理的に耳に心地よい。

『タケシのオールナイトニッポン』でも聞きながら寝よう。

京都市東山区・安井のドーナツ工事

京都市東山区・安井のドーナツ工事

ボクはドーナツの下の土を掘る。

昔、読んだ英文にイースター島のモアイの記事があった。どうやってあれを立てたのか。エジプトのピラミッドについても。

彼らは置いておいて、下を削る。

一時間もするとドーナツは四五度ほど傾いた。簡単だ。京大君に出来ない事なんてない。

ドーナツがあちらに倒れないように慎重にロープを張り、念のために土嚢を積んだ。

昼に神主が現れる。

屹立しかけのドーナツを見て満足気だった。

彼がボクに礼を言い給料をくれそうになる。

まだなんです。

あげるよ。

応接間に通され寿司を食わされた。

あの石は何なのですか。

彼は

明日ここに来れば分かる。

と答える。

ボクは静かに重たい石を持ち上げた。

京一会館閉館・宮下順子とその後

京一会館閉館・宮下順子とその後

うどんでも押し込もうと自転車で外出。

??? ああ、耳たぶの魅力的な彼女と別れた勝手な記念日でもあるし。

ああ、カオリさんか。

自転車をこぎ出す前か、それともその後か。
思い出せないまま、京一会館で『オキナワの少年』をやっているの思い出す。

北大路通りまで行けばうどん屋があるだろう。

うどん屋はなかった。
毎度の事だ。

カタオカのスライドショーの事を思い出し、一乗寺のイエローカメラに飛び込む。

今日中での焼き増しを頼む。

京一会館閉館・連鎖する事件

京一会館閉館・連鎖する事件

今日中に焼き増しをお願いします。

受付のガマガエルのような女が、『銀閣寺店なら二時間で出来ます』と言う。静かにもと来た道を引き返しイエローカメラ銀閣寺店。

スフィックスのような美人と、キツネを神経質にしたような女。スフィックスは郵便局員と世間話。

ボクはキツネ女に声をかけられる。

いらつしゃいませ。

申込書に『うえき』と署名する。

きつといい人なんだろうなあ、けどなあ、可哀相だなあ、オレ、コイツとだけは結婚したくない、などと思いながら店を出る。

いまさら映画に行く気もせず、ふとクラナガに貸していた1360円を思い出す。

熊野寮に直行。

クラナガは寝ていた。ひどい風邪で体温計は三七度四分。昨日は三八度あったと言う。

ボクが金を返せと言うと、銀行に行つて来てくれと言う。

百万遍の勧銀まで走る。

銀閣寺まで坂道を登つてキツネから写真をもらう。

今日はよく往復する日だ。しかも遠回りの。

午後七時。

クラナガが起きてきて病院に行くと言う。カタハシのバイクで上野病院。お気に入りの看護婦さんは不在。

下宿に戻ると福井の実家から、背広とミカンの箱。

京都市東山区・安井の四本の矢

京都市東山区・安井の四本の矢

翌日神社に行くと、鳥居から赤と白の垂れ幕が下がっている。
ごったがえす人々の流れにのり前進する。

あの石には白い布がかけられていた。

タキシードの男が数人現れ除幕式が行われた。
石から白い布がはずされる。

石はコンクリートの土台でしっかり固定されていた上に、しめ
縄で仰々しく飾られていた。

昨日ボクの立てた石とは別物のような気もした。

正装した神主が石の説明を始める。

この石は

と神主は言う。

悪縁を切り、良縁を結ぶ尊い輪なのです。

石のこちら側から向こう側にぐり抜ける事でそれが達成される、そう神主が言った。

太鼓の合図とともに、脇に控えていた四人の白装束が四本の矢を放つ。

四本の矢は青空へ。

左京区吉田本町・旧保健管理センター

左京区吉田本町・旧保健管理センター

今日S先生に、『なぜ卒業する気になったのか』と聞かれる。
自分でも不思議に思う。

肝炎で入院した時に考えた事を話す。

生きていさえすれば良い、親に頼ってでも。

おとうとの京都大学への入学の事を話す。

S先生としては、パリ大学への一年間の留学を終えてのボクとの再会、『卒業』に関して、唐突な印象を受けたと言う。

卒論関連で、オットーランクの『英雄の誕生』を読んでみたら、
とアドバイスをもらう。

熊野寮で晩飯。

午前二時半まで大貧民。

Astor House Hotel, Shanghai First im

Astor House Hotel, Shanghai Fir
st impression

KONNICHIWA

I said to REIAI, and she said

HELLO

to me.

Again, I pushed a wrong butt o
n to speak to REIAI.

Where are you from?

I asked.

From HongKong.

REIAI replied.

She was on the way to Kunning,
where her uncle lived. She sa
id "I have something to give h
im."
"

I tried to listen to the prope
r nouns she spoke, but I did no
t understand what something wa
s.

After I gave up understanding
the noun, I told REIAI about y
oung ROUNIN system in Japan, d
ying Emperor HIROHITO, and K's
wedding ceremony in HIROSHIMA.

左京区京都大学教育学部図書室・欠席届15号

左京区京都大学教育学部図書室・欠席届15号

一九八六年一月二二日

昨日、教育学部の図書室でホリグチに会い、ぶらぶらと北大路通りまで歩く。『欠席届の会』の会員カードを作る事になる。

李白、イエローカメラ、百万遍の文房具屋、ハナイカメラ、吾作と歩いて結局カードは作らずじまい。

K先生に言われた言葉を思い出す。

もし、海にひとりの少女が溺れかけているとしたら、君は必ず助けに行くでしょう。

あり得ない。

守るものがなければ、怖いものはないはずだ。

とも言われた。

ボクは何を守っているのか。

十日町市立中条中学校枯木又分校・魔女狩り

十日町市立中条中学校枯木又分校・魔女狩り

中学校の校門の前で、魔女たちが祈りを捧げている。
門の向こうにはギロチンが準備されている。

一年八組の教室に入る。

ナカガワが銀色の手すりでたんこぶを作って、テルミと介抱したのはここだったか。

授業開始の時間になっても先生が来ない。
待つうちに五時間目になる。

職員室への階段をみつつほど下りてみる。

目が覚めた。

もう午後一時だ。完全な遅刻だ。
急いで学校に行くと、門の前に人だかりが出来ている。

そこでは、ひとりの生徒の処刑が行われていた。
その生徒は、もちろん女生徒だ。

よく見てみるとその人だかりは、鎖で繋がれた女生徒を見てい

る魔女たちだった。

ギロチンの刃が下りた。
女生徒が無口になった。

地下鉄「人民広場」駅下車・新光酒家での再会

地下鉄「人民広場」駅下車・新光酒家での再会

台風のせいで船が動かず、大部屋はがらんとしていた。

レイアイは、ボクから一番離れたベッドに荷物を置き、ベッドを整えた。

ボクが食事に誘い、レイアイが断った。

私たちは新しい友だちで、食事をするほど親密ではない。

というのが彼女の言い分だった。

オールライト、ネバーマインド。

ボクはひとり外出し、カニを食うためにうってつけのレストランに入った。かつてメルセデスの男に連れられて入ったのだった。

ワインを注文すると、これで良いかとウェイターが聞く。ゴクリと飲み込む。味なんて分からない。

ファンタスティック

その時、ひとりの女がボクのテーブルに案内されて来る。

再び会えてわたしはうれしい。

とレイアイとボクが言う。

わたしたちはもう旧友だから、一緒に食事をしましょう。

レイアイがボクの斜め向かいに座る。

シンデレラ(Cinderella)・ルーズな女のマインドコントロール

シンデレラ(Cinderella)・ルーズな女のマインドコントロール

シンデレラは時間にルーズだ。

証拠其の壱

舞踏会に遅刻している。

証拠其の二

十二時には帰るという約束を守れない。

証拠其の三

継母の言った時間通りには、裁縫が間に合わない。

証拠其の四

姉たちに食事ののろいのを指摘されている。

しかしながら、この時間に対するルーズさが若き王子に強い印

象を与える。

もし仮にシンデレラがパンクチュアルな女だったら。

あんなにも王子は彼女に心惹かれただろうか。

シンデレラはまさに約束の時間を守らない事によって玉の輿に
のる事が出来たのだ。

ましてや結婚してからの生活は想像に難くない。

女が常に待たせ、男が何時間も待つ事になる。 買い物にしても
出産にしても。

左京区聖護院・BARBERヤマダと昭和の金

左京区聖護院・BARBERヤマダと昭和の金

一九八六年一月二二日

ホリグチと七条の職安へ行った。

散髪に行った、『エコーハガキ』収集家の散髪屋さん。

明日、卒論の最終発表会がある。朝一一時五五分から。不安。
ああー、どうしていつぺんに大事な事ばかり起こるんだろう。

明後日『やんちゃ』合評会もある。

一九八六年一月三一日

昨日心理の教室に行ったら

うえきさん、オカモトまで来て下さい。

との貼り紙。

やはり卒論に不備があつたのかとオカモトさんの机まで。

すると、昭和五七年の心理学会の時のアルバイト代、一万九百円の領収書を書かされ金を受け取る。

通りがかりの本吉教授に

今頃取りに来るとは、夢でも見てたんじゃないの。
と笑われる。

既知の海アポロ14号の着陸地点・紅いうさぎ

既知の海アポロ14号の着陸地点・紅いうさぎ

二組の絵を持ち、絵を見ながら英語で物語を作る授業。

一枚目の絵を見ながらボクが物語る。

You do not really understand something unless you can explain it to your grandmother.

アインシュタインの言葉を引用する。

おばあさんが飛行機を作る話をでっち上げ、何とかジエンド。

二枚目も物語を作るように教師に言われるが、二枚目は白紙なのだった。

ボクの代わりにエイコさんが話し始める。

うさぎが谷を下っていく。早く街に出たい。そこでうさぎは土を掘り進む。するとポコッと再び地表に出る。

そこが目的の街だった。

ボクが『うさぎ』という文字を英語で白紙に書き込む。

赤のマジックで『R a b b i t』と書いたが、いつの間にかうさぎの絵になっている。

二枚目の紙全体を埋め尽くす。
真っ赤だ。

地下鉄「人民広場」駅下車・乾いた噴水の夢

地下鉄「人民広場」駅下車・乾いた噴水の夢

ボクたちはビールで再会を祝った。

君の夢を見た事があるんだ、レイアイ。

話の途中でボクは切り出した。

ちょうどボクが、自分の事をまだ一度も書いていない小説家なのだと説明した後だった。

ボクはいつも一貫性と普遍性に注意を払っている。

小説を書いている時にも、酒を飲んでいる時にも一貫性と普遍性を持たすように努力している。

壊れたりモコンのせいでアトランダムに画面の変わるテレビの前にいるような事だけは避けたいといつも願っている。

しかしこれが実情だ、ボクの。

ボクはひっきりなしにチャンネルを変え、明度を変え、音量を変え、色調を変え満足できずにつぶやく。

何だ、これは。

京都大学医学部附属病院・精神科の中庭

京都大学医学部附属病院・精神科の中庭

ツブラヤが言った、精神科の中庭がとても素晴らしいのだと。ボクには、荒れ果てた地面に立つバスケットボールのリングしか見えない。

精神科医Sが分析室で妊娠空想について説明する。

あなたと祖母が交わって作品が生まれる。あなたと祖母が交わって子供が生まれる。

あなたは子供を身籠もる、しかし男のあなたには産むのは不可能だ。

あなたは子供を産めない事を母に知られるのを恐れている。

あなたは自分のペニスを母から隠す。

母に知られたくない。

女性たちの視線を強く感じる。

子供を産む事の出来る女性の視線が、子供を産めないくせに子供を産めるふりをするあなたに強く注がれる。

あなたは必死に隠し続ける。

それは、あなたのペニスでもある。

京都市東山区界限・石屋な日々

京都市東山区界限・石屋な日々

青い空に見失われた四本の矢は、間もなく白装束の男たちによって回収されて来た。

真新しい四本の矢が火にくべられる。

神主が煙ごしに説明をする。

四本の矢は四方の悪を射った。

ひとりのリュックサックの金髪がボクに英語を話すかと聞いてきた。

イエス・アイ・DO。

神主の言った通りに英語にした、教科書通りの直訳だった。

日本人はそれを信じるのか。

と彼女が聞く。『ビリーブ』でなく『ブリーブ』に近い発音。

わかりません、とボクが答える。

ブロンドは聞く。

あなたはそれを信じるのか。
のー。

とボクが答える。

京都市東山区界限・十五メートル離せ

京都市東山区界限・十五メートル離せ

清水寺の近くの神社では石を埋めた。

穴の開いていない馬鹿馬鹿しくでかい二つの石だった。

山の上の神社の一角でボクは何日間か土を掘り続け、石を埋めていった。石の天辺を〇、一メートルだけ出し、その距離を正確に十五メートルの間隔にしろというのが今回のミッションだった。

名付けて

氷山の一角ミッション

これがなかなか難しい。氷山の一角を作るのはそうでもない。その一角どうしを十五メートル離すのに難儀した。

二つの巨大な氷山を設計図どおりに埋めるのに約二ヶ月かかった。給料も二ヶ月分だった。

それ以来、ボクはあの神社に行っていない。

おそらく、白い布がかけられ信じがたい使用法が説明されたの

だろう。

清水の近くで。

そして観光の外人が聞く。

D o y o u b e l i e v e t h a t ?

栃木市倭町・蔵の街の【戦う】

栃木市倭町・蔵の街の【戦う】

蔵の中の冷蔵庫にサイダーのあるのを思い出し取りに行く。

誰かがいる。

予期不安。

二・三步進むと段ボールと段ボールの間に人間がふたりいた。
叫ぼうとするが、声がかすれる。

人間はカマを持って襲いかかってくる。

ボクはオートバイ用の分厚いグラブをはめている。
勇敢に戦う。

飛び道具が必要だ。蔵を飛び出る。

薪が積んである。駄目だ、これは軽すぎる。

おもかる石がある。駄目だ、これは重すぎる。

さらに走って小石を四・五個拾う。

蔵にもどり、自分の手を見る。グラブの人差し指は防御創でぶ

らぶらと垂れている。既に人間は見当たらない。

千代田区千代田・皇居での終戦

千代田区千代田・皇居での終戦

昭和二十年八月十五日正午、君が代が流れた後、レコード盤に吹き込まれた昭和天皇の声がラジオから流れ始める。

『堪え難きを堪え忍び難きを忍び・・・』

ポツダム宣言を受諾し、無条件降伏。

レコード盤の天皇の声が

『総力を将来の建設に傾け』

『世界の進運に遅れざらむことを期すべし』

と臣民に届けられる。

昭和二十年八月十五日、午前十時五十分、最後の御前会議では軍部がポツダム宣言の受諾を拒む。

昭和天皇が言い切る。

『この際、先方の申し入れを受諾してもよろしいと考える、どうか皆もそう考えてもらいたい』

天皇は言う。

『日本がまったく無くなるという結果にくらべて、少しでも種
子が残りさえすれば、さらにまた復興という光明も考えられる』

二千十一年夏、日本が降伏してから六十六年が経ったらしい。

荒川区東日暮里・井ノ口商店のウイスキー・ボンボン

荒川区東日暮里・井ノ口商店のウイスキー・ボンボン

ボクの子供の頃のいやな思い出を聞いてくれるかな。

近所の駄菓子屋に友だちと入った。友だちは迷ってガムを買った。

ボクは何も買わずに店を出た。

友だちにもらったガムを噛みながらの帰り道、ボクは何気なくポケットに手をつ込む。

何かが触れる。

取り出してみると、紅い銀紙に包まれたウイスキー・ボンボンだった。

どうして入っていたのか分からない。

ポケットには、しかし、ウイスキー・ボンボンが入っていた。

確かにボクはあの駄菓子屋でウイスキー・ボンボンに触った。買おうかなと思ったのも覚えている。

けれどボクは買わなかった。

盗んでしまった。

それも、自分自身がそれと気づかないうちに。

ウイスキー・ボンボンは友だちに感づかれないうちにポケットにしのばせる。

返しに行く？こつそりもとに戻す？

お金を払いに行く？駄目だ。盗んだのを白状するようなものだ。

誰も見ていなかった。

そうだ誰も見ていない。

このまま黙っていれば良い。

誰も見ていなかったのだから。

ボクは友だちと別れた後、ウイスキー・ボンボンを川に投げ捨てた。

銀色に輝きながら川床を転がって行った。

浅草通り交差点・合羽橋道具街

浅草通り交差点・合羽橋道具街

本日のむすびの一番、かっぱ泳ぎ決勝です。

第四のコース、ホマレくん、かっぱ橋商店街所属。

オリンピックプールにこだまするアナウンスと五万がっぱの大歓声がボクの背中をグイと押す。

第四のスタート台に立つ。

考える間もなくスターターがピストルを構える。

パーン。

ザブーン。

心理学的にみて、切羽詰まった葛藤状態においては、カップパの取る行動はあきらめか、悪あがきのどちらかだ。

ボクはあがいた。

かっぱらしからぬクロールで。

五万がっぱの声援の中、ボクはゴールにたどり着く。
水の中から顔を出し後方を振り返る。

はるか後方を数がつぱがばちやばちやと進んでくる。

京都市南区四ツ塚町・円道書店に就職

京都市南区四ツ塚町・円道書店に就職

二月二八日午後九時四分

書店に勤め始めて今日で四日。
月火水木と過ぎた。

久しぶりに帰りに映画館。『アマデウス』、天才モーツアルト
と秀才サルサリの物語。

数回うとうとする。
体の疲れが眠気をもよおす。
頑張つて、しかし、最後まで観る。

い。
労働はきつい。午後五時にもなると左の腰と両膝と足の裏が痛
我慢できないほどではないが。

い。
そう、ただのアルバイトだと割り切ればこんなに楽な仕事もな

午後五時半からはボクの時間だ。

ボクの本分は創作にある。

仕事はあくまでも金のため、そのことを忘れないようにしよう。

左京区浄土寺・北白川遊雲荘午前三時

左京区浄土寺・北白川遊雲荘午前三時

二月十八日午前一時三分

昨日、正確には一昨日の午前三時頃、不安の発作。

民宿の狭苦しい部屋で、眠ろうと目を閉じていると、先ほどまで観ていたアダルトビデオのフェラチオのシーンや、いやに大きな小陰唇が目に見えかねて来る。

急に不安が襲って来る。

ちょうどあの時と同じだった。

休学を決意した冬の北海道旅行。

函館の湯ノ川温泉旅館『北の宿』の時に襲ってきた不安だ。

叫びそうになる。

ボクをひとりにしないで！

漆黒の宇宙空間に、ひとり放り出されたような不安。

誰か助けて！

もし、ボクが今自殺したとしたら、この日記は自殺の有力な証拠となるだろう。

京大生、卒業を前に自殺か

Astor House Hotel, Shanghai REIAI advised

Astor House Hotel, Shanghai REIAI advised me

I told REIAI about the dream that I had.

And I apologized to her for the inconsistency of my dream.

Thank you for having the dream that I appeared.

REIAI replied.

She proposed to me that I should write down the dream I had. She said, "To write a novel that you have not finished writing yet, you should note the dreams you dream."

After that night, countless days went away through our large dormitory.

Americans, Finlanders, Japanese, West Germans, and Hong Kong

r s d i d I t a l k t o .

M e a n w h i l e , o n t h e s a m e b e d w a s
R E I A I .

左京区北白川下別当町・井筒屋酒店のレッド

左京区北白川下別当町・井筒屋酒店のレッド

一九八 年頃、わたしは遊雲荘にいた。

ワタヌキさんというじいちゃんの経営する下宿だった。

あの頃八十歳を越えていただろうか、一日中下宿にいる事が多かったボクは良く各部屋の電気メーターを計らされた。

その頃の日記に目をとおす。

月

火 ふつかでオールド一本

水

木 赤玉ワイン ー、ハリットル Pちゃんと北白川のうどんのおばちゃん所で二合瓶いつつ。飲み過ぎる。

売れ残りの天かすをもらう。

金

土 ホワイトを一本

日 日本酒を五合飲んでから外に。

生体反応を持つ京都市バスの中でエイコさんと会う。

夢。

エイコさんからのメモ。

——〇〇〇〇円の映画代金をもつしばらく待って下さい。

左京区残されし拠点・京都大学西部講堂

左京区残されし拠点・京都大学西部講堂

がらんとした講堂の中でボクはコーヒークップを拾う。
外に出て水道で洗う。水を一杯飲む。生ぬるい。

最後の十一月祭も終わった。

ステージ横の戸棚にカップを置く。

ざらつ

と音がする。

倶楽部長屋の方で包丁の音がする。

コーヒークップを手に取り洗い、包丁の音のする方向に行く。
給食のおばさんの大きなやかんからお茶をもらう。

ふとカップの中を見ると三匹の虫。

よく見ると、給食室の足元には無数の虫がいる。

虫眼鏡でカップの中の虫を焼き殺そうと外に出る。

ボクのオートバイの荷台に、コーヒーカップを置く。エンジンがかからない。

荷物がバイクと同じように振動しなければエンジンがかからないのだ。

二 一 一 年 一 四 日 ・ 日 本 経 済 新 聞 文 化 欄 【 古 い ノ ー ト か ら 】

二 一 一 年 一 四 日 ・ 日 本 経 済 新 聞 文 化 欄 【 古 い ノ ー ト か ら 】

市川森一氏がニーチェを引用し、今回の東日本大震災、東京電力福島第一原発事故について言及していた。

『我々の文化は、緊張の呵責をもって、一つの破局をめざすように突き進んでいる。落ち着きなく、強引に、慌てふためいて、もはや、自己を省みることなく、また、自己を省みることには怖れをなして、ひたすら最後に行き着こうとする流れのように。』
ニーチェ

一 九 年、ニーチェは肺炎で病死する。五十五歳。

一八八九年一月三日にニーチェの精神が崩壊。数日後、ニーチェは何人かの友人に短い手紙を送る。

コジマ・ヴァーグナー宛の手紙では、

「私が人間であるというのは偏見です。…私はインドに居たころは仏陀でしたし、ギリシアではディオニュソスでした。…アレクサンドロス大王とカエサルは私の化身ですし、ヴォルテルとナポレオンだったこともあります。…リヒャルト・ヴァーグナーだったことがあるような気もしないではありません。…十字架にかけられたこともあります。…愛しのアリアドネへ、ディオニュソスより」

と書き綴る。

心配した友人たち、そして家族が彼を精神病院に入れる。

フロイトの『夢判断』が一九〇五年の出版であるから、精神分析の手法などまだなかった時代だ。

北向きの窓から中庭の見える閉鎖病棟でニーチェは何を考えたのか。

もし仮に、わたしが再生するとしてふたつの選択肢しかなかったら。

波瀾万丈の五十五年の人生。

何事も起こらない百十年の人生。

伏見工業高校前・卍道書店伏見支店

伏見工業高校前・卍道書店伏見支店

一九八六年二月七日・午後十時

伏見へ行ってみた。

少々がっかり。伏見支店の外観があまりにみすばらし過ぎて。
右隣が焼きそば屋、左隣がパーマ屋。

伏見の街は活気があつて気に入ったのだが。

最近夜になると気分が落ち着かない。

ひとりでいる時も、クラナガの部屋で数人と一緒に話をしてい
る時も、風邪をひいて熱でもあるかのように、ひと音、ひと声が頭
に突き刺さる。

人はこれを何と呼ぶのだろう。

ボクは、今のボクがニセモノだと感じる。

不安になる自分、これはニセモノ。

元気な自分、これもニセモノ。ニセモノ感。

一九八六年二月二七日・午後十一時十五分

昨日から働いている。

足が疲れて遠足の後のようだ。

働くボクは、果たして夢分析に興味を持ち続ける事が出来るのか。そもそも分析に終わりはあるのか。

朝八時に出勤するため、夢を書きとめる時間が十分にとれない。

『夢日記』と関連するが、『創作』の方はどうなるのだろう。

ここ二日間の帰宅後の状態、疲労感の中で何かを書く事は可能だろうか。

確かな事は、無理に書いても仕方がないという事。

待とう。待つ事にしよう。書く気になるまで。

一ヶ月でも、一年でも、十年でも、百年でも。

夢日記・知らない時間知らない場所いち

夢日記・知らない時間知らない場所いち

夢日記。

もう三十一年もの間、決して開けられた事のなかったルーズリーフノート。

初夢は一九八〇年の九月二九日とある。

九月二九日 怒り 食堂

十月十六日 教室での不適応

十月二七日 教室での不安

十月二八日 教室 テキストなし

十月二九日 分割 房総半島 去勢？

十月三 日 女性＋針 自分＋ガラス 去勢？

十一月四日 駅 切符なし

十一月三日 実家に t e l x

十一月六日 中学 ステージ 歌

十一月八日 女性に話しかけられない

十一月十三日 人をさがす

十一月二三日 女との別れ

十一月二六日 食べ物でケンカ

十二月二七日 逃亡のテーマ

十二月二八日 旅行 バス 入り込めない 五人 女二人、男

三人

ノートのすみに

play

共通一次大戦前の大学生Ⅱ戦前派

とあつた。

髪を切る父・いもうとあるいはむすめ

髪を切る父・いもうとあるいはむすめ

帰省すると、いもうとの髪が長い。テニスでインターハイまで行ったらしいが、この髪はどうだ。

シャンプーでもしたら、乾かすのに何時間もかかりそうだった。

玄関のドアを開け放ち、ボクが靴下をはく。

右足親指の巻爪の矯正中で、鋭く尖ったシルバーの金具が親指に固定されている。その周りをファーストエイドで二重にカバーする、それが当時の日課になっていた。

傷バンは奥が深い

紙製の包装のはがし方、さらに本体に付着した白いカバーのはがし方。

この手の作業は、慣れた頃には治っているというのが普通だが、爪の矯正は違う。整形外科医によれば数ヶ月かかると言う。

ボクが靴下をはく。

左足の靴下はくたびれてぶよぶよだったが、右足のには色がなく透明だ。

玄関から見上げる夏の雲。

いもつとが二階の窓からおそるおそる瓦に出て来る。

髪の毛が短い。

髪の毛が短いいもつとが屋根から飛び降りる。

隣の家とのブロック塀に、ぐわっと体をぶつけて地面に落ちる。

自殺した！

大声で叫び母に知らせる。

ぐったりしたいもうとを母が抱えて戻って来る。
いもつとの両腕から血が落ちる。

とうちゃんが、電氣カミソリで髪を切ってしまった。

二 二年に死んだ、わたしの父ちゃんの事だ。

夢日記・知らない時間知らない場所にい

夢日記・知らない時間知らない場所にい

夢日記。

もう三十一年もの間、決して開けられた事のなかったルーズリ
ーフノート。

一九八〇年

十二月六日 女性と男性 食べ物 F
十二月八日 レコード割れる 去勢？
十二月九日 掃除 教室 怒り CL A
十二月十六日 一 男と女 はぐれ

二 ブーツ 探す

十二月十七日 小さい食べ物 F

十二月十九日 ケイサツ 不安

十二月二十三日 テレビ 母が重体

十二月二十四日 テレビ 弱い父 母

十二月二十五日 一 ペア（Nさん）×

二 おとうとの本を売る

三 ふとん たたむ

ノートのすみに

南海ホークス

精神 不可視でどれかの面（三面）で表現される
つまり、心的^{イキジ}、身体的^{マイント}（肉体）、観念的^{マインド}
とあつた。

Astor House Hotel, Shanghai BLESSED

Astor House Hotel, Shanghai BLE
SSED

While REIAI and I slept many n
ights in the same large dormit
ory, and we wine d and dined m
any times, I got to wait for R
EIAI to come .

When she did not come back to
the room at night, I often go
t terribly nervous .
I could not go out .
I could not eat anything .

After the awful nights, I used
to be relieved to see REIAI s
leeping on the bed at the corn
er .
I invited her to go out for br
eakfast, so did she .

REIAI once praised me for my e

ating behaviour.

” It looks like you are really enjoying your meal.”

She said with a small smile.

I did not understand what she meant.

I asked what she wanted to mean.

REI A I taught me that EATING is essentially blessing.

十五夜の夢・朔月

十五夜の夢・朔月

その子供の父親は男の子に机を買う金がない。

父親が言う、子供が机にかじりついて勉強しているのを見るのが嫌いだ、と。

男の子は、父親に見つからず、静かに一人で勉強の出来る時間を放課後の教室に求めた。

男の子は算数をしている。

彼はとても利口で努力家である。

鉛筆をかじる癖。

これから彼は中学、高校、大学とエリートコースを歩む。
父親の自慢の種になる。

だが彼は本物の数学者にはなれず、結局父親の跡を継ぐ。

男の子が家を飛び出す。

というのも彼の両親、特に父親が家を継げ、つまり百姓になれと強いるからだった。

男の子は独創的な仕事に憧れる。

思い立って家出をしてみたものの、夜の闇は深く、これからの見通しがまったく立っていない。

悩む。

上京するのは良いが、お金もない、頼れる人もいない。どうしたのか。

丸岡町羽崎風邪のころ・ことばの星灯り

丸岡町羽崎風邪のころ・ことばの星灯り

一九九二年一月二日

きょうはねんしで
ひともんちやく

かいてんずしで
おこさまずしをたのんだら
あかいかさがついてきた

ほとんどなにもたべない
ころ
あいいくびょういんに
おかあさんと
きみをおいてかえった

げえむせんたあの
あんぱんまんの
ぼつぷこーんは
うりきれで

よるにかえってから
せきのでるころに
うりきれをせつめい

いますこしおちついたところ
ごごじゅういちじあたり

一月三日

あつぎについてのかいしゃくのそういで
おかあさんがおばあちゃんとたたかう

うすぎはのおかあさんと

せきがでるのは

さむいからと

どんどんきせるおばあちゃんとの
てっぺいてきなたたかいだ

おとうさんには

なにもいうしかくがない

じつは

わたしは

あつぎでここまでそだてられたのだ

どうしようかな

こころくん

おい

こころってば

夢日記・知らない時間知らない場所さん

夢日記・知らない時間知らない場所さん

夢日記。

もう三十一年もの間、決して開けられた事のなかったルーズリーフノート。

一九八一年一月

一月九日 三匹の虫 アリは逃げた

一月一〇日 オートバイ 荷物をおいて出発

一月十一日 うえきばち 割れなかった 不安

一月一五日 おとうとの友人

一月一六日 泳ぐ 海 救命具が反対

一月一七日 ー イド 彼氏 青い犬 噛みつく 男の人 白

衣の女 去勢不安

二 母と女性たち 湖

三 水 おほり 座布団

四 M先生の案内 くらい感じ

一月二〇日 シンボサン（女性）

一月二二日 オートバイ（変形）と一体、圧縮 乗りにくい

一月二三日 ー 面積 叫び

二 教室 くやしき

一月三日 一 ふとん 裸のおばあさん 不安 安心
二 トランプ 自分だけ三枚（右手に二枚） 十
枚 ハのファイブカード

一月二五日 一 旅行 金庫のとびら
二 丸テーブル うさぎ 赤い ブタ？

一月二九日 一 丸木橋がわかる 不安
二 じらす女性

ノートのすみに

詩人になりそこねたら
心理学者か
花屋になるしかないよね

とある。

Astor House Hotel, Shanghai Being seen

Astor House Hotel, Shanghai
Being seen from the urban landscape

"EATING is essential."

REIAI said.

I answered,

"Nobody taught me."

Nobody were my parents, my father and my mother.

I explained to her.

"You are the first human being to tell me the truth that EATING is essentially blessing."

I thanked REIAI for that.

I confessed to her that nothing was more embarrassing to me than

h a n b e i n g s e e n m e m a s t u r b a t i n g ,
u b l i s h i n g m y b o o k s , a n d m o r e t
" I t ' s a l i t t l e b i t l e s s t h a n p
S h e a s k e d m e , " H o w e m b a r r a s s e d
a r e y o u ? "
n b e i n g s e e n m e h a v i n g a m e a l .

河和田町ひとりきりのこころ・こどばの星灯り

河和田町ひとりきりのこころ・こどばの星灯り

一九九三年一月四日其の巻

あいいくびょういんに

いくまえに

ふせくんのうちによつて

いろいろな

あふりかのどうぶつをならべた

なかには

どなるどもいたけれど

ぜんそくの

しんだん

ぜんそくの

くすりをもらい

うちにかえった

いまのところ

せきなし

さむいよる

わたしはさけをのんでいる

一九九三年一月四日其の弐

おかあさんが

ふんづけて

こわれたえきしょうの

あの

えぶそのーとだぶりゅーがおーくしょんでうれた
うれてしまった

にまんえん

一九九三年一月一六日

きょうは

こころをほいくえんまでおくる

じこうほいくえん

こころは

じどうしゃを

おりたとたんにこけた

ごごよじに

むかえにいくと

さちこちゃんがかきて

こころがはいだつたそうな

まんさんさいおめでとう

さちこちゃんに

あえて

よかつた

新小岩小黒町ほか弁とか元祖とか・かまどや

新小岩小黒町ほか弁とか元祖とか・かまどや

大学生時代にほか弁とか元祖ほかべんとか、ほかほか弁とかこっちが元祖ですとか、そういう争いがあった。

あ、かまどやだ。a t o kはもう変換さえしてくれない。

竈や

釜戸や

釜戸や田

釜戸屋

a t o kおめーはバカか。

当時わたしの兄がのり弁にかなり神経質になっていて

オレの通ってる

と言ってた。

あの頃兄は京都にいた。

綺麗な人のいるほか弁ののり弁が、

兄はほか弁に通いつめていたのだ。

汚染されてたかどうかしよう。

とか言っていた。

兄ちゃん、あ、そうだ、兄ちゃんは突然消えたんだった。

十五夜の夢・月齢一

十五夜の夢・月齢一

女がいた。

女は妙齡になり、石屋に嫁いだ。

久しぶりに実家にもどり、向かいの漆器屋をのぞく。お椀の上塗りをしているのは初恋の男だった。

男は相変わらず母親の言いなりに上塗りをしている。
女は持って来たお土産の虎の貯金箱を渡せずにいる。

男のこころの中に、母親に刃向かうだけの力が湧いてこなければ女は男に近づけない。

三人の親子。

ショッピングをしに百貨店に来ている。

両親が喧嘩をはじめ。

父親は人混みが嫌いなのに、母親は賑やかなのが大好きなのだ。
子供はどちらについて良いのかわからず、さめざめと泣くばかり。

りだ。

両親はこれからの一生、しつくり来ないまま同じ墓に入る。
子供が立派に育たないのも無理はない。事実彼はよわいよわい
大人になってしまった。

夢日記・知らない時間知らない場所よつめ

夢日記・知らない時間知らない場所よつめ

夢日記。

もう三十一年もの間、決して開げられる事なかったルーズリーフノート。

一九八一年式月

式月式日 ウルトランと白雪姫

式月五日 となりの家 おんなマタザキ

式月六日 一 男たちの乱交パーティ

式 エックス ワイ 自分 ワイには隠す かくす

式月七日 一 住所 名前 順位 大家

式 住所 名前 車掌

三 クラナガ

式月八日 女子のみ バス イド ガイド

式月九日 一 学校 まちがった名前 スリッパ 隠す

式 教室 まちがった本 余分な切手 母 父の手紙

ノートのすみに

夢の中では

ボクは

酔っぱらった事がない

とある。

新しい赤ちゃん・ことばの星灯り

新しい赤ちゃん・ことばの星灯り

一九九三年一月五日其の壱

なんだかんだいって
あたらしいあかちゃんの名まえは
ゆりいかにきまり

おかあさんのどうしつのはとは
びじんらしい
どうしよう

一九九三年一月五日其の弐

ぼくが

つまりおとうさんが

じゅういちじまでしごとしたせいで

あずかってもらってたおばあちゃんから
ないせんがかかり

こころとろがいでのおしごと

ふせさんもさいてん

こころはさるかにがっせんをよむ

おばあちゃんはおこっている
おかねがなくて

わたしは
つまりおとうさんは
こころが12じにねたので
あんしんしている

あすは
ほいくえんにいけるのだろうか

ふむふむ

一九九三年一月五日其の三

5だいのばそこんが
いちだいうれて
4だいになった
うれしくもあり
かなしくもあり

Astor House Hotel, Shanghai Chinese

Astor House Hotel, Shanghai Chinese
nese Red Guards

"About what did you write in your novel?"

REIAI asked me.

"About what makes me feel ashamed."

I answered.

"If you learn to read Japanese and read what I wrote, you will make me feel ashamed."

I added.

REIAI and I went to see a movie that day.

As space alien which invaded China was going to be killed by Chinese Red Guards.

The alien that had Dragon tattoo on its chest rode a bicycle

t o e s c a p e f r o m C h i n e s e R e d G u
a r d s t o b e k i l l e d a t l a s t .

A l o t o f C h i n e s e a u d i e n c e a p p l
a u d e d t h e p e r f o r m a n c e o f C h i n e
s e R e d G u a r d s .

T h e m o v i e w a s s i m p l e a n d p o o r .
I w a s m o v e d w i t h i t , I t h i n k .
R E I A I k e p t s i l e n t .

京都市上京区堀川丸太町下ル・駿台予備校

京都市上京区堀川丸太町下ル・駿台予備校

大学入試模擬試験会場。

数学の問題が配られて来た。

問題一

XとYでZを作れ。

X	Y	Z
2 6	1 3	1 5

(ただし加減のみ)

考えているうちにぶくぶくと海に浮いている。

解答を思いつく。

$$26 \div 13 + 13 = 15$$

けれども除法を使っている。

浮かんだ海には足がつかない。

泳ぎながら左膝を見ると、チョコレートの膝蓋骨。

右上二時の場所に余分なチヨコがはみ出していたので、**膝蓋骨**を取り出し除去する。

膝から下の部分によつつのヒレがついている。

夢日記・知らない時間知らない場所いつつめ

夢日記・知らない時間知らない場所いつつめ

夢日記。

もう三十一年もの間、決して開げられる事なかったルーズリーフノート。

一九八一年三月十一日 一 女の面 ライオンの夢

二 男

三 イトコと結婚させたがる両親

一九八一年三月十二日 ギロチン 魔女 はちきれる紺色の制服 おばさん風な女

一九八一年三月十六日 鏡に映った自分

一九八一年三月十七日 一 旅行 トランクなし

二 旅行前 男二人女二人 ワゴン車

ストライキ

三 両親 行かなかったのか

ハムレット

一九八一年三月十八日 死んだおとうと おじと母

一九八一年三月二日 ― クラスがえ 見つからない席

一九八一年三月二日 四人旅 金の鍵 週刊誌

一九八一年三月三日 ― ヤギさん 生きている電車

二 のぞみさん 千円切手

千五百円

一九八一年三月四日 給料 三万八

ノートのすみに

頭をおさえつけられ

(首根っこをつかまれて)

『さあ食べろ!』

ついで。

切迫流産のころ・ことばの星灯り

切迫流産のころ・ことばの星灯り

一九九三年一月十二日其の壱

こんやはこころがしちじにねた

わたしは

せっぱくりゆうざんで

にゆういんちゆうのおかあさんに
でんわした

ばそこんつうしんもしたよ

ういすきいのんだり
すきかってにしてる

こころのうんち
なおらないかなあ

一九九三年一月十二日其の弐

こころがまだおきない

ごぜんじゅうじ

かわだだいいちほいくえんに
いけることになるのだろうか

いけるよね

おかあさんはとてもらくてんてき
だからだいすき

ときどきおとうさんが
なかすけどね

Astor House Hotel, Shanghai FAREWELL

Astor House Hotel, Shanghai FA
REWELL party

The man who had a Mercedes-Benz was going to the South American continent.

"I am going to be rich, the richest in the world."
He said.

He found a big successful business in Ecuador as overseas Chinese merchant.

On the night before farewell, the man and I went to drink at the old bar.

The other side of the counter was the bartender who spoke Japanese, English, French, and German.

Seeing a black cockroach come and go, we drank dozens of KIRIN.

夢日記・知らない時間知らない場所むつつめ

夢日記・知らない時間知らない場所むつつめ

夢日記。

もう三十一年もの間、決して開げられる事なかったルーズリーフノート。

一九八一年三月五日 ふたりのドロボウ＜カマ＞ 指が切られた 石をさがす 包帯をした女 去勢？

一九八一年三月六日 一本をかさねる

渡る、丸太、川
三月 Kさんが消える、危ない橋を

一九八一年三月七日 オートバイの置き場所を忘れる
障害物

三月 インベーターの夢

一九八一年三月八日 一 ヘルメットをさがす
い
『 酒でなくジュースをください
三 テレビクイズゲーム 反対に

映るQ 手帳をもらう

ノートのすみに

$$m \times d^2 x / dt^2 = f$$

タイムマシンは存在しない

$$\langle t | t \rangle$$

根元的な矛盾

すべての力学について

<時間の反転>は矛盾

とある。

初産のころ・ことばの星灯り

初産のころ・ことばの星灯り

一九九〇年一月二七日

わたしたちの

あたらしいころは

ゆめをみている

いきもののうまれたころから

しにたえるまでの

ゆめをみている

おかあさんの

しきゅうのなかで

ゆめをみている

一九九〇年一月二八日

けっこんのきねんに

わたしたちは

こころのたねを
つちにうずめ
みずをたやさずに
みまもった

そのように
こころ
きみは
うまれた
しんじて

一九九〇年二月二十九日

たんじょうびのたたかいで
ずぶぬれになった
こころに
わたしたちが
なまえを
きせてあげよう

全国高等学校クイズ選手権・逆さまのQ

全国高等学校クイズ選手権・逆さまのQ

いよいよ決勝まで来た。

背後に大型モニター、隣は開成高校の女子。
ボクの立つ壇上には小型のタッチパネルモニター。

一問目に入る前に、タッチパネルのチェック。
ボクが文字を書く。

どうしても文字が逆さまになる。タッチパネルに漢字で

不思議

と書くと、ちょうど左右が逆さまの文字列が大型モニターに表示されるのだ。

ワクワク

と書いてみる。やはり逆さまだ。

> i 2 9 7 7 4 — 3 7 9 5 <

いらいらした福留功男が怒鳴る。

何をしているんだ。本番中だぞ。

ボクは

Q

と書いてみる。

福留がこちらに来て、そのQを見つめる。

こんな事は番組始まって以来です。

福留は

賞金はもちろん出せませんが、

と奥から手帳をくれる。

おなじお母さんだよ・ことばの星灯り

おなじお母さんだよ・ことばの星灯り

一九九〇年一月三〇日

こころの

おかあさんと

ぼくの

おかあさんとは

どういつじんぶつだよ

一九九〇年二月一日

わたしたちが

こころを

りゆうなしに

うけいれることは

ふしぎ

一九九〇年二月二日

やすひろがうまれると
ゆきがふっていた

おかあさんががうまれるときも
ゆきがふっていた

こころがうまれると
ゆきがふっている

どれも
おなじゆきのひに

あたらしい
あかちゃんがうまれるんだ

一九九〇年十二月三日

ちようおんばで
こころをみると
うちゅうじん

ぼくは
びくびくしている

なんだ、きみだったのか
というかんじで
しよたいめんしたい

河和田町の池・イモリの赤いはら

河和田町の池・イモリの赤いはら

もう半世紀も前の事だ。

ボクは夢の中でオートバイのサイドスタンドとその脇の石ころを思い出した。

あそこだ。

あっぱじゅんざごっこをした、あの坂道。セツロウ君の家の前だったろうか、小さな池があつて、そこには何匹ものイモリがいた。

赤いはらを見たらドロドロの土塀を見ないと目が潰れる。

それを信じていた。

坂道をのぼる途中に同級生のコナベ君がいた。
彼は官憲になっていた。

ボクは

V i v e l a F r a n c e

と書いた帽子をかぶっている。

通り過ぎようとするど、思っていた通りコナベ君が呼び止める。

身分証明書を。

じろりじろり。

なんやウエキさんやないか。

ボクはコナベ君に神社への道を通される。

ウエキさんが戻って来ないと福井県の損失になる。

損失？

十五夜の夢・月齢二

十五夜の夢・月齢二

綾波の人形を持っているのが金持ちの証拠だった。
ボクは靴もはいている。この町では珍しい。

学校でもボクは

うえきさん

と呼ばれている。

それを知った藤枝教頭に気に入られ、美術で百二十点をもらった。

人には好かれていると思う。

事実、今日も学校がひけてから三人の女の子が遊びに来た。

新しい人形を見せる。

アイスを食べる。

しかし五十年も経つとボクは没落している。
父親の船が日本海に沈んだからだ。

裕福な暮らしに慣れたボクは、節約する事を知らない。

遊びに来ていた女の子たちも、
いかがわしい男にひっかかりト
ルコで働かされている。

Astor House Hotel, Shanghai Two Tickets

Astor House Hotel, Shanghai Two
Tickets

I woke up to find REIAI stand
by me with two tickets to Kun
ming.

One was mine, and the other w
as hers, she said.

"Am I going to Kunming? That'
s the first I've heard of it."
I asked her.

First of all, I had no reason
to go there.

"But you have the trigger, th
is ticket to Kunming."

No doubt there is the difference
nce between the reason and tri
gger, I thought.

A trigger is the red button to
fire the nuclear missiles, an
d a reason is the power of nuc

lear .

"Train tickets differ from movies' "

I told REIAI .

"Just the same ."

She tore the ticket into two pieces , and said .

I asked her for the image of Kunming .

She described what Kunming was like .

It is the town of a lake and Red flowers , she explained .

I thought those flowers are scarlet sages or cannas .

みんなまるい・ことばの星灯り

みんなまるい・ことばの星灯り

一九九〇年二月四日

こころ

わたしたちの

こころを

いやせ

一九九〇年二月五日

こころが

すらんぷです

こころを

なにもかんじない

よる

一九九〇年二月六日

おかあさんが

みおもになつて

ぼくは

みがるになった

こころ

きみのおかげだ

すらんぷはつづく

一九九〇年二月七日

おしろの

にんじやになつて

おかあさんを

みはつていたら

びじんだつたよ

ぼくたちは

ついてるぞ

一九九〇年二月八日

ぼくところは

ふみんしょうなかま

ひるひるねして

よるよるのまちへ

くりだそう

一九九〇年二月九日

こころのきもち
ゆめのじかん
うちゅうのかたち
みんな
まるい

夢日記・知らない時間知らない場所ななつめ

夢日記・知らない時間知らない場所ななつめ

夢日記。

もう三十一年もの間、決して開げられる事のなかったルーズリーフノート。

一九八一年三月一日 一 旅行の準備 女ふたりと

二 女ふたり 逃げる自分 トイレ

三 オートバイの駐車場 探す

一九八一年三月三日 一 『男の市場』の板 釘の頭を曲

げた父

二 Nさんと対等

一九八一年三月四日 別れ 王先生 ムツ！ 怒り シンボ

一九八一年三月五日 オートバイ 父 風呂 父母 いも

うと 自分

一九八一年三月？日 男ふたり女ふたり 自分だけ仲間は

ずれ

一九八一年三月？日 Nさんと階段 左足の事

一九八一年三月二八日 競争 最下位 左足 トイレ

ノートのすみに

I . Newton

" Philosophie N

aturalis

Principia Mathematic

a

G . Galilei

" Discorsie Di

moslrazionema

matematiche introne a

due nuone Scioroze

Attent alla Meccanica

In Moviementa Locali

科学と哲学の分化

とある。

世界遺産琉球王国遺産群・今帰仁村立兼次中学校に赴任する

世界遺産琉球王国遺産群・今帰仁村立兼次中学校に赴任する

オキナワの中学校でボクは英語を教え始める。
初めての授業が始まった。

教壇の窓側に、ボクは四羽の鳥を飼っていた。
サンシヨクキムネオオハシとベニコンゴウインコ、ゴクラクチ
ヨウ、そしてピトフーイ。

どの一羽も極彩色で鳴き声にも特徴がある。

打楽器を叩いているような。

ポコンポコンポコン、テンテケテンテケ、そっだちんどん屋の
太鼓の音だ。

キリッ！レイッ！

ほどよく焼けた学級委員が号令をかける。

焼けた学級委員がボクに読めと言う。
P H P の『こだわりの生』という本だ。

長嶋茂雄の打撃は…

とボクが読み始めると

日焼けが『ちがう』と言う。

ボクは宮沢賢治のアメニモマケズを読み始める。
女生徒たちが

がんばって！うえきせんせ。

と応援してくれる。

足元を見ると猫がいる。

かぼーていー、かぼーていー

と猫が鳴く。

書くひと紡ぐひと・ことばの星灯り

書くひと紡ぐひと・ことばの星灯り

一九九〇年二月十日

はじめまして

あいさつを

ここに

おくる

一九九〇年二月一日

ぼけつとのなかで

すずがなるの

ところが

うまれるまえに

一九九〇年二月二日

こころ みる

こころ つみき

つむの みる

こころ つみき
こわすの みてる
こころ
こころ みてる

一九九〇年二月三日

こころ きみは
わたしのいもうと
こころ きみは
わたしのおとうと
いつからいるのか
みわけがつかない

一九九〇年二月四日

わたしたちは
こころを
しんぱいする
こころは
りらつくすしてる
おやのこころ
こころしらず
ってか

一九九〇年二月五日

こころを

かく

ひと

わたし

こころを

あむ

ひと

おかあさん

十五夜の夢・月齢三

十五夜の夢・月齢三

男はもうその女に飽き飽きしている。

というのも、女は男が仕事の途中でも男に抱かれようとするからだ。

男は小説家である。

モンブランに壺からインキを吸い込ませる。原稿用紙にペン先をあて文字を滑らせるのが仕事だ。

何度女のために仕事を駄目にしたか分からない。
可愛いというだけでそばに置いた自分が馬鹿だった。

男は女をつっぱねる。

もう愛想づかしだ。

しかし女はしつこい。
まだ分らないのか。

男と女は別れる。

女はホームで泣くが、また新しい男を見つける、すぐに。

夢日記・知らない時間知らない場所やつめ

夢日記・知らない時間知らない場所やつめ

夢日記。

もう三十一年もの間、決して開げられる事のなかったルーズリーフノート。

一九八一年四月十日 気球の乱運動
一九八一年四月十四日 ボク おばさんにたのんで、現れる男ふたり

一九八一年四月十五日 女性 話しかけられない

一九八一年四月十九日 一 試験の夢 怒り 飛ばされる
課長、『出来ないじゃないか』

二海 ひとり

一九八一年五月十六日 試験の夢 トイレ（戸棚） 友人
一九八一年五月二二日 マラソン大会
一九八一年五月二四日 海の駅 チョコレートの膝蓋骨
一九八一年五月二三日 取り外しのきく義足
一九八一年五月二六日 変型オートバイ 正方形の板 大

工 看護婦―医者

一九八一年五月二七日 一 自分（カツ井）男

Nさん Tさん

二 自動車 免許なし

ノートのすみに

俺は子供だ

ピンポンパンの画面の中で

ひとり

皆と一緒に体操しない子供だ

とある。

Astor House Hotel, Shanghai Conflict

Astor House Hotel, Shanghai
Conflict situation

I experimented the rats on psychology class at Kyoto University.

It was an experiment on learning, and there was one button in front of the rats.

When the button was pushed, a bait was served with the electric shock.

The rates of rats that pushed the button and happened to get the bait many times exceeded 90 percent.

They, however, did not push rashly.

They raged and rushed about wildly when becoming hungry.
By some chance, they got the bait after acute pain.

10 percent of the rats never pushed the button after one accurate pain.
They would never move as if they were plants.

As far as behavioral psychology is concerned, you cannot get the academic credit without viewing the phenomena, as follows.

"When animals are placed in the conflict situation, they show two typical reactions.
Some never move, the others rage about."

By Scotch tape I joined two pieces of stick which REIAI tore, and started packing to Kurnm ing.

よりみち夢日記・男の市場

よりみち夢日記・男の市場

前田家の長女と結婚した。

招待状を受けとった知り合いからは驚きの声があがる。

うえきが結婚！

うえきさんが結婚！

あのうえきが！

四月の一日に結婚披露宴を開いたのも一因だろう。

ウソだろ？

ウソでしょう？

ウソちゃうやるな。

十年もしたら結婚式場が潰れた。未だに更地だ。

そうそう、前田家の玄関の扉に、ボクは『男の市場』と書いてある木の板を釘でとめようとしていたのだった。

かまぼこ大の木の板。

四隅にねじ釘用の穴が開いている。
かまぼこ板は生協のかまぼこ板。
だって裏に刻印がある。

農業協同組合連合会福島市飯坂町平野字三枚長

ねじ釘は前田家の玄関の扉の上にささっていた。

右の手と左の手とで同時に四本のねじ釘を抜く。右にねじると
食い込む、左にねじると抜けてくる、物理学の右ネジの法則だ。

抜き終え、『男の市場』のかまぼこ板をあてねじ釘を右に回す。

三本のねじ釘が絞まったところで、前田さんのおばあちゃんが
玄関を開ける。

止めてください。

市場はどうしても再開しなければならない。

ずばりこころができたのよ・ことばの星灯り

ずばりこころができたのよ・ことばの星灯り

一九九〇年二月十六日

おかあさんの
こころは
ともだちとの
でなあばあていに

ぼくの
こころは
うみ
に
ある
このよふけに

一九九〇年二月十七日

こころが
おちついている
あらしのまえの

ひととき

ところが

おちついている

ゆつくり

やすみたまえ

おかあさんにつつまれて

一九九〇年二月十八日

ここに

い子ども

ふれなくて

ごめん

きょう

はんせい

一九九〇年二月十九日

われた

たまごの

ぬけがらで

あなたのうそが

わかるのよ

だれかいいひと
できたのね

ずばり

ところが

できたのよ

この世で一番偉い人と丁稚の・前田家の嫁との想い出

この世で一番偉い人と丁稚の・前田家の嫁との想い出

一番偉い人がボクに書類を届けに来た。

ボクは富士山の元祖七合目に店を出していた。

うな重が一万三千五百円、素うどんが千二百円、その他、焼き鳥もある山小屋だ。

カレーライスもあった。素うどんの二倍。

素うどんかカレーしか売れないので、うな重と焼き鳥はいつも売り切れにしていたなあ。

この世で一番偉い人だ。ヘリコプターのエンジンをかける。それは青い丁稚の仕事らしかった。

ひもを引っかけてエンジンをかけるタイプのヘリコプターだ。

青い丁稚が思いきり引っぱるとエンジンが

ブルン

と震え出す。

プスンオゝ

何度試みても丁稚の、青の丁稚のちからは無駄になった。

ボクが絨毯を巻く。

そうだった、ボクは新しい嫁とモロッコに新婚旅行に行ったのだった。

まずボクたちはバルセロナオリンピックを翌年にひかえたスペインに飛んだのだ。

ふたつめ「この世で一番偉い人と丁稚の・前田家の嫁との想い出」泥酔バージョン

わたしが絨毯を巻く。

スペインに着いて新しい嫁とわたしは、スペイン国鉄で次の日の夜行列車の切符を買った。

電話でホテルを予約し、しばし仮眠をとる事にした。
駅からホテルまでのタクシーの中でわたしはカメラをなくした。
まあ良いか。また次の嫁をさがせば宜しい。

シャワーして、お決まりの新婚記念セックスして眠る。

起きて駅に行くと、切符の日にちと電光掲示板の日にちがひとつだけ違う。

あ、二十四時間寝てたんだ。

わたしは駅長室に礼儀正しく入り、事情を説明した。何度もは

らたつじじい日記に書いた通りだ。

髭の駅長がわたしの切符に一筆入れる。

この方々は日本からいらした大事なお客様だ。丁重に歓待してくれ。オリンピックの前でもあるし。

いや、もっと短かった。

こいつらを乗せてやれ。

だったのかも知れない。

こっちのほうに・ことばの星灯り

こっちのほうに・ことばの星灯り

一九九〇年二月二十一日

こころ こころ こころ
こころ こころ こころ
こころ こころ こころ
あわせて みこころ こころこころ

一九九〇年二月二十一日

うまれたときが わるいのか
それとも
おれが

わるいのか

いきっていくのは
たやすいけれど
それは

たやすいことだけど

とうちゃんは
むせいをしたんですよ

一九九〇年二月二十一日 三

かんじで いちじ
かたかな さんじ
えいごで ごもじ
ろうまじ ろくじ
ねるのは じゅうにじ
これなあんだ

一九九〇年二月二十二日

しんせいじしつ

よなかに
あいにくから
おかあさんに
ないしよで

よなかに
まいにち
あいにくから

一九九〇年二月二十三日

かたちのもんだいは
おかあさんが

こころのもんだいは
ぼくが
かたずける
から

あんしんして

おいで
ここに

こっちのほうに

夢日記・知らない時間知らない場所このつめ

夢日記・知らない時間知らない場所このつめ

夢日記。

もう三十一年もの間、決して開げられる事のなかったルーズリーフノート。

一九八一年六月一日 オートバイのハンドルがすり切れる

一九八一年六月二日 一 星座

二 背の低い貧相な男 反発

一九八一年六月七日 一 写真を撮られる フィルムを駄

目にする スパイから隠す

二 ガス爆発 マツダさん

三 Nさんとの別れ

一九八一年六月二五日 海 怪物

一九八一年六月二六日 左手に注射 イタイ

一九八一年六月二八日 一 おしり 隠れて

二 遅れる カップなし 新聞紙、

穴イッコ

三 オートバイ ライト 夜 小

さな階段

四 弁当箱 Sさん あきれ顔

ノートのすみに

時

時間の粒子性について

時間子とは

ボクはいつも君を追いかけている

生まれたのが

一秒だけ

君が早くて

一秒だけ追いつけない

とある。

この世で一番偉い人と丁稚の・泥遊び

この世で一番偉い人と丁稚の・泥遊び

偉い人は、青い丁稚に絨毯を巻かせ、それを勢いよく広げる事でヘリコプターのエンジンをかけようとしていた。

ところが丁稚の巻いた絨毯はどうしても反対の回転をしてしま
う。

青い丁稚が一枚一枚ホチキスで留めているのは夏休みの友だつた。見開きページをやり終える毎に、ホチキスを取り出しそのページを封印する。

この世で一番偉い人がそれを見て

うん、これで良い

と納得する。

丁稚の夏休みの友に比べて、ボクの宿題帳はまだ手つかずのままだ。早いところ仕上げねばならない。

目の前のビデオを観て内容を書き取っていく問題に取りかかる。聞き取れない場所があり、巻き戻しのボタンを押す。

が、いくら押してもボタンがふにゃふにゃで巻き戻しがきかない。

大声で叫ぶと、係の女が来る。

やはりボタンが押せないほど柔らかい。

係の女がビデオレンジのふたを開けた。

中には二個の目玉焼き。

女の手際が悪くて目玉焼きの黄身に緑色の蛾が入ってしまう。

黄身の中から緑の顔を出し、蛾が羽ばたくものだから黄身がぐちゃぐちゃになってしまう。

こんなもの、食えるか！

ボクは蛾もろとも目玉焼きを電子レンジの奥の方に押しつぶす。
身体中がどろんこになってしまう。

十五夜の夢・月齢四

十五夜の夢・月齢四

刑務所から出たばかりの男が、公園である母と子を見ている。前科者の男にも、昔好きな女がいて子供もあったのだと言う。

やむを得ない理由で人を殺したため刑務所に入れられた。終身刑を言い渡されたが、もともと小心で生真面目な性格だったため十年で釈放された。

十年は短かった。

が、その間に妻と子供は逃げてしまう。

これからも殺人者の自分には新しい女は見つからないだろう。うらやましい母子を見るにつけ、メランコリックな心情になる。

ヤクザにでもなろうか、などと考えている。

ようやく見つけた仕事だったが、男は工事現場の足組から落下してしまう。気を失なう。

まだ中年と言うには早いけれども、男の死が近い。

男は前の日に、死を予見するかのような幻覚を見ていた。

大きな船が嵐で沈んでしまうのだ。

ああ、俺もこんな馬鹿馬鹿しい事故で死ぬくらいなら、もっと大きな冒険をしておけば良かったと後悔をしている。

しかし彼は決して治らない。

ガラスばりの新生児室・ことばの星灯り

ガラスばりの新生児室・ことばの星灯り

一九九〇年十二月二十日の一

こころ こころこころ こころこころ
こころ こころこころ こころこころ
こころ こころこころ こころこころ
あわせて みこころ こころこころ

一九九〇年十二月二十日の二

うまれたときが わるいのか
それとも おれが わるいのか
いきていくのは たやすいけれど
それは たやすいことだけど
わたしは むせいをしたんです

一九九〇年二月二日

かんじで いちじ
かたかな さんじ
えいごで ごもじ
ろうまじ ろくじ
ねるのは じゅうにじ
これなんだ

一九九〇年二月二日

しんせいじしつ
よなかに
あいにくから
おかあさんに
ないしよで
よなかに
まいにち
あいにくから

Fangbang Middle Road, Shanghai, Will

Fangbang Middle Road, Shanghai,
Will you zip me up?

The train bound for Kunming was
leaving at 18:55.

REIAI and I had eight hours before
leaving Shanghai. When arriving at
Shanghai Station, I showed a
attend my repair ticket.

It was valid.

We went out to Open Market to
buy some food in the train.

REIAI bought bananas, persimmons,
and dry meat.

I bought blue jeans.
I broke three zippers of new jeans
in the fitting room.

The 4th fitted me.

However, the 4th zipper opened its mouth when bending ahead.

The clerk began to yell out at me.

I had broken 7 zippers before meeting jeans that did not break.

The clerk were angry enough to claim for the 7 damages, but thanks to REIAI, I only paid 2.

At the station like a museum, however, the 8th zipper went useless in the rest room.

What on earth did you do?

REIAI asked me.

I explained that I lowered the zipper down, and pulled it up.

夢日記・知らない時間知らない場所じゅっこめ

夢日記・知らない時間知らない場所じゅっこめ

夢日記。

もう三十一年もの間、決して開げられる事なかったルーズリーフノート。

一九八一年七月十二日 靴下ちくはく いもうとのケガ

一九八一年七月二〇日 一 女性性器に鳥居
二 裸 引き返す
三 Sさん 違うクラス 笑われ

る 不安

一九八一年七月十六日 イシグロとピンポン 出来ない
一九八一年七月二六日 飛ぶスーパーマン トロッコ 先に人々がごちゃごちゃ

ノートのすみに

歯痛の時

精神 身体

身体 精神 関心

一 原因と結果について考える

二 痛みとは何かを考える

相対的に距離をおく

宗教、理念化

世界解放口

とある。

一九八二年九月二日・京都大学北部食堂、巨人戦を観る

一九八二年九月二日・京都大学北部食堂、巨人戦を観る

昼、北部生協でちゃんぽん麺。

一時から四時まで、銀閣寺交差点の私立図書館で『レトリック
感覚』を読了。

夢日記もつける。

帰りに花を買いバプテスト病院に入院している、大家の倉貫の
おじいさんを見舞う。タバコを吸っていた。
ボクはほとんど話さなかった。

五時からロッドスチュワートのベスト・テープを作る。六時半
までかかる。

七時から巨人Ⅱ大洋戦をテレビで観る。

野球の解説というのはどうしてあんなにつまらないのだろう。
豊田はしつこい。九州出身のくせに、変な東京弁を使うから気持ち
悪くなっちゃう。

金田は『からだのキレ』と『根性』と、現役時代の思い出話ばかり。

野球に解説はいらない。

m e m o あしかの逃亡

みつばちの発明

誕生前のデッドヒート・ことばの星灯り

誕生前のデッドヒート・ことばの星灯り

一九九〇年二月二十四日

いるいみ

いないいみ

わたしたちのいみ

ころがおしえる

一九九〇年二月二十七日

おかあさんが

ねむって

いる

となりで

わたしは

まだいない

ころに

ひとり

うたう

一九九〇年二月二十八日

おかあさんが

まるおかの

はにいで

おかねをおとし

わたしの

ぼけつとのべるなつた

わたしは

かんちがいして

あいいくびょういんに

いそいだ

ここにあいに

一九九〇年二月二十九日

みちこおばちゃん

ばんちゃんも

でばな

びょういんにたずねてきたけど

こころは

ふざい

まだ

うまれない

一九九〇年十二月三十日

えきにいそぐみちで

こころをはめていないのにきづいたわたしは
ぽけつとからこころをとりだし
もどるよゆうがあるかたしかめ
いえにかけこみこころをさがした

だいどころにもいまにもふろにもふとんにも
こころはなかった

こころはまだうまれない

一九九〇年十二月三十一日

こころ

きみは

もう

かんぜんに

ほういされている

ごりようしんも

ここにみえている

あきらめて

でてきなさい

こちらの

せかいもそれほどには

わるくないよ

Changing District, Shanghai, I once

Changing District, Shanghai,
I once raped REIAI

One day I lost my way in the
middle of walking around Shanghai
air.

The farther I walked, the less
people I met.

But I still had a too much time
until noon.

I find a small stream in a bamboo
grove.

After I followed it up, I came
across a spring.

I took off shoes and bathed my
feet.

On my soles, I felt the touch
of the moss.

That was stupid really .

It was stupid of me to harden
my penis while seeing the sprin
g .

My penis became erect .

I raped REIAI who were not the
re .
I heard a sound of the murmurin
g .

Imaginary REIAI and real I nev
er exchanged the words , and I
ejaculated is men into REIAI a
nd the spring .

I asked the life span of the s
perm .

The Imaginary REIAI answered
nothing , and urged me to put m
y penis hidden .

I went back to the bamboo gro
ve and disappeared in the cro

w
d
e
d

p
e
o
p
l
e

i
n

S
h
a
n
g
g
a
i
.

一九八二年九月二九日・ショート回路

一九八二年九月二九日・ショート回路

酒ばかり飲んでいる。お腹の具合はあまり良くない。
けれど、死にはしない。

ホリグチの言葉が気になる。

最近のお前の童話、分析的で面白い。

そうだった、一回生の時につきあいかけたオカモトさんにも言
われたんだった。

フロイト、フロイトって分析的でついて行けない。
って。

そういう事を言うべきではないと思う。
特に今のボクに向かつては。
ボクは本当の意味で面白くなる恐れがあるからだ。

昨日、テレビを壊した。

あまりにもボクの時間を食いすぎるので、放送中に電気のケー

ブルをハサミで切った。

ばちん！

ショートして火花が飛んだ。

こんな大事になるとは。

京都市右京区太秦多藪・新しいブーツを買う

京都市右京区太秦多藪・新しいブーツを買う

今にも潰れそうなバイクショップで新しいブーツを買った。

ところが、映画館を出た所で左足が靴を履いていない事に気づく。連れに聞く。

バイクショップに忘れて来たのよ、きつと。

ボクは仕方なく仮の靴を取り出した。

金属性のシルバーの靴。ネズミ捕り器を変型させたような形状をしている。履き心地はかなり悪い。

オートバイに乗ってバイクショップに向かう。カーブでバイクを倒すと、左足の金属性の靴が地面に触れてしまう。

両親の乗ったクルマがオートバイを先導する。
前の赤いマーチが右折の合図。
ボクも従う。

今度はどつちに曲がるんだろう。

予期していた通りに右折合図。対向車のせいでボクは遅れる。
赤いマーチがレストランの駐車場に入る。

駐車場のすみにバイクを停めて入り口に向かうと、両親が食事
もせずにレストランの門から出てくる。

母が泣きながら何か言う。

門の上のランプが割れて怪我をしたらしかった。

よく見てみると、ふたりとも鼻の下に血が滲んでいる。

バイクショップに入ると、正面の棚にボクの使い古した運動靴
を見つける。小さいのから大きいので、すべてにボクの名前が書
いてある。

段ボールの中にもぼろぼろになった長靴やら、サンダル、スリ
ッパ類が詰め込まれている。

ボクが使って捨てられた靴。

すべての靴がそこにはあった。

こころの誕生ことばより先の・ことばの星灯り

こころの誕生ことばより先の・ことばの星灯り

一九九一年一月五日

わたしたちの

あたらしいこころは

はなる

おおいなるものとあつて

こちらに

きた

おおいなるものの

ながれの

むこうから

わたしたちのほうに

たまごが

うみから

うまれるように

たまごから

りくちに

はいあがるように

さなぎが
そらで
ちようになるように

一九九一年一月四日

こころの
めざめだ
ふあんふあれを
ならせ

ひざまづく
ものどもに
しゆくふくの
あいさつを

一九九一年一月三日

こころ
のんびり
かわを

どんぶら
やってくる

一九九一年一月二日

そうげんに
ひとりの
やぎざの
ひつじ

ここにきて
かみのうえの
うたを
おたべ

やわらかい
うたを
おたべ

一九九一年一月一日

し せ

す

する

すれ

せよ

こころ

あたらしいとしが

はじまった

夢日記・知らない時間知らない場所じゅうつこめ

夢日記・知らない時間知らない場所じゅうつこめ

夢日記。

もう三十一年もの間、決して開げられる事のなかったルーズリーフノート。

一九八一年八月一日 一 南国の鳥 青猫 セールスマン

二 一 教室 掃除 最後の机

二 バス ブラインド 保母さ

んと子どもたち

一九八一年八月二日 ちゃんぽん麺 食堂のおばさん 勘定が足りない

一九八一年八月四日 母 危篤

一九八一年八月六日 一 レモンジュース カタオカ 仮装大会

二 王嬢 自販機 ポスター十枚

三十枚捨てる 時代劇 卵焼き

一九八一年八月七日

一 本屋 違う本を取る

二 後頭部にひび 頭蓋骨

ノートのすみに

ブラックホール

無

エネルギー

情報

物

情報

無

ブラックホール

とある。

一九八二年十月七日・庄司薫と恋の遍歴

一九八二年十月七日・庄司薫と恋の遍歴

ミキ君と自分の部屋で飲む。

三十分だけ。

ホワイトをチンチンに冷やして。

庄司薫の事をばくと喋ったあと、岡本太郎の画集と庄司薫の本を四冊置いて自分の部屋にもどるミキ君。

庄司薫を大学の最後の年に読むとは思ってもみなかった。

『アレクサンダー大王はいいな』

『恐竜をつかまえた』

『喪失』

『ぼくが猫語を話せるわけ』

『バクの飼い主めざして』

思い出す。

K先生に庄司薫の素晴らしさを話すと

そうですか、貴方の言う小説の普遍性とはずいぶんとかけ離れているような気がするのですが。

と指摘され赤面が復活したのだった。

『赤頭巾ちゃん気をつけて』は、実は先生、当時の藤島高校生、特にボクにとって、あれはエロ本だったのですよ。合法的に読める。

飲み足らず、イシグロを誘って『吾作』。

いつになく大将（三十ぐらい）が饒舌。
広島出身と聞いていた。

誰かに、そう、江夏がダイエットしたような顔立ちだった。

独立してから五年でとんとん。

との事。

『やっぱり辛抱やで』と。

そうそう、となりの部屋のオギノ君もいたんだった。

日記を信じてもいいとすれば、彼は

中学時代 エイコさん

高校時代 中尾さん

専門学校 ヤノノブさん

と、恋の遍歴を經ていたようだ。

よりみち夢日記・男の市場アンコール幕

よりみち夢日記・男の市場アンコール幕

『男の市場』と書いたかまぼこの板を持ってぶらぶらする。

やはりあそこしかない。

ボクは覚悟を決め、ヤマダヤスコ（当時二八）さんのナースセ
ンターへ。

かまぼこ板を釘でとめようとすると、ヤスコ（当時二八）さんが

「やってみなさい」

と言う。

ボクは慣れた手つきでヤマダヤスコ（当時二八）さんに口づけ
をする。ぶつうんとタバコのヤニの臭いがした。

病院の便所で放尿している。

ヤスコ（当時二八）さんがそれを見て

まあ、かわいい。

と言う。

放尿はとまらず、勢いをます。

やはりあそこしかない。

ボクは前田家の玄関に『男の市場』を取り付けはじめる。

お祭りの夜、駐在所の跡地で能面屋をやっていた屋台のおじさんが文句を言い出す。

十五夜の夢・月齢五か六か七

十五夜の夢・月齢五か六か七

しばらく、と言っても、ほぼ一年間文通した女からの手紙を部屋で燃した。

引きだしごと。

終わりだった。

終わり？

こちらから？

あちらから？

微分概念で、両端は面倒をみないというものがある。
地球の果ての接線の傾きなんて無数にあるからだ。

閉区間であろうが

開区間であろうが

端っこは考えない、そういう理論だ。

積分だって端っこは考えない。

ある区間からある区間までの面積を考える。

始まりの端っこが直線
終わりの端っこが直線

直線に面積はない。

だから両端は考えない、そういう理論だ。

ボクが女からの手紙を燃していると、浪人していた出来君が現れる。リアルな出来君の事だ。

相手の名前を見られてしまう。

うえき、そんなこととして良いのか。

彼とは同窓会で二度会った。

夢日記・知らない時間知らない場所じゅうにこめ

夢日記・知らない時間知らない場所じゅうにこめ

夢日記。

もう三十一年もの間、決して開げられる事のなかったルーズリーフノート。

一九八一年八月九日 一 旅の準備 忘れ物 その村さん

二 ヤスコさん（二八）とキスタ

バコの臭い

三 ヤスコさん（二八）にペニスを

誇る

四 ヤスコさん（二八）が男に 肛門

五 引越しの手伝い 荷台

六 カタオカの荷物 追いつけない

一九八一年八月十日 知恵の輪

一九八一年八月二日 空を泳ぐ クロウル

一九八一年八月二日 一 贈り物みつ

二 試験不安 つるかわと再会

一九八一年八月二三日 一 両親 赤のマーチ かよこさん

鏡としての両親

二 昼寝 バイク 銭湯 さいとう

一九八一年八月二八日 一 学校が火事だ

二 エイコと再会 階段
三 のどに砂 うがい

ノートのすみに

老人ホームの
老人たちが
クルマから降ろされ
白いガードレールにつかまりながら
あるく

介護する職員が

イチタスイチは
に――

と言いながら
笑わないじいちゃんの
記念写真

とある。

ゆきの降りしきる海・ことばの星灯り

ゆきの降りしきる海・ことばの星灯り

一九九一年一月六日

わたしの

わいせんしょくたいの
のりごこちは

どうですか

ひだりまがりの

こころくん

一九九一年一月七日

みぎのちぶさは

きみが

ひだりのちぶさは

わたしが

もらつよ

ふたりで

ゆつくり

たのしもう

一九九一年一月八日

みずさきの

あんないびとの

おしえた

やみの

うみの

そこに

わたしたちの

ところが

ねむっていた

ゆきの

ふりしきる

うみの

そこに

わたしたちの

ところが

ねむっていた

一九九一年一月九日

しやくしょの

おんなのひとが

こころをしらべた

かくすうでしらべた
おんよみでしらべた
くんよみでしらべた
りっしんべんでしらべた

こころ

です

ね

はい

なれないとうちゃんは
どきどき

こころは

しんぞうにわるいです

十五夜の夢・月齢八

十五夜の夢・月齢八

日本には森がないと良く言われる。

林ばかりだからだ。

だから森林はある、日本にも。森のような林は。

森の中だった。

つまり異国での話だ。

ふたりの少女が道に迷ってしまった。

夜になる。

思っていたより森の夜はこわくない。

楽しい。

ふたりの少女がダンスを踊る。

たらった

らったらった

うさぎの

だんすー

たらった

らったらた

たららららー

夜行性の動物が集まってくる。

蛾、猫、栄螺、カブトムシ、マンタ、蜘蛛、ハブ、狸、狐、ヒ

ト。

は乳類だって例外ではあるまい。

輪になって踊ろうよ。

時折血しぶきがあがるが、食物連鎖のしわざに過ぎない。

ヒトの場合は火を使うので厄介だ。

ああ、だからキャンプでは踊りの中央にファイアーがあるのか。
得心した。

翌朝になると

少女たちは気づくとお花畑で眠っているのだが、実のところは分解者により無機物になり、これから植物に摂取される。

T r a i n f r o m S h a n g h a i t o K u n m i n g , H a r

T r a i n f r o m S h a n g h a i t o K u n m i n g ,
H a r d o r S o f t s e a t

W e s p e n t f o u r n i g h t s i n t h e c o
m p a r t m e n t f r o m S h a n g h a i t o K u n
m i n g .

B r e a k f a s t t h r e e t i m e s . . . d i n n e r .
. t w i c e . . a n d l u n c h e s . . . ?

A t t h e 1 s t n i g h t , R E I A I a n d I
s a t w i t h M r . a n d M r s . o v e r s e a s
o l d C h i n e s e f r o m E c u a d o r , a t
t h e 2 n d l i v e l y f a m i l y f r o m S i n
g a p o r e , a n d t h e 3 r d a c o u p l e f
r o m S w e d e n .

B y t h e m a p w h i c h I b o r r o w e d f r

om an Ecuadorian old married couple, I calculated the mileage from Shanghai to Kunming. It was over 3,000 kilometers. It is approximately equal to the distance from Hokkaido to Okinawa in Japan.

I ate 2 miles of noodles and 7 kgs of Beef, but I did not get fat.

I talked to the family from Singapore quite a little, because I felt they shut themselves away from me.

Sure they were, and sure we were on the same elevator.

I asked,

"Where are you from?"
"From Singapore."

There was nothing happened between us .

After the family , a couple from Sweden came into our compartment .
REIAI and I got excited with them .

They and we drank together and understood each other , I thought .

He , named , Jonathan proposed swapping after the deep drink .
I and REIAI watched at each other .

We escaped from the midnight of our compartment .

I set up the spare chair of the corridor of the train .
We took down the spare chairs and faced each other .

The Swedish couple performance
d two sexual intercourse.

We heard the sound of the Swedish
ish couple's affair, at the same
time we heard the wind of
the coming 3rd wars.

Distance of between the chairs
were approximately 2 meters long.
ong.

Between REIAI and me.

Distance of 2 meters is believable
ed to make feel of lovership among
two.

お互いの姿勢や気持ちが、ボクたちの視界の中にすっぽりとおさま
る距離だった。

一九八二年十月一四日・嵐の前の脳内感染

一九八二年十月一四日・嵐の前の脳内感染

青年期を過ぎると誰しもが庄司薫を古本屋に売るだろう。ミキ君には悪いけれど。

ビートルズはずっと売られない。特にリンゴの色が赤いのは。

だが、座右の銘にまではならない。

ボクはビートルズになれない。

庄司薫にさえも。

ボクは今のボクを知ってほしい。

彼は

とても良いヤツなんだ、つき合ってやれよ。

ボクの事は置いとくとして。

仮に今火事が起きたとして、ボクは何を持ち出そうかな。

三万五千円したモンブラン
ルーズリーフの三冊の作品集

あるだけマシか。

テレビの電線をビニールテープで補修したら映った。
また巨人戦を観るのだろうか。

ボクの方は修理が効かない。
保証も何もない。

頭脳の中が泥か何かで堆積したような。

ビールを一本飲んでみる。
何も変わらない。

人間嫌い与人恋しさがごちゃ混ぜ。脳内で溶けるふたつの感情。
良くわからない。
良くなるのだろうか。

いじろ、おかあさんの実家へ・ことばの星灯り

こころ、おかあさんの実家へ・ことばの星灯り

一九九一年一月十日

こころくん

たいいんぜんじつの

きぶんは

また

かくべつだろうね

となりの

おんなのこの

でんわばんごうを

きいておきなさい

一九九一年一月十一日

こころが

かあさんをとった

かあさんが

こころをかえた

ぼくは

だれをとればいいの

一九九一年一月十三日

いるとうるさい
こころとつるみ
いないとさみしい
こころとつるみ

あのこがほしい
そうだししましょ
そうしましょ

一九九一年一月十四日

たんじょうびの
おいわいを
わすれていた

こころくん
たんじょうび
おめでとう

一九九一年一月十五日

とやまからの

でんわで
こころの
こえをきく
いとをかし

一九九一年一月十六日

ちきゅうの
みらいのために
こころはうまれた

わたしたちの
みらいのために
こころはうまれた

こころ
ちきゅうをいやせ
こころ
わたしたちをいやせ

R i c h a r d S a n d e r s o n - R e a l i t y ・ リアリティ

R i c h a r d S a n d e r s o n - R e a l i t y ・ リアリティ

偶然君と出会った

思ってもみなかった、ボクの人生が変わるうとは
君が立っていた

何か特別なものがボクたちのあいだに漂う

夢はボクの人生そのもの

唯一の本物の幻

思い違いもあるさ

ボクは夢を生きる

夢は別の真実をつたえる

ボクは愛を夢見る

もし君が本当に存在するなら
無垢な愛し方を教えてくれ

夢はボクの人生
生きている証

馬鹿騒ぎもするさ

生きてみたい世界
それが
夢

<http://youtu.be/OL2FazadHoQ>

十五夜の夢・月齡九、老眼鏡の少年

十五夜の夢・月齡九、老眼鏡の少年

あの人が死んでからもう三年。
結局結婚もせず、子供もなく、上塗りばかりして死んでしまっ
た。

嫁いでもから時々は向かいのあの人を見ただけ、お母さんの言
いなりのままだった。

驚いたわ、あの人の、目の不自由な少年に目をあげたんです。移
植って噂。

眼鏡屋のタニシヤンが

老眼を移植してどうする

みたいに茶化してたけど。

その子ももう中学生ですって。

ご両親が毎年墓参りをしてるんですって。

かなりのおでき肌らしい、老眼鏡だってスマートなのがあるし。

アナタの目、私をリコグナイズ出来るかしら。

私を私だと見つけてくれるかしら。

滋賀県米原市米原475、右半球と左

滋賀県米原市米原475、右半球と左

ボクがその男だった。

事故にあつてから入院して数ヶ月が経とうとしていた。
毎日が鏡との対面から始まる。

頭が、まるでカラスのくちばしのようにふたつに割れている。
そのふたつが考え事をするたびに

カクカク

と開閉する。

病院長が

本来なら助かるような怪我ではなかった

と言う。

奇跡的に右半球と左半球がまっぴたつに破断したので、神
経のケーブルで繋ぐ事が出来た。

科学雑誌にも掲載されたい。

こんなぶざまな格好では河和田町にもどれない。

お見舞いに、のぞみちゃんからワンピースが送られてくる。ひまわり畑の柄の洋服。携帯電話で御礼を言おうとする。

のぞが聞く。

わかった？

え？

なによ！

このあいだ、同窓会で会った時の服だったと言う。

ボクは新幹線を止めるつもりだったのだ。
線路に立ちほかる。

駅員の怒声が聞こえた。

ボクはペチャンコのカエルになった。
車輪にまきこまれミンチになった。
透明な血液がしずくになって落ちる。

ミンチのボクが、雨の水たまりに手をひたしていると、ふたり
の医者が現れ

すぐによくなるよ。

と良い、ボクに麻酔を打つ。

夢日記・知らない時間知らない場所じゅーさんこめ

夢日記・知らない時間知らない場所じゅーさんこめ

夢日記。

もう三十一年もの間、決して開げられる事のなかったルーズリーフノート。

一九八一年八月二十日 一 分類

二 圧縮 若い看護婦 森永スラ

ルーム

三 号令

一九八一年八月二日 トミタの邪魔

一九八一年八月三日 一 いもくと トイレの天井の板
女部屋へ

二 青力マ夫人と旅行 タクシー
バス ポケットの小銭

一九八一年八月二五日 ペニスをもった女 点滴
二 昼寝 銭湯で腐敗

一九八一年八月二六日 黒いジープ
一九八一年八月三日 隣の女子のカンニング

ノートのすみに

すばらしい感受性だ
と思っていたものは
ただの神経過敏

実のところ
危なっかしい
傷つきやすさ

とある。

こころ、曾お婆ちゃんの葬式・ことばの星灯り

こころ、曾お婆ちゃんの葬式・ことばの星灯り

一九九一年一月十九日

こころくん

げんきでくらしていますか

あしたはおつや

おそうしきは

きみもはじめて

たいへんですね

おぼえていて

こころくん

ぼくよりさきに

知らないで

じゅんばんを

まもろうね

一九九一年一月二〇日

こころ

きみのなまえに
どういのひと
びつくりのひと
もくひけんのひと

ぼくは
ぎもんのひと

なまえって
なんだろう

一九九一年一月二二日

よくもきのうは
ないて
こまらせてくれたな
ほんとに
なかすぞ
こころせよ

一九九一年一月二二日

こころよ
わたしは

ねむるぞ
きょうは
かんべんしてくれたまえ

一九九一年一月二三日

ここに
しごとが
しんにゆうしてきた
なにも
かけない
たすけて
ここに

一九九一年一月二四日

ここに
はなれて
はじめて
いきはじ
しぬまで
あえるの
こんな
いるのは
ところが
なんか
ここに

一九九一年一月二五日

まいこのまいこのころくん
あなたのおうちはどこですか
なまえをきいてもわからない
おうちをきいてもわからない
ないてばかりいるころくん
ちちのやすひろくん
こまってしまつて
たたりらいらい
たりらいらい

一九八二年十月一九から二十二日・『ん』のうどん屋の方で

一九八二年十月一九から二十二日・『ん』のうどん屋の方で

日が短くなってきた。変な気分だ。

『文楽』で飲む。吐く。

イシグロ、カタオカと飲む。フクダも。

『あれ？飲み屋の名前を失念。』

オギノと『ん』で飲む。

うどん屋のおばちゃんとオギノが喧嘩。

原因 一 歳を聞いた事、大正十一年

二 住まいを聞いた事、ガレージ

おばちゃんが突然つつけんどんになる。

オギノが

人は自分の事しか考えん。

商売が……。

とぼやいて喧嘩になる。

バイト仲間のアサノさんと大文字山に登る。空港バスで伊丹まで。梅田。三条京阪で別れる。

数日後、ホリグチにアサノさんの写真を見せる。

こんな不細工なの、初めて見るわ。

福井県鯖江市本町・セキさんの記事

福井県鯖江市本町・セキさんの記事

髭をあたってもらった。

ボクは理髪店の椅子の上にいた。
馴染みのおじさんが手際良く剃っていく。

シュリ

シュリ

視界の隅っこで、赤と青と白の散髪屋のサインがぐるぐると回っている。

渦巻き看板は、「赤」動脈」「青」静脈」「白」包帯」を意味している、何かで読んだのを思い出す。

おじさんが少し離れ、ティッシュペーパーを数枚持ってくる。
ボクの鼻の下あたりをふき始める。

おじさんが、ティッシュボックスとボクの間を何度も何度も往復する。

わたしに任せなさい。

タカノ病院の見習い看護婦のセキさんが現れる。

これはタダではすまない。

とボクは、鼻の下を押さえながら逃げ出す。

母が日本経済新聞をボクに見せる。
社会面にセキさんの記事があった。

いかにセキさんが思い悩んだか、ボクのカミソリ拒否に関して、
が載っていた。

ジャングルの荒廃・とうとうの中山千夏

ジャングルの荒廃・とうとうの中山千夏

今日も暑い。

かんかん照りのインドネシアのプランテーションの電話ボックスの中では、少女がカンガルーを抱えている。

日本でもかんかん照りが続いている。
熊たちが、シキヤマ神社の裏のジャングルから涼を求めにやって来るほどだ。

ボクは神社の建物の下でアリ地獄を見ながら熊たちの足元を見ている。動く。動く。そろそろと動く。

蝉が鳴いている。

ボクは父親に叱られてよく二階の押入に逃げ込んだ。

「肉を食え」

と言う。

米を残しても肉を食えと言っ。
どついう趣旨なのだ。

え。ば。
ボクは小さい頃から二律背反にさらされていたのだ思っ、今思

女の子とつき合ってはいけない、が、結婚しろ。

押入に隠れる。

しかもそれを両親は知っている。
布団が押し込んである部屋だった。

ボクは

死んでやる。

と心の中で叫んだ。

死んでとことんアイツらを哀しませてやる。

と。

背反

その頃北アフリカのジャングルでは巨大な象がライオンの雄に襲いかかっていた。

慌てた雌ライオンが、逃げると同時に財布から小銭をばらまけて拾い始める。雄ライオンが象を食い止める。

とうとう中山千夏につかまってしまう。

千夏は彼女の左手のひじから先を包丁でこそぎ始める。まるで刺身にでもするかのように。

千夏がボクに

何を見ても平気になったのね。

と言う。

ボクは震えている。

ボクの初任給からの給料がディスプレイに映る。

八千九百円

八千七百円

八千九百二十円

七千三百円

六千八百七十円…

…

…

…

今月は暑くてずる休みをした。そのせいで給料がまた減る。

中山千夏がボクの手の指先を切り始める。
痛くはない。

スクリーンを見ていた両親のコメントが字幕で流れる。

あの女に切られるのは不幸だが。

「命までは取られまい」と言うのだった。

ボクはボクで

これで足するスポーツは一生出来なくなつたなあ。

などとのんびりしたものなのだ。

里帰りしているところ・ことばの星灯り

里帰りしているところ・ことばの星灯り

一九九一年一月二六日

さやかも
ゆかりも
はるみも
よしえも
としきも
じゅんいちも
あきおも
まつこも
みんなすき
やすひろと
すずみの
ところ

一九九一年一月二七日

いなくんからのでんわ

こころって
なんですか

なまえだよ

へんですね

ぼくも

そう

おもう

一九九一年一月二八日

こころたすけて

こころがあれて

よるがふぶいてる

一九九一年一月二九日

らいしゅうから

ぼくたちの
たたかいが
はじまるんだね

あぶらのくにでも
せんそうをしているよ

こころくん
よういはいいかね

夢日記・知らない時間知らない場所じゅうよんこめ

夢日記・知らない時間知らない場所じゅうよんこめ

夢日記。

もう三十一年もの間、決して開げられる事なかったルーズリーフノート。

一九八一年九月十日 一 NさんとMが結婚

二 Nさんがボクの所で眠る

三 女の子にキャラメルをもらう

一九八一年九月九日 外国 言葉がわかりだす

一九八一年九月十二日 一 修学旅行 吸い込まれるような景色 半数の死

二 校長の訓話 うんざり

三 高い場所

一九八一年九月十五日 女性たちの本屋

一九八一年九月十七日 オートバイ 雨 女性たち ガソリン数滴 パン

一九八一年九月十六日 一 磁力 エイコさんと別れる

二 父 オートバイ 何も知らないんです

てくる

三 おじさんの兄 入浴中に入っ

四 中野良子

怪我

一九八一年九月十八日 一 婦長さん やめなさい 頭に

二 布団 父が手伝ってくれる

三 三人の歌手 会う約束

ばさん

一九八一年九月十九日 一 マスタベーション 二人のお

二 傘をさがす ニセモノ

ノートのすみに

遺伝情報の情報量

進化Ⅱ情報量の増加

非線形

カエル DNA量最大

冗長性、無意味度

とある。

一九九七年四月二十六日享年六五・金原二郎の底ぬけ、揺れないブランコ

一九九七年四月二十六日享年六五・金原二郎の底ぬけ、揺れないブランコ

今夜は人生の残り時間について考えている。

まだボクが幼かった頃、大好きな番組に『底ぬけ脱線ゲーム』があった。

金原二郎の司会。

『底』さんチームと『脱線』チームが珍ゲームで競う。

でかい風船がある。

模型の汽車の先っぽには尖った釘が取り付けられている。

クイズが始まると汽車が走り始め、風船に向かう。そのままにしておくと釘が風船を破裂させる。

風船の脇の小さな赤いボタンを押すと汽車がスタート地点に引き返し、ふたたび風船にゆっくりと突進する。

その数分の、いや数十秒の時間内に、あるタスクを達成しなければならぬ。

ある時は

揺れる揺りかごの中で積み木を積み上げる

ある時は

風の吹いている中でトランプのピラミッドを組み立てる

またある時は

ブランコに乗った少女を揺らさない

これは前の二例に比べれば、極めてシンプルだ。逆位相に揺れるように隣の青年にブランコをこがせれば宜しい。

波の干渉でどちらも揺れない、こんなのは古典物理の常識である。

だが、なんとタレントと言うのはお馬鹿さんばかりで気づかないだなあ。

スポンサーはロート製薬で

ろーうと

ろーうと

ろーうと

ろーうと

ろーうと

ろーうと

せーやーくー

番組冒頭に流れる歌を覚えている。

タスクに熱心になり過ぎてもしいけない、かといって風船をわらない事ばかりではタスクが進まない。

風船の前に立ち続けていたのでは勝てないのである。

いってみれば、プロレスのタッチみたいな。

馬場は馬鹿だなあ、今猪木が手を伸ばしていたではないか、何故気づかん。

ボクは白黒テレビの前で手に汗をかいていた。

親知らずから来ている症状・瀬戸の花嫁

親知らずから来ている症状・瀬戸の花嫁

親知らずを抜いて発熱が三日もおさまらないので、近所の眼科医に行ってみる。

待合室で誰かに呼ばれた気がして診察室に行くと先生は患者を診ていた。年老いた女医だった。

ボクは第二処置室に向かう。
手持ち無沙汰に置いてあった紙製の知恵の輪で遊ぶ。

こちらから見るとタイガーマスクのお面。斜めから見ると噴水、
ビーからエーにはゴム輪が抜けない。

和紙製なので無理をすればほどけるのだが、それは反則だろう。

夕刻に私鉄で、美しすぎる人を見た事がある。
ホリグチと一緒にだった。

阪急か阪神かそれとも山陽電鉄の向かいの長椅子だった。
海の方には夕陽の灯りがあつた。

その美しすぎる女性は赤ん坊を抱っこしていた。

ボクがまだ

マタニティーブルー

という単語すら知らない頃。

物憂い女性は前を見ていた。

おそらく自分の映った窓あるいはホリグチ。

ボクは、言われて見れば、じろじろと観すぎたのかも知れない。
ホリグチに注意されたので気づく。

世の中には、絵画の中に出てくるような絶世の美女が時々存在
する。アイ・アム・シユア！。

双六するころ・ことばの星灯り

双六するころ・ことばの星灯り

一九九一年二月一日

これだけはなれていると
ころの
はじめの
のぞみを
わすれてしまいそうだよ

一九九一年二月二日

せいごいつかげつで
おとやんが
かいしよなしって
どんなきもち

一九九一年二月三日

ぼくは

すこし
くるしい

やせた
いどの
みずの
かめ

こころが
そとに
でてから

ぼくは
やせた
いどの
みずの
かめ

一九九一年二月四日

ん
ぼろはあ
きててもお
こころはあ
こころ

一九九一年二月五日

ろくのぞろめで
きょうとから
とやまへ
ぬかよろこびも
いつかいやすみ

一九九一年二月六日

いちのぞろめで
とやまから
ふくいへ
こころ
あがり

一九九一年二月七日

たとえ

あした
わたしたちが
ただの
ころしか
もたない
やせたねこに
なっても

夢日記・知らない時間知らない場所じゅっごこめ

夢日記・知らない時間知らない場所じゅっごこめ

夢日記。

もう三十一年もの間、決して開げられる事なかったルーズリーフノート。

一九八一年九月二十日 一 いもつと 弟を殺す
二 いもつと 男をふたり殺す

一九八一年九月二十四日 一 ズボンをはく
二 バス旅行 Nさんにウイス
キーの小瓶をもらう
三 急な坂道 ブレーキ×

一九八一年九月二十五日 一 ライオンの雌と雄 お金で
つながる
二 少女とカンガルー 電話ボ
ックス
三 中山千夏と男

一九八一年九月二十九日 一 飛行機の中

二 出発

三 レポート用紙 悲しくなる

ノートのすみに

怖がらせるもの

マイクを持ったインタビュアー

カメラを構える写真家

注射器を上に向ける新米の看護婦

指でボクを指す教師

眼科医

大衆食堂の鏡

木村マサヒロ（刑務所）と赤のチョークで書いた掲示板

人は何か秘密を持つ事が必要なのでは？

とある。

北緯39度 西経106度・ロッキー山脈にて

北緯39度 西経106度・ロッキー山脈にて

修学旅行だった。

担任の漆崎先生と徒歩で歩き始める。目的地は南米のブルーマウンテンだ。

出発したばかりだというのに、仲間が次々と死んでいく。クラスメートも、一組も、二組も、十組の生徒たちも気づくと崖から転がり落ちていく。

アリユーション列島を渡り、アラスカを経てロッキー山脈にさしかかる頃には三組は半数になっていた。

人生は戦場でなくてはいかん。

などと得心する。

何年も使っていなかったモンブランの蓋を開けて、世界地図にメモをする。金のペン先から、ブルーブラックのインキが滲み出る。

もう二度とこの万年筆を使う事はあるまいと思っていた。

二十六歳までは小説を書いていた。

二十七から三十まではまったく触っていない。

三十歳で初めての子供が生まれ、一太郎バージョンで『ころの詩』を書き続けた。娘も生まれた。

電子詩として5インチのフロッピーディスクに保存されていた。

やがて詩は3・5インチに保存されるようになった。

三十六歳からはウェブ日記に移行し、ずいぶん経つ。

二十歳の息子の机の引き出しからモンブランが復活した。ひよいと出てきたのだ。

植村直己が行方不明になった断崖から下界を見下ろす。
生き残っている皆で記念写真を撮る。

はじまりのこころ・ことばの星灯り

はじまりのこころ・ことばの星灯り

一九九一年二月八日

さいきかんぱつ
ようしたんれい
よりどりみどりの
こころくん

みんなを
ごうかくさせてくれて
ありがとう
かわって
れいをいうよ

一九九一年二月十日

とやまの
ばあちゃんとの
わかれ
こころ

かなしむ
ふくいえき

ごうごうじ
にしゅうよんぷん

一九九一年二月十一日

こころのなかを
のぞいてみれば
おこりんぼのきりんと
なきむしのかぶとむしが
がじゅまるのきのしたで
かいぎしてる
なにかきまるの

一九九一年二月十二日

ぼんきつきが
こころのうたを
うたってた
よろこべ
ぜんこくてきに
こころは

あいされている

一九九一年二月十四日

はじまりは
いつもちいさい

ピアノは壁にくっつけるべきか、それとも部屋の真ん中に置くか

ピアノは壁にくっつけるべきか、それとも部屋の真ん中に置くか

どでかいパレットの形をしたグランドピアノを何処に置くのか。

弁当箱 美味しそうな猫 女

貧乏人だって、ピアノを部屋の真ん中に置いたって構わないはずだ。

普段は卓袱台として使っても良い。

あのカーブのところに腰を押しつけたって良い。

金玉 海 蒲鉾屋の犬 色事師

今年の鰻は高い。

今年の暑さで稚魚が育たなかったからのようだ。

まだ入院中に、東大のチームがグアム島沖だったかで、鰻の卵を採取したと新聞に載っていた。

東大も暇だな。

鰻 独楽 亀 蕎麦のつゆ 応拳の絵

福島第一原発が破裂して、川魚は恐ろしく汚染されている。
福井県にいても、鮎やら山女やらは食わないようにしている。
産地の表示がなされていても、偽装かも知れない。
ふくいのおいしい水も雑菌だらけだし。

おけら 豆腐屋 煙管 看護婦

さつき、少し運動をしたらグラグラした。
ゲータレードを二本飲んだら治った。
ミノワさんが自動販売機に二百四十円騙し取られたと言っていたので、百二十円入れてアセロラドリンクを買ってあげた。

時計屋 肉屋 提灯屋

ヤマガタコーチのおじさんが、北海道で亡くなったようだ。肝
硬変だったらしい。ヤマガタコーチが髪の毛をのばしていた。
『カツラですか』って聞くと否定する。

ナヨロだと言っていた。死んだのは。

雨 傘 勝負

九月だというのにまだまだ暑い。

昨日は中秋の名月だった。

卵焼き 印度人 ライスカレー

ライスカレーでも食べようか。無理だよ、俺作れないもの。

爆裂火口の跡・登別温泉の食券

爆裂火口の跡・登別温泉の食券

旅館は増築ばかりで迷路のようだった。

自分の部屋にもどると、人の気配がする。女中さんと呼ぶ。温泉にでも入ったのだろうか、浴衣姿で涼しげだ。

ふたりで押入を調べる。奥の窓際も調べる。
誰もいない。

いや、いたんです。
いないですよ。

部屋の隅に小さなベニヤ板で作った箱を見つける。

女中さんと箱を持って食堂まで歩く。

女中さんが強盗の話をした。

入られたんですか？
違います。

入ったんですか？

違います。

よくよく聞いてみると、この温泉旅館に潜伏していた強盗団が警察に捕まったのだと言う。

食堂に着くと、女中はベニヤ板の箱の中から食券を取り出し渡してくれる。

緑色の小判型のプラスチックには『デナア二百円』と書かれている。

テエブルにはマエダハジメがいた。
糖尿の専門医のはずだ。

一九八二年十二月二十五日・香住行きの真夜中に

一九八二年十二月二十五日・香住行きの真夜中に

山、ホリグチと飲む。

おぼえておいですか。

ここに立ち寄った事。

蒸気機関車が白い煙を残して立ち去ったあと

誰もいなくなったプラットホームに

あなたは

ぽつんと

立ってらした。

ボクに命が九つほどあったら、好きになった女の人殺されそうになっても勇敢に戦って死ぬ。もちろん女の人殺される。

書いてみるか。

九回ほど死ぬる男の話。

午前四時だ。

明日、正確に言えば今日、部活仲間で香住に行く。

出発が午前七時だから数時間は眠れる。

たった三時間ほど先の未来なのに、遙か先の未来のような気がする。

そわそわしている。

久しぶりの心地よい緊張感だ。

ロッドスチュワート・I was only joking

ロッドスチュワート・I was only joking

小さい頃から

はみ出してばかり

口ごたえして気づく

結局ボクは何も変わっちゃいない

いくら上手くやっても

不良がやった事

父さんはボクの事

変わった奴を育てちまったと笑うけど

あれは

あれで

結構傷ついてたんだよ

仕事についたり

投げ出したり

社会にたてついてばかり

冷たい目で見ないでくれ

何をやっても

ボクは変わらない

寝苦しい夜

女と約束しては

夜明け前に忍び込んだ

大事な時間をつぶしていた

すべてをワインのせいにして

ボクは

自分に嘘をついていたんだ

逃げ場所をさがしていただけ

ひどい野郎だ

何も得られるはずなんてなかった

ひとつの妥協もせずに

蝶のように恋人をかえた

自分だけに

本当の愛を見つける資格があるって自信も
やがてうすれていく

スージー、君はとても素敵だよ

けれど君は

ボクの嘘を本気にしてしまったんだ

別れよう

その方がいい

本気なのと

君は尋ねる

ボクには

答えられない

真実の愛があるかどうかなんて

誰にもわからない

けれど

ボクの思いを君に話そう

望みのすべてを君にあげよう

でも

これだけはわかって欲しい

愛を示す事がボクには出来ない
君がボクの愛を望んでいるなら
ボクは耐えられない
ひとりの方を選ぶだろう

ボクは
自分に嘘をついていたんだ
逃げ場所をさがしていただけ
ひどい野郎さ
何も得られるはずなんてなかった

ボクのしている事は間違っているんだろう
自分の思いを歌にして
知らない人々に聴かせている
拍手喝采をあびようと

今静かに
自分が変わっていく

第一幕が終わったというのに
一度も衣装をかえなかった

ボクがステージから離れたがつているのを
聴衆は知らない

亀頭率の定義・ことばの星灯り

亀頭率の定義・ことばの星灯り

一九九一年二月十五日

こころないものたちが

ぼいらーや

ひーたーや

じどうしゃのかぎを

こわしにきたけれど

わたしたちは

ひとつひとつ

なおす

なにかきても

なんかいきても

おなじことだ

ひとつひとつ

一九九一年二月十六日

ちかごろの
あかんぼうときたら
いったい
なにをかんがえているのか
さっぱり
わからんわい
きみのことだよ
きみの

一九九一年二月十七日

みすてられた
ところは
こえが
かれたの
みすてられたちちと

ははのかえりを
まっっているとき

一九九一年二月十八日

こころをうたを
よむははと
いくじのほんを
よむちちと

一九九一年二月十九日

わたしは
こころのみに
いきているのではない

一九九一年二月二十一日

むーみんだにの
すなぶきんて
なにして
くらしてるの
こころくんの
ちちうえは

なにして
くらしてるの

一九九一年二月二十二日

ぜんたいじゅうにたいする
きとうのしめるわりあいを
きとうりつという

こころ
さんじゅっぱーせんと
ちちうえ
れいてんごぱーせんと

宮永愛子の時間・ウィキペディアには現在この名前の項目はありません

宮永愛子の時間・ウィキペディアには現在この名前の項目はありません

愛子さんが透明な時間を透明なトタン箱に閉じ込める。

遠い昔に人がまあある時計の文字盤に見えない時間をようやく閉じ込め安心していたら、愛子さんはそうではないと主張する。

時間は目に見えるのだ。

しかも不揃いな結晶として存在する。

愛子さんはナフタリンで時計を作る。

閉じ込められた時間が

熱を獲得して昇華する

かと思えば

熱を失って昇華する。

愛子さんは

直感的に知った

時間はエナジイの関数なのだと。

東大の先生が

理論物理で証明しようとしているあいだに。

エナジイが確率の関数として表現されるという
ペイパアをキイボウドで叩いているあいだに。

わたしの息子がその研究に取りかかったのは
二千年前だった。

怖ろしく計算の速い電子計算機に
プログラムをほうり込んだ。

愛子さんの
ナフタレンに先を越された。
閉じ込めたナフタレンに。

C a s a b l a n c a ・「哀愁のカサブランカ」のオリジナル

C a s a b l a n c a ・「哀愁のカサブランカ」のオリジナル

ドライブイン・シアターの
一番後ろで僕たちは愛し合った

カサブランカが映っていた
瞬くライト

ポップコーンとコーラが
星灯りでシャンパンとキャビアに変わる
あの夏の長い夜

カサブランカを観て
僕を好きになったと思っていた

天井の扇風機
リックのカフェでは
ロウソクの灯りが揺れていた
隠れるように身を寄せ合った

月

友だちに借りたバタバタのシボレーで
僕たちはカサブランカを観たんだった

映画のキスはただのキス

君の息づかいが聞こえないキスなんて

戻ってきておくれ

カサブランカ

カサブランカには壊れたハートが
たくさん落ちてる

銀幕に決して映らない僕たちの恋

もう戻れない

約束なんてするんじゃないかった

もう

戻れない

あの時には

夢日記・知らない時間知らない場所じゅうつこめ

夢日記・知らない時間知らない場所じゅうつこめ

夢日記。

もう三十一年もの間、決して開げられる事なかったルーズリーフノート。

一九八一年十月一日 一 殺し合い 胸にナイフ（抜いたら死）

二 殺される ピistol 頭に衝撃

一九八一年十月四日 小心者 上条の指摘

一九八一年十月十日 一 割れた頭 かつら

二 新しいアンプ

三 向日葵柄のワンピースのNさん

一九八一年十月二十日 電車に体当たりする男

一九八一年十月二二日 一 病気の母

二 石原裕次郎vsピistolを持

つ母

三 もうひとりの女殺し屋

一九八一年十月二二日 一 ハングライダー 落下

一九八一年十月二五日 病院 ヘルメット五個

一九八一年十月二六日 一 金の鍵の夢

二 全裸の女性

一九八一年十月二八日 分身体験（壁の前で）

一九八一年十月二九日 一 バスに追われる 北陸へと

二 名刺 江川卓

一九八一年十月三一日 一 逃亡中 僕が誘拐された 銀

貨を払う父

二 叱る母

ノートのすみに

コンピュータも夢を見るか

とある。

越前市八幡1丁目・武生高校の渡り廊下で死にかけたカブトさん

越前市八幡1丁目・武生高校の渡り廊下で死にかけたカブトさん

わたしは武生高校にしばらく通った事がある。

中学3年の夏だった。

英語の特別授業に参加した。

外人の先生がお喋りする。それをニコニコと頷きながら聞いている。

君の発音はフアンタスティックだね。何時何処で習ったんだ？

まただ。中学生の時に中学校でに決まっている。

サワダ先生には悪いが、福井弁の発音には我慢が出来なくてNHKの基礎英語、続基礎英語、そして英会話を聞き続けた。

夏休みの別冊付録で、『R』と『L』の発音の違い、『TH』と『S』の発音の違いをトレーニングした時は辟易としたが。

そういう訳で、わたしは発音には自信がある。特にインポートなんかは抜群だと思う。ライブラリーなんかもずいぶんと練習した。もちろんブロッコリーなんかは書くのが難しい。

わたしが英語の講習を受け、英語で書いた初めてのサーティフィケーションをもらった翌年にカブトさんが、武生高校の渡り廊下で雷に遭う。

目の前に火柱が立っただけです。

カブトさんが述懐する。

休み時間に自販機でジュースを飲んでいたんですよ。

ああ、あの自販機か。わたしも牛乳を飲んだ。

あの時、カブトさんが雷に打たれていたなら。

わたしはよく高校の校長によばれた。

うえき君、君は天才だ。

またか。

このカルテを見給え。

橋本左内派の校長は、常に啓発録を身につけていた。

一年八組では擬態によって周りをなごませた。

『うえき虫大五郎』と名乗っていた頃だ。

二年五組のではエイコさんとき合う事で不純異性交遊を促進した。

『うえき君』と名乗っていた頃だ。

三年三組ではそのユーモアでもって人を楽しませた。

『女性うえき専科』と名乗っていた頃だ。

千年千組ではその作品でもってお釈迦様を救った。

『God with me』

あ、それ。

わたしの息子の著作です。

カルテにはないと思いますが。

輪島市鳳至上町・手術前夜の小さな女

輪島市鳳至上町・手術前夜の小さな女

市バス5番で花園前まで。

徒歩で病院まで。

診察券と父名義の保険証。

何時ご予約されました？

三ヶ月ほど前に。

看護師のYさんが現れ目配せ。

近づくと

特一号室で待っていて。

特一号室の窓を開ける。

七月だけあって日本海が輝いて見える。

清張の『草の刻印』をベッドで寝そべりながら読んでいると、
マツイドクターの声。五ヶ月ぶりだがそれとわかる。

当時同室だったタクシーの人が

二号さんがあるんやわ。

と教えてくれた。

京都大学の医学部卒、しかも開業医なら仕方あるまい。

マツイドクターの声が

寝とる。

と言う。

305号室に移動。

二人部屋のお隣は刺青のイクタケ氏。

右膝の下の複雑骨折だとか。付き添いの小さい女、しゃべり。

夜、ひどいいびきに起きる。

イクタケ氏だと思っていたが、寝返りをうつふりをして確かめると、下に寝ていた小さい女のいびきだった。

不眠あり。

午前二時頃には眠る。

明日は手術だ。

こころの熱病・ことばの星灯り

こころの熱病・ことばの星灯り

一九九一年二月二三日

なきがおもすてき
こころ
わたしは
まぞなの

一九九一年二月二五日

じどうしゃのなかで
こころが
いなくなつた
ときの
こと
かंगाえたら
きもちが
なくなつた

一九九一年二月二六日

てーまそんぐ
とどいたね
あしなが
おじさんから
こころくんのうたで
さんにんで
おどったね
とても
ゆかいな
よるだね

一九九一年二月二七日

こころの
かせきのそばで
わたしたちの
かせきも
はっけんされるの
いつか

一九九一年二月二八日

あまぞんのみつりんの

ふかいけのなかで
こころがねつびよう

おかあさんは
けしょうし
わたしは
ぱんつを
かぶつて
たすけにいくよ

一九九一年三月一日

ふるえる
こころを
いしやにみせた

こころくーん
うえきこころくーん

よばれて
どきどきは
ぼくたち

夢日記・知らない時間知らない場所じゅうななこめ

夢日記・知らない時間知らない場所じゅうななこめ

夢日記。

もう三十一年もの間、決して開げられる事なかったルーズリーフノート。

一九八一年十一月一日 一 小さな猫と一緒に逃げる

二 病院 押さえつけられ注射

三 河和田川 アヒルの足

四 父 やっぱりやめとくか

一九八一年十二月二日 一 退院 捨ててあったジープ

二 ブレーキがきかない自転車

九州のおばさんが妊娠

三 いもくと 頭が割れて

一九八一年十二月三日 一 電話 勘違い 花束

二 観光船 二谷英明

一九八一年十二月三日 昼寝の夢 ふたつに別れるテレビ

カラモノクロ
内外

一九八一年十一月五日 幼稚園児の列にクルマ ひとり死
亡 母親が抱き上げると蘇生

一九八一年十一月六日 一 橋のたもとの秘密 便器 親分
二 女性の着物姿 胸 ひとの気配
三 慈雨

女性 一九八一年十二月八日 一 イワサキ 駅へ バンに乗る

二 がぼがぼのコルク栓

ノートのすみに

だいがくの五年生

ボクの友だちは
彼の可能性が
太平洋にたらした
一滴の青インクだと気づいて
卒業して行った

ボクは
自分の可能性が
たとえ一滴の青インクだとしても
太平洋の色は
確実に変化すると
信じている

とある。

Shanghai High-Speed Railway to Kunming

Shanghai High-Speed Railway to
Kunming, Missing

Distance was too long to
construct or take actions.

A conductor appeared only once
at midnight.

Through the windows, REIA and
I saw no lights in the earth
except the horizon that the
full moon lighted up.

After the talk of the movie
"Shanghai Express", I said that
I met with an accident in the
mountain.

I had the accident in Hotaka
in the north Alps, Japan.

I fell into the valley and
found the narrow stream was
frozen there.

The sun was still high, but it
seemed that my left leg had b
roken.

"You guess what kind of fee
ling I had?"

REIAI did not reply to it, say
ing that she had a similar ex
perience.

When she was young, her family
went on a picnic.

While she stepped over some br
ocks, she went too ahead from
her family.

She found suddenly herself to
be a missing child in a flower
garden.

A lot of yellow sunflowers com
mand her.

Even the horizon was under the

flowers .

" I was not able to take a single step ."

REIAI told me .

" A numerous children are missing in that sunflower field every year ."

The train runs through the midnight .

Of course I was able to embrace REIAI .

Of course .

There were many entrances into her and there will be from now on .
But I will never .

Dr. Yamamura once said,

"You are not qualified to get any girls, because you have no job."

Of course not.

So to speak, REIAI is one of Changanjiang River and I am a driver fitting piece of wood there.

I love her.

四条河原町

岩倉実相院

（河原町御池経由）

・膝のワイヤーを除去する

四条河原町

岩倉実相院

（河原町御池経由）

・膝のワイヤー

を除去する

手術当日。

病院の朝は早い。

午前六時半起床。朝飯の後午前十一時まで二度寝。

昼飯を食べ終わるとインタホンで

うえきさん、ご飯食べちゃった？

はい。

とY看護婦とやりとり。どうやら手術前は絶食が原則らしい。

手術室はレントゲン室だった。

天井に一匹の小さな虫。裸電球の電気スタンドがひとつ。

マツイ医師が手術を始める。背中を丸めて下半身麻酔。

マツイ医師とレントゲン技師との意見が時々食い違う。左右の判断が滅茶苦茶。

足が冷たくなってくる。Y看護婦に

右足がつつてきました。

と言う。

ボクの足に触る。あまりに冷たかったのか、驚いた様子で血圧計をボクの右腕に巻く。その後しばらくY看護婦の胸がボクの右腕を抱いていてくれる。

マツイ医師が銀のペンチで、ボクの左膝蓋骨のワイヤをゴンと抜く。時々レントゲンモニタをのぞく。

よつつの輪っかになったワイヤが知恵の輪のように絡んでいる。

Y看護婦が

あ、見えてきました。

と言う。

宝さがしだな。

とマツイ医師。

三時間が経過した所でマツイ医師が聞く。

うえき、諦めるか？

はい、ずっと持つときます。所有欲が強いんです。

レントゲン技師だけが笑う。

マツイ医師が聞く。

卒業するのか。

はい。

作家にでもなるのか？
大学院です。

術後、Y看護婦に

ワイヤを下さい。

と頼むと、一本の銀線がガーゼに包まれてやって来た。

これだけしかなかったの、ごめんなさい。

部屋に戻るとイクタケ氏と付き添いの小さな女子が、ウオータ

クーラーとライターの事で口げんか始める。

ボクはイクタケ氏の肩を持つ。

刺青は強い。

いつか来る別れ・ことばの星灯り

いつか来る別れ・ことばの星灯り

一九九一年三月二日

ゆめをみた

ばすにのった

こころをもとめて

てろりすたと

たたかった

ろぴゃくえん

とられた

一九九一年三月三日

あしたから

はなれこじまに

こころとふたり

ながれつく

やしのみに
みなみのくにを
おもいながら
ろまんちっくしたい
けど

げんじつはきびしいのだ

一九九一年三月四日

こころはうんこする

このじじつを

こくさいしんりがつかいに
はびょうして

くらみつせんせいを

びっくりさせてやろう

一九九一年三月七日

こころのかみは

ばくはつのげいじゅつの
ごっほのいとすぎなのだ

一九九一年三月八日

こころのいないへやに
ぼくがうごいたかぜで
もびるのゆりかごが
なつたよ

一九九一年三月九日

こころの
ぎゅつとにぎつたてを
おもいだした
ぼくたちは
わかれるんだね
いつか

かならず
いつか

一九九一年三月十日

やまのむこうから
こころは
かえってくる
なんかいも

なんかいも
こころは
かえってくる

一九九一年三月十一日

おとこのこは
なんでできてる
かえる
かたつむり
ぶたのしっぱ

きおくのなかの
まぎーぐーすより

イツツイー・ビッツツイー・スパイダーの雨樋

イツツイー・ビッツツイー・スパイダーの雨樋

雨上がりの空を見ていた。

ぼくは蜘蛛の巣の撮影を始める。水滴のひとつひとつが太陽の光を屈折させて七色に光る。

雨粒の中にいつぴきの小さな蜘蛛が潜んでいた。

蜘蛛がするるとこちらに歩を進める。

雨樋を進むようにボクを登ってくる。胸で止まった。

ぼくは当時、公園の屋外ステージの下に棲んでいた。

蜘蛛が自らの糸で飛行するのを知ったのもその頃だ。風さえ良ければ何千キロでも移動できる。

一日かけて雨樋の中を登っていく。

雨に遭う事もあるが、乾いたら、振り出しからまた登れば良い。

飛行には暖かい風が必要だ。

暖気は上昇気流となるからだ。

自らのほき出した糸にぶら下がり、蜘蛛は風に乗りあてもない旅に出る。新しい雨樋をもとめて。

もちろん飛行を拒む蜘蛛もいる。

生まれ育った雨樋でひっそりと暮らす。

日が高くなるにつれて、暖められた南斜面から次々と上昇気流が生まれる。

ぼくは糸を紡ぎ始める。

たんぽぽの綿毛のような糸が理想だ。ぼくが綿毛で運ばれる。

飛行中に逆光の中で、自分の糸が輝くのを見るのは誇らしい。

少し離れたいちご畑からの甘酸っぱい匂いが強くなってくる。
時間だ。

夢日記・知らない時間知らない場所じゅうはちこめ

夢日記・知らない時間知らない場所じゅうはちこめ

夢日記。

もう三十一年もの間、決して開げられる事なかったルーズリーフノート。

一九八二年十二月九日 一 沢山のボール ドブ ひとつ
飛ばし

- 二 学校の階段 先生 ベル
- 三 関さんの隣に移動（席）
- 四 間違い探しのテスト ロケット
- 五 海と山との戦い 島倉千代子
- 六 いもと 弁当 あんころ餅

一九八二年十二月十一日 一 女性と相部屋 戻ってこない女性

二 ゴジラの目 にらめっこ

- 三 男たち 崖の一本道
- 四 絵 スズキとの比較
- 五 朝礼 ラジオ体操の邪魔をする河合

六 ピアノ 不釣り合いな一本

の楽器

一九八一年十一月十三日 一 飛行機の操縦

二 後方から殺し屋 飛行機で

復讐してやる

三 ネギを買う若い男

一九八一年十一月十六日 一 ヘビだらけの部屋 噛まれ
た 左手の甲 脇腹 背中 女性がクスリを塗ってくれる

二 オートバイを探す オバサ
ンの声『自転車屋から電話です』 上野でフリップス氏を捜す

一九八一年十一月十七日 一 風船のように膨らむ小銭

二 修学旅行 遅れて行く 一

人の女性を助ける ナカガワ骨折

ノートのすみに

電車 ピストルの弾

男がひん死の状態 ふたりの医者（麻酔）

『楽にしてやる』の解釈 生かす

殺す

直井潔
『羊のうた』

とある。

十月のカレンダー・何年の？

十月のカレンダー・何年の？

一日土	城之崎温泉	
二日日	久美浜温泉	風邪
三日月		風邪 禁酒
四日火		アラビカ、イシグロと
五日水		
六日木	『ブルーサンダー』	吾作イシグロとヤマムラさん
七日金		吾作カタオカとヤマムラさん
八日土		ちくわアライさん
九日日		イシグロ
十日月		イシグロ？
十一火	巨人優勝	吾作ホリグチ
十二水	『ふるさと』	カジワラ、ヤマムラさん
十三木		
十四金		
十五土		
十六日		
十七月		
十八火	帰省	
十九水	雨	
二十木	武生菊人形	おとうとと
二一金	たきもん作り	
二二土		
二三日		
二四月		

二五火 『生きる』

吾作イシグロ

二六水

吾作ヤママラさん

二七木 雨

んイシグロ

二八金 伊丹

二九土

貝、ごえもんホリグチと

三十日 『一九〇〇年』

三一月 欠席届

結構飲んでばかりいるなあ。映画もかなり観ている。同じ下宿のイシグロはまだ修士課程にいたのだろう。

居酒屋吾作もなつかしいが、『貝』ちゅうのも久しぶり。ホリグチとか、オオニシとかで良く行ったものだ。

銀閣寺の近くの浄土寺の角にあった大きめな居酒屋。あさりの酒蒸しをよく頼んだ。マスターが西武ライオンズの東尾修に似ていたんだった。

十月の中旬に帰省をしている。

おとうとももう大学生になっていたのだろう。ふたりで菊人形を見に行ったのだったか。あれ？ふたりともバイクの免許しか持っていないはず。

どうやって武生まで行ったのだろう。

じとば遊び・じとばの星灯り

ことば遊び・ことばの星灯り

一九九一年三月十二日

こどものことば
こころのことば
こころのことば
かたちのないもの
おもうもの

一九九一年三月十三日

しゃしんでみるともんだいがい
かるいきもちでおうてみて
わすられないのがすずみなら

しゃしんでみるとかわいくて
こころうきつきおうてみて
みるときくではおおちがい
さてこのじんぶつはたれでせう

一九九一年三月十四日

こころの

いちまいの

たからのちずには

わたしたちが

それぞれにうけついだ

2のNじょうの

たからのちずが

うめこまれている

こころ

きみがたからものを

さがすばんだ

一九九一年三月十六日

こころは

わたしたちの

かんけいをあらわす

がいねんでもあるんです

一九九一年三月十七日

こころっけつとんびっくりばこころ

こころばたやきいももくりさんねんかきくけこころ

こころっけんぺいたいやきんりんしゃこまえんぴつくだにんきもの
げんゆにつこうよくばりんごまどうふみだいしょうこうんこころ

一九九一年三月十八日

こころきょうわこくの

じかんのたんいを

こころじかんときめる

いちにちはちこころ

いちこころはさんじかん

いちじかんはさんぶんのいちこころ

これにいはんするものは

こころさいばんでしけいなのだ

和歌山県海南市黒江・箱屋の修行

和歌山県海南市黒江・箱屋の修行

ボクが箱を作っている。設計図には寸法が書かれている。しかし材料の段ボールが小さすぎる。

組み立てると十字架を納める箱になる。

父は漆器屋をやめて箱屋になった。

ボクが生まれて間もない頃に、ぷいと家を飛び出し三年間行方不明だったらしい。

兄を頼り、和歌山で暮らしていたという。

箱屋の修行をしていたのだ。

漆器屋をやめて、漆器を入れる箱屋になった。

三年後に家にもどり、大きな裁断機と糊張りテーブル、そしてコーナーをホチキスで留める、ガチャンガチャンと音のする器械を導入した。

石屋という商売がある。

河原で拾った石を河原で売る。つげ義春が描いた職業だ。元手がいらぬ事、お天気にも左右されぬ事等、管理費がいらぬ事、

長所を挙げればきりが無い。

が、売れない。

箱は売れた。が、儲けは少ない。何日も何日も夜なべをした。

ボクが設計図通りの箱を完成する。
階下から父が呼ぶ。

母ちゃんが死んだ。

ボクは箱屋になった。

岩倉実相院比叡病院・膝蓋骨の手術のあとで

岩倉実相院比叡病院・膝蓋骨の手術のあとで

翌日、これといって特別な事はない。

午前十一時に注射。抗生物質を婦長さんに打ってもらった。お尻に打ってもらったが意外に痛くて驚く。

掃除のおばさんたちと喋る。

おばさんたちは北山病院の精神神経科から来ているらしい。リハビリもかねての作業なのだろう。

精神科に通っている事は、彼女たちにとって秘密ではないのか。

左膝が六十度ぐらい曲がるようになった。

熱もない。ただ食欲がない。

朝食時に少し吐き気。

夜、消灯前にY看護婦が十分ぐらい喋っていった。今夜は零時四十分にひけるとの事。

同室のイクタケ氏によると、Yさんは鹿児島県出身だそうだ。

翌々日、昼の一時にオギノが沖縄の土産を持ってやって来た。貝殻とハブ粉。直子さんとの良い思い出が出来たと言う。

テレビばかり観ている。

イクタケ氏は婦長さんの事を

ばあさん

と呼ぶ。

午後八時にイクタケ氏の会社の女性が現れて、給料と保険金の事を話して行く。

午後九時にYさん（七月十九日生まれ）に膝の包帯を巻き直してもらった。

夜暑くて眠れない。

タケシのオールナイトニッポンを聞いた。眠ったのは午前四時頃。一時半頃サイレンが鳴ったが。

日本最大の母親湖・ M I C H I G A N N I G H T 密西根表演艇

日本最大の母親湖・ M I C H I G A N N I G H T 密西根表演艇

土居まさるが司会を続ける。

今回はハワイ行きがかかっております！

外輪船ミシガンの上からの生中継。アシスタントの石川ひとみが、デッキから金の鍵を湖に投げ込む。

金の鍵が、ボクのしがみついていた一本の老木の根元に沈んで行った。

芸能人から一般参加者まで、全員でその鍵を求めて競う。

ミシガンからは何人もの観光客が琵琶湖に飛び込んだ。芸能人もいる。清水健太郎、近藤正臣の姿も見える。

ボクは二三回深呼吸をしたあと、金の鍵のありかに向かって潜り始める。もし海流の影響で鍵は流されているかも知れない。

息を止めて潜る。

これはあみだくじとは違う。

早い者勝ちのレースだ。初めから老木にしがみついていたボクは圧倒的に優位だった。ただ沈めば良いだけだ。

ボクは暗黒に向かって潜りながら想像する。

金の鍵を左手に高々と掲げながら、土居まさとと石川ひとみの所へ泳いでいく姿を。

夢日記・知らない時間知らない場所じゅっきゅうこめ

夢日記・知らない時間知らない場所じゅっきゅうこめ

夢日記。

もう三十一年もの間、決して開げられる事なかったルーズリーフノート。

一九八一年十二月三日 一 女性 おにぎり ひと安心

二 山羊が死んだ

三 バス 食事をするランナー

一九八一年十二月二四日 バスの運転 本物の運転手と交代する

一九八一年十二月二五日 一 父と車で山道をレース 旅

館をさがす

二 ふたりの女性と食事の約束

三 ビール 高い勘定

一九八一年十二月二六日 一 オカモトさんにトイレを見られる

二 低いハイヒールと敷居

三 左人差し指を八ちに刺され

る 婦長さんに吸い出してもらっ

一九八一年十二月二七日 隠しカメラ 男性X

一九八一年十二月二八日 一 バスに挟まれる サイダー
二 四方を壁に囲まれる
三 高校へ再入試 母の発案
四 京都へ行く いもつと
五 ゴルフクラブ 青い犬

一九八一年十一月三〇日 光る水の夢

ノートのすみに

体操座りを教わったのは
保育園の頃か

おかげで
今でも
自分の部屋にいても
どこにいても
その姿勢をとってしまっ

とある。

おおかみとひつじの話・ことばの星灯り

おおかみとひつじの話・ことばの星灯り

一九九一年三月十九日

たわむれに
こころをいだき
そのあまりにおもきに
さんぽにもいかれず

一九九一年三月二十日

あしたこころのゆめをみた
ないふはきもちいい
といった
はじめてのことば
いみは
おとといのゆめにきこう

一九九一年三月二二日

こころすなわちくう
くうすなわちこころ
ぶつきょうのほんに
かいてあつたこころ

一九九一年三月二二日

ひつじの
かわわたりのくいずです

ふたりのりのふねいっそうで
いっぴきのひつじと
おおぜいのおおかみを
こちらのきしから
むこうのきしへとはこぶの
ただし
ひつじとおおかみだけにすると
ひつじはたべられちゃうの
ふなのりはひとり
さて
どうする

一九九一年三月二三日

ぼくのそうさくかつどうの
しゅうたうせいでもある
このころのうたも
なくころには
かてない
ことばはかつて
げんじつをこえたところに
あつたはずなのに

一九九一年三月二七日

いきているだけで
いい
ころ

一九九一年三月二五日

ねむりのもりの
なかにきょう
ころはいた
さがすはずのぼくは

もりのまほうで
ねむらされ
こころのとなりに
とじこめられた

つづく

一九九一年三月二六日

まほうつかいのすすみが
ぼくたちを
ねむりのもりからすくった
そうじきのばくおんで

一九九一年三月二四日

こころのゆりかごは
ぼくのおぐら
こころのめざましは
みすずのくしやみ

えんそく (こころばちよふこころ)

こころのみたものは
こうえんのぱんだと
かわしまのおじじと

かわしまのおばと
かわしまのまつこと
かわだのあきおさん
かわだのまつこさん
ますながのおばさん
ますながのせんせい
むかいのつかださん
さてここでもんだい
ぜんぶでなんさいだ

岩倉の比叡病院・膝の皿の内海で

岩倉の比叡病院・膝の皿の内海で

病院の屋上に初めてあがった。

お婆さんが洗濯をしていた。雨が降りそうだ。

昼の三時にY看護婦が部屋にやって来た。

何時帰りますか。

マツイドクターが今日でも良いと言っているらしい。

え？まだ抜糸もしてないのに。

と驚くふり。

ボクはもう数回入院した事があるが、何時も長居をする。先日は30年ぶりに行った歯科医院でもう良いと言われガツカリしたのだった。

それに、まだ見舞客がひとりだけなんです。

Yさんが笑う。

『来週の日曜までいさせてください』と言うと分かったとの返事。

昨日パンツを替えた。

不眠。

プロ野球ニュースを観た。

金村がジュニアオールスターでサイクルヒットを記録。

八月のカレンダー・一九八四年

八月のカレンダー・一九八四年

一日	
二日	
三日	
四日	
五日	
六日	
七日	奥飛騨温泉
八日	奥飛騨温泉
九日	
十日	
十一	
十二	
十三	
十四	『007オクトパス』
十五	
十六	京都
十七	京都
十八	有馬温泉 トキヤス、キヨユキ
十九	
二十	
二一	
二二	
二三	
二四	

二五 帰京都

二六

二七

二八

二九

三十 『嵐を呼ぶ男』

三一 欠席届七号 京一会館『ザ・オナニー』

この最後の映画は未だに印象深く覚えている。

これまでのアダルト映画とは違い、素人のような女性、名前も伊藤さんだと記憶しているのだが、彼女が電動マッサー器でオナニーを見せるという趣向だ。

新しい波が来ていたのに、気づかなかったただけかも知れないが、まったくもって斬新な企画だった。

日活浪漫ポルノの凋落の前兆のような映画だった。宮下順子やら美保純に慣れた精神的童貞としては驚きだった。

自転車での帰り道中華料理店で、晩飯を食う時に隣の女性客が病的に気になった事は言うまでもない。

摂食障害あり。

逃げない猫・ふたつに別れるサザエさん

逃げない猫・ふたつに別れるサザエさん

ボクはまだ病院にいる。

Y看護婦が言う。

あなたがあんなに活発で無茶の出来る人だなんて。
逃げ足だけは速いんです。

ボクは小さな猫と一緒に逃げたのだ。
段々畑を二段飛び、三段跳びしながら下に逃げ降りる。

家に着く。

オババに猫が話をしている。

ボクが真冬のバイクの事故で比叡病院に担ぎ込まれた後すぐに
死んだ祖母だ。いや、逆だ。オババが死んでからボクが膝を粉々に
したんだっただか。

猫は別れを告げているようだった。

小さい頃はよく母親と虫取り網を持ってホタル狩りに出かけた。
歩いて五分ほどの所に、ホタルはいた。
シャンデリアのように瞬く。

あっちのみーずはかーらいぞ。
こっちのみーずはあーまいぞ。

ギャング団をつかまえて脅し、強盗袋を奪い取る。

袋を地面に向けて叩きつけると、じゃらじゃらと銀貨がこぼれる。

無数の銀貨があっちの水とこっちの水の境で、ふたつに別れ流れ始める。

ふたつがひとつに、ひとつがふたつになりながら流れて行く。

あきおさんの話・ことばの星灯り

あきおさんの話・ことばの星灯り

一九九一年三月二八日

あきおさんのいない
かわだのいえに
こころの
なきごえが
なりひびいたのだ

一九九一年三月三日

すずみが
こころを
そまつにしたので
ぼくが
すずみを
けとばいたの
ゆめの
ひこうじょうで

一九九一年三月三一日

いよいよあしたは
せけんさまの
いわゆる
えいぷりるふーるだね

わがやはまいにち
えいぷりるふーる
すずみ

あいしているよ
けっこんきねんび
なんきよくへ

おーろらでもみにいこう
こころくんのくびもすわったしさ

一九九一年四月一日

こころくんはたまごなの
わたしたちもたまごなの
ちきゅうもうちゅうもたまごなの

一九九一年四月二日

こころくんのくびが
900どまわったの
おかあさんがしんじないので
けとばいたの
ゆめだけどね

一九九一年四月三日

うみのおとこのこころいき
やまのおとこのこころいき
かわのおとこのこころいき
まいばらくじのこころいき
おだわらにじのこころいき
あおもりよじのこころいき
こころのりものどれですか

一九九一年四月四日

かわだのあきおさんが
こころくんと
はなしあつたって
ほんとかな
じつのむすこのぼくでさえ

まだひとことも
わかりあっていないのに

一九九一年四月五日

こころのかみをはさみできって
しゅうじのふでをつくるんだって
いのちにきけんはないらしいけど
おやのどういしょがひつようらしいよ
ふでをおろすっていうんですかね
けっこうどきどきしますよね
おとこのこのこころとしては

旧約聖書「創世記」十一章・八テ惑星の戦い

旧約聖書「創世記」十一章・八テ惑星の戦い

福井大学で模擬テストを受けている。
ウルシザキ先生が監督をしている。
間違い探しの問題を解き始める。

左図において、間違いの箇所をanswer欄に書け。
という指示。

ロケットに人間三人と一匹の犬が乗っている。

どこが間違っている？
人間はおかしい。犬も。
まさか、解答欄に間違いがあるのか。

考えているうちに、ロケットの周りを一台の自動車が回り始める。

クルマか。宇宙に。
しかしクルマ型のUFOがあっても不思議ではない。
ひょっとして、間違い探しの問題に、間違いのない絵が描

いてあるのが間違いなのかも知れない。

ロケットがある惑星に到着する。

タカシマさんと一緒だった。海が見える。

どこを見回しても僕たちのいる砂浜と海しかない。波が寄せてはひいていく。

僕は『死』を予感する。

透き通る青い海。

タカシマさん逃げてください。僕が犠牲になります。

僕がひとりになる。

波が、海が、どんどこちらを侵し始める。

僕の足はどうやら動かない。

靴まで海が侵し始める。

ここは宇宙のハテだ。ハテ惑星だ。

島倉千代子と言う。

わたしがここに残ります。お逃げなさい、やがてこの海は山の海との戦いを始めるでしょう。

僕は逃げた。

砂浜を右へ右へと走ると尾根へ出る。

山の方からも波が寄せて来ていた。

山からの山の波と海からの海の波が僕の足元でぶつかり合い、飛沫をあげる。

岩倉の比叡病院・退院

岩倉の比叡病院・退院

七月二十四日（土曜）

回診。

夜九時、Y看護婦が見回り。

じゃれていたら、僕の手を握る。

七月二十五日（日曜）

夜九時、YさんとTさんが見回り。少し話す。

昼三時、アサノさんの見舞い。甘露飴二個もらう。

Yさんが二十六歳、Tさんは二十歳になったばかりだそうだ。

七月二十六日（月）

朝、Yさんが僕の足をコツンとたたいて起こしてくれる。

『何時に帰るの？』

『わからん。』

昼、京都銀行に行き病院代に四万円おろす。

暑い。

昼二時半。

診察室で抜糸。チクリとした痛み。

まだ血が滲む。

『今日風呂に入れるようにスプレーをかけておこう。』とマツ
イドクター。

『レントゲン写真が欲しいのですが。』

『コピーする器械がないから駄目だ。』

四万円払って退院。

見送りはなし。Y看護婦に何時か言っただった。

京都バスで出町柳まで。出町から特十七で銀閣寺道まで。

暑い。

観光客が増えてきている。

ビキニ環礁（B i k i n i A t o l l）・核の落とし子の視線の先

ビキニ環礁（B i k i n i A t o l l）・核の落とし子の視線の先

ビキニ島のホテルでは全日本の合宿が始まる。

部屋割りのぐあいでは、僕は見慣れない女性たちと相部屋になる。
一番痩せた女性が

一日だけだからね。

となぐさめる。

練習はきつい。

放射能の珊瑚礁をスラロームしながら 線を飛び越え、 線を
くぐる。 線は蹴飛ばすつもりで行け。

これが日本水泳陣のコーチの指導だった。

三日経っても同じ部屋での合宿だ。

男部屋に入ってみると、布団がみつっつ敷かれているだけ
だ。

なんで自分だけ女性と相部屋なんだろう。

初めて疑問を持つ。

大部屋に女性が入ってきて、何かをいくつか持って出て行く。

女性部屋にもどり、ベランダから海を観ていると、ゴジラがやって来る。第五福竜丸の被爆事故と同時に生まれた放射能怪獣だ。

檻ごしにゴジラの大きな目が僕をにらむ。

突き刺すような視線ではなく、まるで星空をでも眺めているような、焦点の合わない濁った目。

彼にとって、僕はミミズほどの大きさもない。

m o r i t a がキャプテンに選ばれた。

集会やらイベントでは先頭に立たされて、皆の視線を浴びる。

対人恐怖の m o r i t a にとっては困った状況ではある。泳ぎは一流なのだが。

対人恐怖症というのは神経症の一種で、病名があるからにはそれなりの治療法がありそうなものだ。

が、m o r i t a は対人障害を抱えたままで全日本の長になる。

皆の目が先頭の m o r i t a に注がれる。

うしろ向いてくれや。

m o r i t a がたのむと全員がうしろを向く。
ステージ上の古橋廣之進がやりにくそうに訓話を話す。

富士山はトビウオでないといかん。

m o r i t a がうなずく。

全選手たちは、体育館のたたまれたバスケットボールのリング
を見ている。

びろし君の話・ことばの星灯り

びろし君の話・ことばの星灯り

一九九一年四月七日

よくかんがえと
みよくなまえだ
こころくん

わたしがせきにんをとる
あんしんしていじめられておいで

一九九一年四月十日

てのひらとあしうらのあせで
きみがせいしんてきに
はりつめていることがわかるよ
がんばっているんだ

一九九一年四月十二日

こころくんのころには
ちいさななみが
わたしのころには
よどんだかわが
ある

一九九一年四月二十二日（再掲）

みどりのかぜのしばふに
こころをねかせて
とおくからみていたら
ほかにだれもいなくて
せのひくいしよくぶつのようだった
きみはかぜにうごくきだった
ぼくはみなみはんきゅうの
ぽぷらをおもった
きはおしえてくれるね
こころのことを

一九九一年四月二十五日（再掲）

からだかたちかおこえ
こころのどれもが
ぐたいてきすぎて
じゆうなしにならないの
こまっ たな

てつがくでもしようかな
こころをてつがくして
てつがくのしをかくの

一九九一年四月三〇日（再掲）

こころがまだうみだったころ
ぼくはこころからじゆうだった
こころがまだそらだったころ
ぼくはこころからじゆうだった
こころがこころになったころ
ぼくはこころのとりこになった

一九九一年五月一日（再掲）

ひろしくん
おんがくかの
きたいをこめて
こころに
あこーでおんを
おくる

七月のカレンダー・一九八二年

七月のカレンダー・一九八二年

一日（木曜）	バイト打ち合わせ	午後一時から
二日（金曜）	帰省 オートバイ	海
三日	オートバイ	滝
四日	オートバイ	いもと
五日（月曜）	集中講義	アライさん
六日（火曜）	集中講義	さぼり オートバイ（タカハシ）
ノと与作		オギ
七日（水曜）	集中講義	タカハシ・スズキ『これがあのスイカか』
事件		
八日（木曜）	集中講義	クラナガ アライさん
九日（金曜）	集中講義	アライさん ヨシムラとマクド
十日		雷雨
十一（日曜）	心理学会バイト	ウエダさん 雨
十二（月曜）	心理学会バイト	ウエダさん
十三（火曜）	心理学会バイト	ウエダさん、オギノ、イシグロ、
	ミキくん	で樹氷
十四（水曜）		
十五（木曜）	クラナガ風邪	母に電話
十六（金曜）	ホリグチと与作	
十七（土曜）	サカイ、クラナガ	
十八（日曜）	アサノさんと大文字山	イシグロ、カタオカ
十九（月曜）	入院	
二十（火曜）	手術	

- 二一
- 二二（木曜） 見舞・オギノ
- 二三
- 二四
- 二五（日曜） 見舞・アサノさん
- 二六（月曜） 退院 スギト、カタオカ
- 二七（火曜） クラヌキさんの見舞にバプテスト フクダ、ミキくん
- 二八（水曜） サトウと大阪、三井ビルステーキ事件
- 二九（木曜） 帰省 綾部まわりで
- 三十（金曜） カワシマ、ビール事件 オートバイ
- 三一（土曜） おとうとと河野海岸へ

大学を留年中の出来事だと思うのだが、意外に行動的なのに驚く。
で、ほとんど毎日飲んでるわけだ。

「星の海」・ホタルイカの身投げ

「星の海」・ホタルイカの身投げ

海を見下ろす高い崖の上に立っていた。

夜中だというのに、まわりには大勢の観光客。カメラを三脚に固定して崖の下の海を狙っている。

富山名物のホタルイカの身投げを撮影しようとしているのだ。

海が穏やかで、月の明るい夜にホタルイカが光る。

星の海とも呼ばれている。

ふと隣を見ると一人の少女。

白のワンピースを身につけている。少女の視線の先を追うと、月あかりの中、テトラポットの先端に一羽のカモメが止まっていた。

波のしぶきが目には見えない粒となり、僕の口の中に入って来る。

少女が僕の背中をトンと押した。

あまりに突然だった。

身体に吹いてくる風を感じながら、僕は悟る。

落ちて行くということは、恐怖心さえなければ、たやすい。

8月のカレンダー・1982年

8月のカレンダー・1982年

1982年8月1日 日曜日

- - - - -

雨

1982年8月2日 月曜日

- - - - -

いつもとおなじ

1982年8月3日 火曜日

- - - - -

いつもとおなじ

1982年8月4日 水曜日

- - - - -

いつもとおなじ

1982年8月5日 木曜日

- - - - -

いつもとおなじ

1982年8月6日 金曜日

- - - - -

夜行列車で島根まで

午後九時三十三分、京都駅西口に集合。イシグロ、わたしの両親はアルコールの匂い。

午後十時、噴水の約束の場所。アライさんとオカダさんが現れる。水着ではない。

午後十時半、全員が集合。

イシグロ、スギト、クボタ、植木、オオムタ、カタオカ、オカダさん、アライさん。

午後十時五十二分、ようやく発車。
全席指定。散らばっていたのだが、徐々に集まる。

となりの通路側の家族連れ。
幼稚園ぐらいの男子が頭を通路側にして熟睡。
他人事ながら心配。

午前零時。
オカダさんはすぐに寝る。

植木氏、カタオカ氏、クボタ氏が持ち込んだビール、樹氷、ウ

イスキーを飲んで騒ぐ。

素面のオオムタはイヤホンでラジカセを聴いている。
アライさんも。

イシグロとスギトは人間カラオケで二十二歳の別れを放歌斉唱。

となりの家族連れは引っ越し。

鯖江市河和田町15-12・暗い満月の夜に

鯖江市河和田町15-12・暗い満月の夜に

群れるのが嫌い。

頼むのも。

断られるのが。

ふくいに帰省して昼寝の前にキリンなど飲んでいると、親戚中
が訪ねて来る。

足はもう良いのか？

正座は出来るんか？

いざらんでも良いのか？

と聞いてくる。

『いざる』って？

って聞くと

これが『昭和』のいざりやわの。

っておばさんが畳の上を移動する。

もう治らんのではないか。

と言つ親戚もいる。あちらこちらで

障害者年金

とか

精神の異常
神経衰弱

と言つ声が聞こえる。

僕が立ちあがる。

あなたたちがどう思おうと良いのです。

僕自身が、今の状態に満足であれば正常なのです。

両親も含めて親戚中がどよめく。

やつちゃんは変わった。

九州から来ていたアイコおばちゃんが言う。

僕がアイコおばちゃんの腹をさする番だ。

また、出来ちゃってね。

美しい。東の空の赤い満月のように。

夢日記・知らない時間知らない場所にじゅっこめ

夢日記・知らない時間知らない場所にじゅっこめ

一九八一年十一月三〇日 光る水の夢

一九八一年十二月一日 カメラ アイコおばさん 朱色の鳥居
D P E 屋

一九八一年十二月二日 首に子どもたちに点滴

一九八一年十二月三日 人殺しのカップル 警察

一九八一年十二月四日 一 マリア先生 ロッドスチュワート
合唱 ドボルザーク 楽譜なし ピンクのドレス

二 下駄箱 チョークで名前

三 ホリグチの鍵

四 店番

五 海 黒い学生服

六 ユングの偽札 精神科医がユング

に飲み込まれる

一九八一年十二月五日 一 両親の車にガソリンをまく

二 膝に血が滲む

一九八一年十二月六日 一 駅 じつと見る 居酒屋

二 タモリとセックス 母の侵入

最近、わたしの嫁がエフエックスちゅうのを止めたらしい。金儲けの事はさっぱりなのだが、潔い覚悟だけは持ちたいと思う。

生命表なるものがネットにある。

<http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/life/20th/sh01.htm>

これを参考にする限り、わたしが明日死ぬ確率は250分の1だ。参ったな。このお盆の同窓会には100人いたから、なんと5分の2だ。降参だ。

Kunming, the capital of South China,

Kunming, the capital of South China / Arrival

The third day dawned.

The train ran through the plateau for a long time.

Everywhere on the plateau, we saw many more working cattle than men.

I and REIAI were sitting on the spare chair of midnight, and were looking at the cattle.

I did not understand why, but spare chairs of the corridor were full.
No one spoke.

The train arrived at the terminal
"Kunming Station".

I arrived, but I did not have any purposes.
We were left behind at the station.

I asked REIAI what I should do for her.

"Let's look for a hotel."

Sage was blooming everywhere in the city.

We walked straight towards the north along the main street of six traffic lanes.

That was because everyone walked in that direction.

REIAI who I thought walked my left side disappeared.

Suddenly, I found she was walking along the opposite side walking over six lanes of cars.

I saw her going into a fruit shop.

It seemed she was talking about something with a clerk.

I slowed my walking pace.

Soon, avoiding a lot of cars, REIAI ran through the six lane

s and came to me .

Many times long horns .

She passed me a Pepsi .

"It is dangerous for you to ru
n to me" I said .

REIAI laughed in Chinese .

8月のカレンダー・1982年その貳

8月のカレンダー・1982年その貳

1982年8月7日土曜日 島根着

午前一時二十六分

福知山。『大仙』待ちで臨時停車。

『こんぴらまんじゅう』（クボタが持参）を食う。

ラジカセをゴムひもで固定してさだまさしを聴く。イシグロが

その一角が、だんだん植木の部屋に似てきた。

と言う。

酔った植木氏がラジカセを床に落とす。所有者のカタオカが青ざめる。

――
午前六時五十五分

島根の米子駅に到着。

レンタサイクル。その前に朝食。

イシグロはビョーキで駅長の世話になる。植木氏、ビョーキをうつされて単独で民宿へ。

- - -
昼、出雲大社参拝。

和紙の上にコインをのせて池に浮かべる。
その人の未来を占う。

オカダさんの紙は沈まず、ムキになって石を投げつけ沈める。
アライさんは予感通り、紙を浮かべる前にコインを池に落と
てしまう。

- - -
夕方、二階のつるの間に集まる。
テレビでは何気なく朝鮮の人々が野球をやっている。ここは何
処だ。

- - -
夜、ビール。ウイスキーも。
オオムタがオセロでアライさんに負ける。
その前に花火大会。

しおのいいたえの話・ことばの星灯り

しおのいいたえの話・ことばの星灯り

一九九一年五月九日

すずみはじぶんが

おかあさんになったことを

しらなかったよ

ぼくが

おかあさんにかーねーしょんをおくったとき

一九九一年五月十日

ぼくはこころのしを

つづけたいとおもっている

けれどはるやすみのしゆくだいたい

ゆっくりとおくれていく

きづくと

ひやくねんまえのことをかいている

一九九一年五月十四日

ひとは

こころくんのことを
だいぶつくんとよぶ
けれど

こころは

じぞうさんだよ

やさしい

やさしい

じぞうさんだよ

一九九一年五月十五日

こころのないいえは

ごはんもふたり

おふろもふたり

たりない

ひとりたりない

一九九一年五月十六日

こころはしぬのかな

ぼくはしぬんだよ

すずみもしぬよ

でも

こころがしぬとは

しんじられないんだ

一九九一年五月二十日

はじめることより

つづけることのほうがむずかしい

つづけることより

おわることのほうがむずかしい

とやまけん しおのいいつたえより

"Mr. Watson! Come here; I want

”Mr. Watson! Come here; I want
you!”・アレクサンダー・グラハム・ベル

電話の音がして、僕が出る。

あの一。

と向こう。声で祖母とわかる。

ヤスヒロですが。

しばらく話が通じない。

すみません。

と僕が謝まる。

向こうが

という花は……

と話してくる。花に関する質問だった。

母にかかってきた電話だとわかる。母は婦人会の花壇委員会だった。

母にかかります。

受話器を置いて母を捜す。

電話機のある箱作りの部屋には父がいた。天井まで積み上がった段ボール。裁断機でグサリグサリと段ボールを切っている。

黙ってキセルを吸う。

ザクリ、ザクリ。

父の脇の階段を登り船の甲板に出ると、二谷英明が母と話している。フランス語での会話だった。

大学でフランス語を第一外国語とした僕だったが、フランス語だとわかるだけで内容は理解できずにいる。

フルールという発音があちこちに聞こえる。

電話です、とフランス語に出来ず母に話しかけられずにいる。

フォンコール！

って英語には出来るのに。

8月のカレンダー・1982年その参

8月のカレンダー・1982年その参

1982年8月8日曜日

- - - - -

島根の民宿 西亀荘でのめざめ

- - - - -

午前八時起床。

朝食中のテレビでは高校野球。

木造高校が初回到三者連続三振。途中から完全試合の予感。

- - - - -

午前九時半

木造高校最後のバッターがデッドボール。
完全試合はならず。

- - - - -

午前十時半

稲佐の浜海水浴場に到着。

監視員のおんちゃんの放送。

死んでも知らんで！。

とのアナウンス。

植木氏とカタオカで砂浜をほじり出す。貫通トンネル構想が持ち上がる。

- - - - -

昼飯。

浜茶屋『白砂』、サザエ飯600円。

オオムタは鰻丼。

ふたたび海水浴。

砂浜トンネル完成。植木氏とクボタ、トンネルの中でしっかりと握指。

- - - - -

夕方。

灯台へ。

アライさんは高い所が好き。

高所恐怖のオオムタ、『想像力の欠如だ』と批判。

『でも、ジェットコースターの先頭だけは大丈夫。』と言う。

- - - - -

夜。

カタオカダブルゲンガー事件。

- - - - -

1982年8月9日月曜日

- - - - -

島根から鳥取に移動 イシグロの家

1982年8月10日火曜日

- - - - -

鳥取 イシグロの家

1982年8月11日水曜日

- - - - -

鳥取 イシグロの家

「底の海」・さかな泳ぎ

「底の海」・さかな泳ぎ

海を泳いでいた。

深い海の底を泳いでいた。光がまったくとどかない。

目がつぶれたのだと思い込んでいたが、深海だったからだ、何も見えない。

覚えたてのさかな泳ぎで僕はどちらかに進んでいた。

僕のそばを小さな魚の群れが通り過ぎて行くのを感じた。進化の過程で、人間が忘れた感覚を取り戻し始めていた。

深海の海流を読み、塩分濃度を読み、磁力線を読みながら泳ぐ。

さかなには時間がない。

あるのは潮の流れだけだ。流れが変わると方向が変わる。

潮がふたつみつつ変化した時だった。

僕の見えない目の前に突然に銀の魚が現れた。銀は必ず輝く、たとえ光のとどかない深海であつても。

銀がこの海底の光をすべて吸収したかのようにだった。銀の魚は鱗の中から鈍い銀の光を放っていた。

銀の魚が口を開ける。

僕はそれと知りながらさかな泳ぎを続ける。

銀の魚の大きく開いた口の中へと。

九月のカレンダー・一九八三年

九月のカレンダー・一九八三年

1983年9月1日 木曜日

- - - - -

スーパーマン3

ミキ君と

1983年9月2日 金曜日

- - - - -

南極物語

学生相談室

1983年9月3日 土曜日

- - - - -

イトウ、カタオカ、イシグロ、スギト、クボタ
みそらで飲む

1983年9月4日 日曜日

- - - - -

バイト（寿司屋）

+6000円

カタオカ
ウイスキー

1983年9月5日月曜日
- - - - -

アウトサイダー

1983年9月7日水曜日
- - - - -
別離宣言

ホリグチ
吾作

1983年9月8日木曜日
- - - - -
禁酒

京一会館
獄門島
疑惑
天国と地獄

1983年9月9日金曜日

- - - - -

イシグロ、カタオカ、ヤマムラさんで酒

1983年9月10日土曜日

- - - - -

ミキ君と酒

1983年9月11日日曜日

- - - - -

フリーボックス8ミリ上映会

1983年9月12日月曜日

- - - - -

バイト（衛生ボーロ）

+5000

禁酒

1983年9月13日火曜日

- - - - -

祇園会館

エンドレスラブ

だいじょうぶマイフレンド

1983年9月14日水曜日
- - - - -

別れの挨拶

1983年9月16日金曜日
- - - - -

倉光先生

サトウ、クボタ、飯名が君、フクダ
吾作

1983年9月17日土曜日
- - - - -

イシゲロ

酒

1983年9月18日日曜日
- - - - -

カタオカ、イシゲロ

下痢

1983年9月19日月曜日
- - - - -

バイトx

1983年9月20日火曜日

- - - - -

みゆき

うる星やつら

ナイン

下痢

1983年9月21日水曜日

- - - - -

悲しみよこんにちは

青い珊瑚礁

下痢

1983年9月22日木曜日

- - - - -

寝てばかり

ヤマムラさん、クボタ

酒

1983年9月23日金曜日
- - - - -

温泉中止

ホリグチ、オオニシ

1983年9月24日土曜日
- - - - -

ヤマムラさん、アライさん、ゴマジリさん、フクダ、カタオカ、イ
シグロ、スギト、クボタ

ちくわ

1983年9月25日日曜日
- - - - -

アライさん、清水、スギト、カタオカ、ヤマムラさん

ちくわ

1983年9月26日月曜日
- - - - -

ホリグチ

時計

傘

旅行
- 1983年9月30日金曜日
-
-
-
-
-
-
-
-

吾作

ホリグチ
- 1983年9月29日木曜日
-
-
-
-
-
-
-
-

台風

カミヤ、サトウ
ビリヤード
- 1983年9月28日水曜日
-
-
-
-
-
-
-
-

台風
- 1983年9月27日火曜日
-
-
-
-
-
-
-
-

湯ノ花温泉

この時期も飲んでばかりいるが、映画も観てる。父が東宝の株を所有していたので株主優待券を持っていた事もラッキーだった。

群馬県みなかみ町・ホテルのフロント係

群馬県みなかみ町・ホテルのフロント係

面接に行くと数人のホテルマンと向かい合う事になる。

中年の紳士が聞く。

その格好には何か主張があるのですか。

僕はフセに借りたアロハシャツを着ていた。南国の花の中に九官鳥みたいな鳥が大声をあげていた。

聞かれるのも当然で、面接会場にやって来る人たちは誰しもがスーツ姿だ。

荷物を船便で送ったので、日本には服がないのです。

嘘と言えば嘘だが、本当の事もあった。

面接から二週間ほどして採用通知が届く。

九月のはじめからホテルで働き始める。
みなかみ温泉にも外国人観光客が多くやって来る。そこで、中国語が喋れる僕が採用されたのだ。

フロントにマモルの弟がやって来た。
分裂気質の持ち主ではないかと僕が思っている男だ。
挨拶をすると、ジロリと睨んでくる。彼独特の挨拶だ。

隣の電話が鳴り、大木さんが受話器を取る。

植木さん、自転車屋から電話です。

三台ある電話のうちの一台だった。

はい、植木ですが。

あのー、上野さんですか。こちらオギノと申します。

上野ではございません、植木です。

あー、上野さんじゃない？

はい、植木と申します。

それじゃあ、上野さんと呼んでください。

お部屋はどこでしょうか。

二一だと思つのですが。蔣経国と言う中国人と一緒に泊まっているはずですから調べてください。

宿帳を調べるが上野さんは見当たらない。

第一、うちの温泉ホテルに中国人が泊まるはずがない。

さくらの枝の話・ことばの星灯り

さくらの枝の話・ことばの星灯り

一九九一年五月二十二日

あきおさんをふくいまでおくる
わいどみらーにうつってた
かおはおとろしくなかった

ひとこともくちをきかなかったけれど

おなじじどうしゃに
のったのはこれがかいめ
とやまのそうしきからのかえりと
こんどのにかい

ひとこともくちをきかなかったけれど

一九九一年五月二十四日

こころのこのじは
こだまのこのじ
こころのこのじは

ろめいしのろのじ
きよじんのあのろは
いまいずこ

一九九一年五月二十九日

つちにさされた
さくらのえだのように
こころ
そだて

一九九一年五月三十日

ずいずいずつころばし
ごまみそずい
ちやつぽにおわれて
とつぴんしゃん
ぬけたーらどんどこしょ
いったいどこがおもしろいんだよ
こころつたらわかんねえやつだな

一九九一年六月一日

はと しーそー えーこーぷ
こころのころもがえ
みなづきにうまれたひと
ひでゆきくんが
よんじゆうよんてんをとったひ
じゆうなれんそうのひ

一九九一年六月四日

こころせんぱいがわらった
ここちゃんかわらった
こころくんかわらった
ここべえかわらった
ころすけかわらった
だいぶつくんかわらった
ぼくちゃんがわらった
こころがわらった
どれもがちがうこころ
ちがうこころにちがうなまえをよぶ

こーちゃん こーちゃんの話・ことばの星灯り

こーちゃん こーちゃんの話・ことばの星灯り

一九九一年六月十一日

こころ

きみがこころでよかった

ほかの

だれもこころはあわない

きみは

とりかえのきかない

こゆうめいしなんだ

一九九一年六月二十日

のじくんで

かじのさくぶんかいたひとだけど

ふしぎ

おとしだまぜんぶちよきんするんだって

つつちよのすうじが

ふえていくのがかいかんなんだって

わからないなあ

一九九一年六月二十五日

つかれたなら
ねむりなさい

ねむりながら
ほほにふれた
なつのはじめ
こころのゆび

一九九一年七月二日

あめのおくるひの
しばふひろばのまんなかは
たんぐつにみずのはいったような
おとがあるくとした
ぼくたちはよこになれず
ただきをみていた

一九九一年七月三日

あきおさんがせんきょかに
のっているあいだに

ぼくたちはたきをみていた
たきのかぜはいわはだのくさの
はのうえのほうをふいていた
ふかれていたのはよんひきの
しろいちょうで
こころはしろいかぜをおったが
しろいちょうがしろいはなにとまると
ぜんぶがなくなるみたいだった

たきのみずはこころがなくほど
つめたくぼくがはいると
いたくてきょねんとおなじだった
あのとときこころはまだなかった
あつたのはわたしとすずのふたりだった
しろいはなにとまつたしろいちょうのように
こころははじめからわたしたちのなかに
とまっていたのかもしれない
みえなかったけれど
とまっていたのかもしれない

一九九一年七月五日

わたしたちにいま
かけているのは
かぞくとしての
ほうこうせいだと
おもいながら
ぱちんこをする

一九九一年七月二十二日

こんなふうにして
きらいに
なっていくのかな
すずがきづいた

きょうとによる
わたしたちはあらしのやまで
きやくじんとともに
わらいながらとうふをたべた
こころはゆれる
ちようちんをみていた

一九九一年七月二十四日

いつものへや
いつものいす
さるひのことをおもうつと
このいえにもなみだがでるね
けれどよげんどりのかぜがふいて
わたしたちはまたここにうちあげられるかもしれない

一九九一年七月二十八日

こころくん かわいいね
おかあーさんとねんねしよ
こころくん いいこだね
おかあーさんとねんねしよ
ここちゃん こーこちゃん
おやすみ*な*さ*いー

おかあさんがつくったこもりうた

「底の海」・死の総体

「底の海」・死の総体

銀の魚の中も闇色だった。

僕は自分のからだがゆっくりと溶けて行くのを感じた。足の先が溶けて行く。指先が溶けて行く。皮膚が溶けて行く。

僕のからだは銀の魚になって行く。

こころが先に溶け、それからからだ溶けて行くようだった。

おそらく魚は僕のように思考しない。もう二度と人間らしく考える事もなくなるだろう。

僕は銀の魚の青い血液になった。

消化管から吸収された僕は、肝臓で青い血になった。

心臓におくられ銀の魚の全身に行き渡る。僕が完全に彼になるまで、心臓で何度もシャフルされた。

僕は銀の魚になった。

彼の魚眼を通して世界を見渡した。

魚の世界だった。僕のからだは僕のものではなかった。僕の思考も僕のものではなかった。

銀の魚が飲み込んだすべての生き物のものだった。

死の総体としての銀の魚。

僕は死んだが、僕は死んでもいない。

岩手県遠野市土淵町・光る水、半分燃え落ちる実家

岩手県遠野市土淵町・光る水、半分燃え落ちる実家

公園の水たまりが黄色く光る。

遠足の帰りのバスの中で母が乗客に質問する。黒くて長い糸を持っている。

これは何に使うのでしょうか。

乗客たちは何も知らない。
僕がヒントを出す。

国語、文法、助動詞、むむずましけむらん。

母は決してうなづかない。

真夜中の月明かりをうけて水たまりが真紅に点滅する。

実家の母屋が燃え始める。

ウルトラマンが現れ、延焼を防ぐのに迷う。

全部壊すのはもったいない。こちら側に崩せば犠牲者が出

る。向こう側に崩せば隣の家が巻き添えを食う。

帰ってきたウルトラマンがこちら側に家を倒して飛び去る。シ
ユワッチ。

半分燃え尽きた実家を見て、母に『光る水』の事を知っている
のかと聞く。

知っている。夜中、ふと目覚めて見た事がある。

と言う。

そこから何かが生まれる。

とも言つ。

父が何処かに出かけようとする。

犠牲になったふたりの子供の弔いに行つて来る。

母が慌てて通夜の準備を始める。

火事の原因はあの『光る水』だった。燃やし尽くさなければな
らない。

マッチを持った軍手に赤い水がしみ込んでしまう。

軍手を地面に脱ぎ捨て火をつける。軍手が干からびる。

僕はカルデラのようになった公園の水たまりに、火のついたマツチ棒を落とす。水たまりが瘡蓋のように盛り上がる。

七月のカレンダー・一九八三年

七月のカレンダー・一九八三年

1983年7月1日金曜日

- - - - -

クラナガ

1983年7月3日日曜日

- - - - -

欠席届六号

オオニシ

ホリグチ

吾作

1983年7月4日月曜日

- - - - -

スターウォーズ?

1983年7月7日木曜日

- - - - -

輪島の民宿

ホリグチ

オオニシ

1983年7月8日金曜日

- - - - -

輪島の民宿

ホリグチ

オオニシ

1983年7月9日土曜日

- - - - -

輪島の民宿

ホリグチ

オオニシ

1983年7月10日日曜日

- - - - -

宇奈月温泉

ホリグチ

オオニシ

1983年7月11日月曜日

- - - - -

奥飛騨温泉

ホリグチ

オオニシ

1983年7月24日日曜日

- - - - -

おとうと

京都に

1983年7月25日月曜日

- - - - -

おとうと

京都に

1983年7月26日火曜日

- - - - -

おとうと

京都に

1983年7月27日水曜日

- - - - -

おとうと

京都に

1983年7月28日木曜日

- - - - -

いもうとと

TDL

1983年7月29日金曜日

- - - - -

いもうとと

TDL

1983年7月30日土曜日

- - - - -

いもうとと

TDL

- - - - -

いもうとと寝台列車に乗りTDLへ行ったのは、いもうとが小学六年生だった。ということは、おとうとは高校三年生。

その夏に京都の予備校の夏期講習を受けたのだった。わたしはまあ、のんびりしたもので、温泉に行ったり酒を飲んだりして卒業をひきのばしていた。

一九九四年のゆりいか秘話のはじまり・ことばの星灯り

一九九四年のゆりいか秘話のはじまり・ことばの星灯り

一九九四年一月十三日

私の楽観的な観測によれば

ここ2、3年のうちに

マックのソフトはドス上で動くようになるし

ドスのソフトはマックで動くようになる

だから

おかあさん、心配しないで下さいね

マッキントッシュ・カラークラシック

買いました

一九九四年一月十四日

おかあさんが里帰りからかえってきた
よなかうるさい

でんわなら

もうねるからって

きれるのに

一九九四年一月十七日

今日はおかあさんの免許書き換えで
私も一緒に福井の春江まで行つた
おかあさんは私の付き添いだと思われて
緑の部屋にはいるのを止められた

モロッコのパスポート事件を思い出す

ここはおばちゃんにみてもらう
ゆりいかもうすぐ現れる気配

おかあさんはけっしてじつとしていないよ

一九九四年一月十九日

せんたあしけんも終わって
なかたにくんともこれでおわかれ
さよならのあいさつこそしなかつたけれど
なんというかまあ
てつたえることがなくなつたわけです

またひまになつたら

てがみでもかこう

たぶんろくにんをすることになるんじゃないかなあ
とにかくきのうなかにくんとのかんけいは
しぜんしょうめつしたわけです

なかにくんのおかあさんと
15ふんほどはなしたあと
たてつけのわるいどあをあけるを
ゆきでした

ゆきのなかに
なかにくんのおかあさんが
たってみおくって
くれました

きょうもゆきです

一九九四年一月十九日 弐

ゆきがふってます

昨日は酒をコップ一杯に控えたので

きょうあたり

せいっぱいのみたいもんだが
おばちゃんのはいきゅうがないことには

はじまらないのだ
まいったなあ

一九九四年一月十八日

あのね
きょうところはね
じこうほいくえんで
おわかれをいったの
おかあさんといっしょに
おとうさんといっしょに
えんちょうせんせいにあって
おじぎしたの

それから
にゅうえんめんせつのこどもたちにまじって
あそんで
いつものとうり
おばちゃんにむかえにきてもらったの
おかあさんは
とてもつかれたんだって

一九九四年一月十八日 弐

ゆりいかのへやを
はーどでいすくに
かいせつしたのはいいが
なんのかきこみもない
ゆりいか
ごめんの

「微分方程式」・法定速度に関して

「微分方程式」・法定速度に関して

わたしは渋滞が好きだ。

特に巻き込まれるのを好む。今まで見た事もない角度から物事を見る事の出来る渋滞が。

世には制限速度がある。

正式には

法定最高速度

と言う。

算出には微分方程式を使う。想定しうるあらゆる初期条件、例えて言えば設計速度などを方程式につっこんで、コンピュータに何年もかけて計算させるのである。

事故やゴミの落ち具合、お天気からお元気まですべて予測出来る。

微分方程式の発想はこうだ。

例えば、ある物体の現在の位置、速さ、加速度、お天気、お元気度など初期条件がわかったとする。

でも1時間後とか1年後の予測はほとんど不可能。

だったら。

とニュートンは考えた。

千分の一秒後、もつともつと限りなく0に近い未来なら、ある程度の予測は可能だ。

それで微分を考えだした。初期条件さえしつかりしていれば、直後の未来は予測できる。やるなあ、ニュートン。

無知蒙昧な愚民は、あの丸30括弧だとか、丸40括弧、丸50括弧と言つものを官憲が適当につけていると思っている。

が、わたしたちの知っている微分積分のひとつの応用例としての微分方程式が導き出した極めて正確なる数値なのだ。

だから

法定最高速度を超える事は事故につながる可能性が非常に高い。それなのに。

世の運転免許を持つドライバーには肝に銘じてもらいたい。

あなたのその＋10キロメートル／時は違反である。道路交通法、ニックネームは道交法を守らない奴はとんでもない破廉恥野郎だ。

死ぬ確率を、癌よりも、自殺よりも、老衰よりも高めているからである。

わたしは、道路標識の丸40括弧や丸50括弧に感敏である。一方通行の標識よりも感敏に反応する。

特に注意すべきなのが、ご存じの通り

丸50括弧から丸40括弧に変わるところ。
しかも晴天。

あれはヤバイ。

わたしは常に法定最高速度遵守だから一度もつかまった試しがない（飲酒運転をのぞく）。

本日も白バイをみつつ見かけた。

ここからはわたしの息子、東大で

確率はエネルギーである

ちゅう理論によりノーベル物理学賞をもろた理ゐ式君のツイノベルを引用してこの講義を締めくくる事にしたい。

@clclccorro

#townovel

公路には必ず制限速度というものがある。私は生まれてこの方、それを破ったことがない。ただの一度もだ。それゆえ、地元ではちよつとした有名人になっている。いつも私の後ろにはまるで金魚の糞のような長蛇の列ができる。そう、私は渋滞を呼ぶ男。

がっはっは。

ダンシング・オールナイトでも歌いたい気分じゃ。

血のような夕陽・東尋坊展望台

血のような夕陽・東尋坊展望台

カメラを構えると、礼服を着た紳士淑女が海をバックにこちらを見る。

東尋坊の崖の上の展望台。

神無月の午後五時の夕陽が素晴らしい。

結婚式に集まった人々を撮る、親戚の顔も多い。三脚を固定し、水準器で傾きを確認する。

ファインダーをのぞく。

中央の和服の女性が傾いている。端っこはもう少しつめてください。

人々の背後が気になり始める。

海に真紅の鳥居が無数に沖まで続いている。伏見稲荷神社の千本鳥居のように、異界へのトンネルのようにも見える。

後方からいくつかの救急車の音が近づいて来る。
振り返り確かめる。

交通事故でもあったのだろうか。

ふたたびファインダーをのぞくと紳士淑女が血だらけだ。
手に手に点滴のビンを持っている。

望遠をきかせて中央の和服の女性を見ると、首に点滴の針が刺さっている。和服のままでは静脈が見つからなかったのだろう。

さあ、笑ってください。

わたしはタイマーを15秒に合わせてシャッターを切り、中央の和服の女性の前まで走りしゃがむ。

パシッ！

フラッシュ光。

Kunming, the capital of South China,

Kunming, the capital of South China/
Find a hotel of 48 floor

It was past about noon that we
arrived at KUMING hotel. The
dormitory was full.

Only vacant was a suite.

REIAI asks me.
I answer.

If we had other rooms available
ble in this town.

I answer by the subjective mood.
od.

There was a hotel we walked for
five or six minutes, but was
fully occupied.

The WAHEI hotel was fully occupied,
ied, too.

Kokusai Hotel was fully occupied.
The youth hostels were fully occupied, too.
Hotel Silvia was fully occupied.
The hotel Chang'an was fully occupied, and the hotel Blue Engineering tower was fully occupied, too.

REIAI praised the usage of the
subjunctive mood of mine.

We back to the !st HOTEL we visited.

After the elevator went up to the twelfth floor, we were let into the vacant room.

A spacious reception room, a bedroom with 2 semi-double beds, and a marble bathroom with toilet.

I handed a tip to a girl of wind dance, and we opened the wind

o w o f t h e b e d r o o m .
I h a d a b i r d ' s e y e v i e w o f t h e
w h o l e K U N M I N F G c i t y .

彼女はツバメだったのか、それとも少年だったか

彼女はツバメだったのか、それとも少年だったか

彼女は確かにこのビルの屋上から飛び降りた。
けれど、彼女がツバメになったことも確かだ。

僕はただ、この確かなふたつの事実を信じられずにいる。

僕は彼女のあとを歩いていた。

正面の回転ドアからこのビルに入った。

彼女は何も言わなかったが、僕は気づいていた。

彼女は死ぬ。

街で、教室で、階段で、ハンマーで叩かれて彼女は粉々になる。
それを彼女はポケットにつめこむ。

破片でドレスは買えない。

彼女はお金を買いに行く。破片は高く売れた。

彼女はツバメになった。

エサを取る、飛ぶ、エサを取る、飛ぶ、余計なものは一切ない。

彼女と僕は九階の踊り場まで登った。

今日みたいな雨の日に死ぬのは素敵よ。
傘のおかげで誰も見てないし。

少年は白いカモメになった。

白いカモメになるには悲しいココロがいる。

白いカモメが夢の海にどんどん集まってくる。
仲間なんていない。ただ風に逆らい舞い上がるだけだ。

次の島はどこにあるのだろう。

船が見えたらおりてみよう。魚捕りの人間がいたら

カアッ！

と叫んでやる。生きている事を見せつけてやる。

船の先回りをして、魚たちに逃げ場所を教えてやろう。
駄目だ、駄目だ、そっちは駄目なんだ。

腹のすいた魚たちは、腹のすいた人間たちにつかまってしまう。
どちらもクズだ。クズのような命だ。

船から離れると星だけがたよりだ。

夢と象徴の意味するもの・ユングの偽札作り

夢と象徴の意味するもの・ユングの偽札作り

小学校の頃だったろうか、僕はアベ先生に良くしてもらった。家にまでお邪魔してソロバンの稽古をみてもらった。

夏休みには庭の見える縁側でジュースやお菓子をもらった。

アベ先生の授業を受けたことがあったっけ？先生の担当科目は？思い出せずにいるが、先生のピンクのドレスから見えた胸の谷間の深さだけは鮮明に覚えている。

ドボルザークの『新世界より』をクラスで聴いていたのだった。楽譜を配るのに、僕の目の前で先生がかがんだ。

前かがみになった瞬間、僕には先生の胸が見えた。痩せてはいたが、だらんとやわらかな胸がぶら下がっているのが見えた。

アベ先生の家の店番をたのまれた事もあった。当時はバナナを買う子どもたちが多かった。

これも夏だった。

店番をしていると、若い女性客に

マスのスシありますか。

と聞かれる。『今日は仕入れてないんです。』と返事をすると、女性は家の奥の方に入って行く。

午後五時のサイレンが鳴ると、子どもたちが家路につく。奥から女性がピンクのドレスを着て店にあらわれる。

目の前の海では若者たちが海水浴を楽しんでいる。ふと自分の格好を見ると、黒い学生服に制帽である。

つけていたラジオからのニュースが聞こえ始める。

スイスの

とアナウンサーが伝える。

心理学者、カールグスタフ・ユング博士が

と続ける。河合隼雄先生の師事したユング博士である。

偽札を作っていた容疑で逮捕されました。

なんで偽札なんか。

そうつぶやくと、あのピンクのドレスの女性が『シーッ』と発音しながら、一指しし指を僕の唇に押しあてる。

ゆりいかが生まれたよ・ことばの星灯り

ゆりいかが生まれたよ・ことばの星灯り

一九九四年一月十八日

ところで

ゆりいかくんよ

いつつまれるよていにいるの

こっそり

おしえてくれたまえ

そのひだけ

おさけをやめるから

そのひだけ

しごとをやめるから

いいですか

さもないと

よっぱらいのおとうさんが

きみのうまれたずいぶんあとから

あいいくびょういんに

ふつかよいのあたまで

たずねていく

そういうことになるからね

かくごしたまえ

一九九四年二月六日

おひさしぶりです
おげんきですか
ゆりいはまだ
おかあさんの
なかです

一九九四年一月六日とちよつと

いよいよですが
わたしはもうなんにちもなんにちも
のんだくれています
おかあさんのぶんべんに
たちあわなくてもいいように

一九九四年一月十六日

ゆりいかのへやがうまれたのが
さくねんの12がつ
けれど
まだからっぽ
ゆりいかのじつぶつは
にがつのようかにうまれたというのに

一九九四年一月十六日リーク

これはないしょだけど

おかあさんたら

ゆりいかのことを

へんなかをとおもってたらしいんだ

はじめのうちはね

でも

さいきんはそうでもないらしいけど

一九九四年一月十九日

ゆりいかのたんじょうきねんに

あかいじどうしゃをかった

こころもさんせいしているといっていたが

さだかではない

みっちゃんが

ぱそこんをかいいたいとかなんとか

ようちえんで

えふえむたうんずをどうにゆうしたらしい

一九九四年一月十五日

ひろしくんが

とうとうおみあい^にせいこうしたらしい

でんわもつけたし

とうきょうとおおさかで

あいをはぐくむのか

かつこよすぎるぜ

とよだみなさん

わたしにもすこしは

あいをください

かみさん

一九九四年一月十七日

でんわにてゆりいかなきごえをきく

これはこころのうたにもかいたことがあるなあ
ここに

いやゆりいかにしかられそう
ぐれないでね

とにかくまだあいちやくがわからないの
ああ

またぼけつをほってしまった

きみのおむつをほんかくてきにかえるまで
わたしには

きみのことをかたるしかくはないのです
ゆるしてください

うんちのおいで

わたしはちちになるのです

夢日記・知らない時間知らない場所十三月

夢日記・知らない時間知らない場所十三月

一九八一年十二月七日

- 一 屋根の上 黒人女性のアソコ
- 二 下駄箱の上 メモ
- 三 母の朝飯
- 四 精神神経科待合室 給水器

一九八一年十二月八日

- 一 女性 尾行
- 二 便所 尾行

一九八一年十二月九日

- 一 のぞみちゃん 尾行
- 二 ヘルメットをかぶつての水泳

一九八一年十二月十二日

- 一 Y看護師に膝に注射をされる
- 二 青虫が八ちに
- 三 フルートの不調和音

一九八一年十二月十六日

- 一 のぞみちゃん サンドイッチ
- 二 エイ、タコの頭、バク、典子は今
- 三 刑事がクスリ

一九八一年十二月十七日

- 一 いもうと 右手の人差し指がぼろり

一九八一年十二月十八日

- 一 歯医者で歯がコポツとぬける
- 二 三組のふとん
- 三 売春婦のいもうと

ノートのすみに

去勢不安 さがす 去勢不安 かくす 殺し 分身 かくす
殺し 分身 去勢不安 かくす 殺し 分身 かくす 殺し 分身
かくす

繰り返しテーマ

とある。

ママが医学博士になる気分

ママが医学博士になる気分

" M. Ueki, + J. Fujihara, + H. Takeshita, + K. Kimura, * R. Iida, + T. Nakajima, + Y. Kominato, + I. Yuasa, T. Yasuda: Genetic and expression analysis of all non-synonymous single nucleotide polymorphisms in the human deoxyribonuclease I-like 1 and 2 genes. Electrophoresis, 31, 2063-2069, 2010.07, #3.077, DOI; 10.1001/elps.2010000002"

782

とうとうママが医学博士になる。

試験管にこまごめペットやら突っ込んだり、顕微鏡のぞいたり、ラットのフンの世話をする日常、もちろんアンポンタンな医学生の面倒も見なければならない。

DNAの研究をする日々だったようだ。

筆記試験も通過し、試験官の前での発表と口頭試問をパスしたと言っ。

ママは努力のひとつである。

地方大学でコツコツと日々研究を続けてきた。パパとの日々も同じような努力を続けていたのかも知れない。

息子のわたしは、と言うと

菓子食って寝てるひと

なのである。

なんとなく東京大学を出た。が、金儲けがきらいで8年かかって卒業した。

のちにノーベル賞に輝く

確率はエネルギーである

ちゅう理論がまだ認められていない。

認められるのにあと35年もかかる。鬼籍に片足突っ込んだ頃に受賞が決まるとはノーベルもクズだ。

パパも菓子食って寝てるひとだった。

つまり生産的な事は何もしなかった。部活動と称してテニスの試合を好きな仲間とやっていた。

コートを予約するのに、電話ではなくクルマで実際にコートに足をはこび、見定めていたようだ。つまるところ暇だったのだろう。

何もしていない。

いやパパの書いた小説がネット上のどこかにあるはずだ。確か『かくされし座』いや、『虚とテキスト』だったか。

写真もいらんほど撮っていた。

あれもネット上には残っているに違いない。

パパにはかつて10人の弟子がいた。ネット上でかき集めた弟子だ。みたむらさんも良い迷惑だ。毎月、弟子集会といっては飲み歩いていたと聞く。

子供はわたしとむすめのふたり。

わたしは東京へ行き、いもうとは関西に行った。

ママ、おめでとう、医学博士。

貴女が死んでからで悪いけれど、ノーベル賞を捧げます。いもうとにも。

パパにはスエーデンの高濃度の酒を。

夢日記・知らない時間知らない場所 新しい年が来る

夢日記・知らない時間知らない場所 新しい年が来る

一九八一年十二月十九日

- 一 教室でカードが三×三枚配られる
黙る担任 ミズカミのコンサートスケジュールを見せてもらう
二 風呂場の入り口がいかに狭いか
三 押入れの中 三組のふとん

一九八一年十二月二十二日

- 一 白状するには自白室が必要なのか
二 老人の胸の上でつま先立つ伊藤み

どり

一九八一年十二月二十三日

- 一 日本国有鉄道 通路にふとんが三
組

二 老人がガムを噛む 飲み残しの缶
ビールをかくす 黒いクルマからの銃撃

- 三 バレーボール 朱色がかったボー

ル

一九八一年十二月二十七日

- 一 大学の大教室
- 二 マスタベーションの写真を撮られる
- 三 幼稚園時の写真 分身体験 ボク
がここにある

一九八一年十二月二十八日

- 一 朝礼 カバンの中のカメラ
 - 二 カメラ キャップをはめたままだ
 - 三 キキキリンと望みちゃん 石に関
 - 四 食堂 イモの注射をされる ヤメ
テ！
- 係ある仕事に就く

一九八一年十二月二十九日

- 一 ふたりの姉妹 『アンネの日記』
- 二 奥田の自転車 リンゴ 居酒屋お
くちゃんへの配達

一九八一年十二月三十一日

- 一 マラソンの写真を撮られる ラジ

カセから森進一のおふくろさん 戻ってオフにする

二 寮の食堂に忘れ物、ヘルメット

真っ黒なドレスの女 雨 転倒

ノートのすみに

ちゃんと単位を取っていれば、来年は卒業のはずだった。

とある。

東山今出川百万遍・ミモザ館

東山今出川百万遍・ミモザ館

交差点

長電話で時間をつぶしている少年たち

放課後の時間割

わたしの自由な時間を

あなた

この道はどこまで続いているのか
終わりがあるのなら

僕はここで立ち止まりたい

放課後の時間割

午後五時のさようなら

わたしの未来を

あなた

あなたとの約束でうめつくしたい

あかんあかん

酔っぱらった若者とすれ違った

難しい歌を歌っていた
滅茶苦茶に上手い

完全なコピーやる
それ

のど自慢は良い

音痴良し

踊り良し

最近の若いもんは歌が上手すぎる

人を嫌いになるために

人と知り合うみたいだ

僕の場合

まだ

死にたくない

なんて考えているくせに

タバコを吸ってみたり

酒を浴びてみたり

死を近づけてばかり

ひよいと窓から
浪人中のフセがのぞいたり

京都市バス特十七番・自分に気のある女

京都市バス特十七番・自分に気のある女

久しぶりに市バスに乗っている。

わたしは、バスの入り口がいかにかに狭いかを乗客に説明する。幅がちょうど肩幅しかないし、高さも身長半分。入り口にはウレタンマットがつまっており、頭からグイグイと入らないとバスに乗れない。

わたしの隣に、わたしに気のある女性が乗りこんで来た。隣に座るということはそういうことだ。

『こんな女でも我慢して寝るか』

などと思っていると、孫をふたり連れた老人が何かを床に落としたようで探している。

バスが動いているので見つけるのは難しい。ガムが転がってしまっからだ。

「ガムですか？ガムだったらそこですよ。」

わたしは入り口の近くの整理券発券機の近くを指す。

老人はガムを発見できない。

老人は目が見えないのだ。
通路にある灰皿をつかもうとする。

「それは違います。もうちょっと右。」

老人があっさりガムをつかむ。

わたしは飲み干した缶ビールを窓から投げ捨てる。

捨てられた缶ビールは、アスファルトの上をコロコロと転がり、
海の手前で止まった。

他の乗客たちが、缶ビールを海に落とそうと物を投げつける。

黒く長い棺桶のようなクルマがバスの横を走る。

殺し屋が弾を撃ってくる。わたしの隣の女がまず殺される。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7159u/>

隠されし座・京都テキスト

2011年11月24日19時49分発行